

# 研究紀要

## 第 33 号

---

### (目 次)

#### <論 文>

文禄四年大和国太閤検地帳の基礎的研究 …………… 則 竹 雄 一 … 1

#### <教育実践報告>

シェイク・マスト・ゴー・オン …………… 柳 本 博 … 41

#### <論 文>

Beyond My Little Horizons :

A Recount of Setting Foot in 50 Countries …………… Jun Harada …(1)

#### <教育実践報告>

2015 年夏に行われた歴史研究部部員と旧制獨逸學協会中学校

昭和 20 年卒業生との懇談会記録 …………… 兼 田 信一郎 …(17)

#### <研究ノート>

アクティヴ・ラーニングとパッシヴ・ラーニング

— 授業内での ICT 機器活用について …………… 青 木 輝 憲 …(45)

---

2018

獨協中学校・高等学校



# 文禄四年大和国太閤検地帳の基礎的研究

社会科 則 竹 雄 一

## はじめに

文禄四年には大和国において豊臣秀吉直臣を奉行とする惣国検地が行われたことは周知のことである。しかし、管見ではこの検地に関する専論はない。奈良県では県史編纂も行われていないため、各市町村史においてそれぞれに関わる範囲での概略的な説明がなされているに過ぎない。本稿では市町村史での記述を参考にしながら大和国太閤検地帳の基礎的な特徴を見ることにしたい。『大和郡山市史』には「大和国に残る文禄検地帳」として一覽表を掲げ、一八八ヶ村の検地帳の残存が指摘されている。<sup>1)</sup> その他の自治体史の記述などから知り得た情報を付け加えて作成したのが表1で二九一ヶ村の検地帳が確認できた。本来検地帳の分析には、形態を含めた様々な情報を確認する必要があるが、全ての原本を確認することは困難であり、慶長三年越前検地帳の時と同様に、自治体史史料編で刊行されている検地帳を中心に分析を行いたい。<sup>2)</sup> また、史料編では自治体史の常でページ数をとる検地帳の掲載から、本文が省略されることがままあり、省略されることの少ない「奥書」<sup>3)</sup> 寄せ部分の検討を中心とすることになる。

## 1、大和国における豊臣期検地の実施について

天正十三年（一五八五）閏八月に大和一国を領していた筒井定次は、豊臣秀吉から伊賀移封を命じられ、大和国は秀吉の弟秀長が封ぜられ郡山城に入城することになる。秀長は同年の紀州征伐後に和泉・紀伊両国を任せられ六四万石を領していたが、大和国加増で約一〇〇万石を領することになった。これにより秀長の大和国支配政策がはじまり郡山入部と同時に、閏八月二四日に多武峰僧徒に対して弓鏑鉄炮以下一切の武器所持を禁止する所謂、刀狩りを命じている。刀狩りと共に検地も順次行われ、文禄四年惣国検地に至るまでには、次のような大和国における検地が行われたことが指摘されている。<sup>3)</sup>

- ① 天正十三年閏八月～十二月 奈良検地
- ② 天正十四年九月～十月 興福寺領検地
- ③ 天正十五年十月 十津川郷検地
- ④ 天正十九年八月 奈良検地
- ⑤ 文禄二年十二月 宇智郡検地

①の検地を示す史料としては、天正十三年閏八月二十日付け興福寺寺務領指出があり、大乘院から伊藤掃部秀盛に対して寺務領の指

出を行っている（『大乘院文書』『広島大学所蔵猪熊文書』福武書店一九八三年）。また、「序中漫録」所収文書として天正十三年九月二十三日と十二月五日付けの「奈良垂井郷家屋敷地子指出」二通がある（『奈良市史』通史三）。しかし、あくまでも寺領の指出と奈良垂井（奈良市樽井町）地子の指出であり丈量による検地が行われたとは確認できていない。

②は豊臣秀長から興福寺へ寺領の指出が命じられたものである。『多聞院日記』天正十四年八月二十日条に「先年惟任・滝川来テ国ノ指出之時ト、今度寺門指出相違、可有糺明之由從郡山申来、八千石程相違ト云々」とある。天正十四年に興福寺が提出した指出による石高は、織田信長時代の天正八年に明智光秀と滝川一益に提出した石高と八千石も相違する事から、郡山の秀長から説明を求められたことが記されている。これは天正十三年同様の寺領「指出」が命じられただけと見られるが、天正十四年の葛下郡大屋村検地帳（成實堂文庫大乘院文書）をはじめとする大乘院領検地帳写（表3参照）や天正十四年十月二日付け添上郡大安寺村検地帳（『奈良市史』通史三）があり、指出だけでなく丈量検地が確認されることになる。また、『多聞院日記』天正十五年八月朔日条には「去年検知ニ礼ヲ仕タル曲事トテ、國中庄屋衆卅七人籠者了ト」あり、前年の検地の際に苦心を加えてもらおうと賄賂を送った庄屋三七人が罰せられたことが記されている。賄賂事件の背景には、寺社からの指出ではなく、在地での実際の検地がなければならぬ。大和国での明確な丈量検地は天正十四年からということになろう。

③は周知のように天正十五年十月十日・十一日付け吉野郡十津川

郷の検地帳十冊が残されている。<sup>6</sup>「一所」という記載がほとんどで面積を記さないという山村検地の特徴を色濃く残す検地帳となっている。秀長の家老として十津川検地を進めた小堀正次も天正十五年十一月三日付け書状（十津川郷宝蔵文書『十津川』）では、玉置山の天正十五年の検地に対して要請を受け入れて小堀が取り次ぎをおこない豊臣秀長の検地免除の許可をもらったことを伝えている。本来、玉置山領と見られる西川（十津川村）・玉置下郷（不明）の検地実施免除が行われた。先の十津川郷検地帳以外の地域での検地が予定されていたことがわかる。このように天正十五年は十津川地域で広く実施された検地であった。従来、この検地が大和国全体にわかる惣国検地であったかどうかは不明と見られてきたが、前年の高市郡・添上郡、十五年の吉野郡での検地事例を見ると散発的ではあるが、秀長による領国内惣検地であった可能性があらう。

④は『多聞院日記』天正十九年八月十六日条に「京終田地検知二両門・東大寺以下出了」とることによる。「京終」とは奈良のことと見られ、興福寺（一乗院・大乘院）・東大寺への指出が再度行われたことを示している。しかし「田地検知」を丈量検地を指すと理解すればこれらの寺領での指出でない検地が実施されたことになる。成實堂文庫大乘院文書には、天正十九年八月の辰市八条領検地帳など三冊の検地帳写があることから、指出ではなく丈量検地の実施が裏付けられる。豊臣秀長は天正一九年正月二十二日の郡山で病没し、秀長は子がなく嗣養子の甥秀保が跡を継いでいる。両寺領の検地は代替わり検地で、秀保の最初の和支配政策であったと言えようか。

⑤については文禄二年一二月三日往け「坂合部郷河南方」と題する

村高目録(『五条市史新修』)がある。その表紙に「コホリシン介殿御ケンチ」と記され、目録に記載される九ヶ村の村高が豊臣秀保家老の小堀正次による検地の結果であることがわかる。

文禄四年(一五九五)四月十六日に非業の最期を遂げて、郡山にはのちの五奉行のひとりである増田長盛が入部した。これにより本格的な大和惣国検地が実施される。大和二〇万石は増田の領地となったが大和国で展開される検地は、増田の領国検地ではなく秀吉の家臣が検地奉行として多く参加する典型的な太閤検地である。

『多聞院日記』文禄四年四月条に「増田右衛門尉へ郡山ノ城被下、當国ニテ廿万石被下歟云々、則八月十七日ヨリ惣国ノ驗知在之、過分ニ打増、百姓迷惑如何可成哉、寺門へも知行不渡、九月十九日伏見へ寺僧廿人登り取ニ被出了」と郡山に入城した増田長盛が、八月十七日から大和惣国検地を開始した根拠となっている。ところが後述するように残存する検地帳の日付では、石田三成家臣とされる黒川右近の名がある平群郡総持寺村検地帳の八月十五日が初見である。このことから、増田長盛の大和入部よりも先行して惣国検地が開始されていたと見られる。文禄四年九月八日付け石田三成家臣安宅秀安の書状(相良家文書『大日本古文書』相良家文書二)には、「和州御検地ニ付、治部少彼地逗留候」とあり、この時点で大和国検地のために「治部少」<sup>8</sup> 石田治部少輔三成が大和国に滞在していたことを示している。その後、八月から九月にかけて順次大和国内の村々で検地が行われ九月二十一日には終了したものと見られ、国内の領主や寺社に対する知行安堵状が発給されている。ただし、九月以降の日付の検地帳もあることから、その後も補足的な検地が継続されたと見られ、その結果とし

て文禄四年十月十五日付け金剛山大宿宛の増田長盛判物では、金剛山への宇智郡小阿井村十石が寄進されている。

文禄年間、畿内とその周辺で惣国検地が集中する期間にあたる。伊勢、摂津・河内・和泉、そして大和と続く。伊勢・和泉の検地際には検地条目が発給されている。ここに示される検地原則は、太閤検地の基本原則として理解され、大和検地での条目は発見されないが、他の文禄検地条目の原則が適用された典型的な太閤検地として自治体史では記述されている。

## 2、文禄四年大和国太閤検地帳の「奥書」記載

自治体史料編に記載される検地帳を整理して一覧表のしたのが表2である。これから「奥書」部分についての分析を行いたい。

### (1) 「奥書」記載項目の形態

文禄四年大和国太閤検地帳の「奥書」の一番多くの記載項目を示すのは次のような事例である。

【史料1】和州式下郡内いねい村御検地帳(村井由直文書)

(表紙・本文省略)

壱石六斗代

上田 式拾四町七段三畝廿七步

壱石三斗五升代 三百九拾五石七斗六升

中田 三町三段式畝拾式步

壱石壹斗代 四拾四石七斗六合

下田 壱町拾六步 壱斗五升

壱石壹斗代

下田 壱町拾六步

表2 文禄四年大和国大内郡地帳付本一覽

郡名	村名	現在地名	年月日	系紙		番行	記載型	字	品位	間敷	面積	分米	注記	その地	地目別	面積	分米	年月日	番行名	年	冊付	圧塵	原写	所蔵	出典	
				巻名	地名																					
1	添上	上三橋	文禄8年8月23日	大和国添上郡上三橋村御後地帳	大和国添上郡上三橋村御後地帳	博田右衛門尉打口長田	混合	○	3						○	合計	合計	文禄4乙未年8月23日			36上		奈良大火焼失	大和郡山布史資料集		
2	添上	番匠田中	文禄4年8月18日	大和国上郡番匠田中村御後地帳	大和国上郡番匠田中村御後地帳	博田右衛門尉打口河橋	混合	◎	3						◎	合計	合計	文禄4年8月18日	河橋善斎(花押)		22上			伊井文庫	大和郡山布史資料集	
3	添上	櫻枝	文禄4年8月18日	大和国添上郡櫻枝村御後地帳	大和国添上郡櫻枝村御後地帳	博田右衛門尉打口神山左近右衛門	混合	◎	3						◎	合計	合計	文禄4年8月19日	神山右近右衛門		61上			西田耕三	大和郡山布史資料集	
4	添上	石川	文禄4年8月18日	大和国石川村御後地帳	大和国石川村御後地帳	博田右衛門尉打口石川	混合	◎	3						◎	合計	合計	文禄4年8月18日	堀与兵衛(花押)		37上			石川町区有文書	大和郡山布史資料集	
5	添上	榮志院	文禄4年8月19日	大和国添上郡榮志院村御後地帳	大和国添上郡榮志院村御後地帳	博田右衛門尉打口真田	混合	○	4						○	合計	合計	文禄4年8月19日	景田七郎次郎		37上			越智治文書	大和郡山布史資料集	
6	添上	中城	文禄4年8月8日	大和国添上郡中城村御後地帳	大和国添上郡中城村御後地帳	博田右衛門尉打口森島	混合	◎	3						◎	合計	合計	文禄4年8月8日	森嶋源七良利在					中城町区有文書	大和郡山布史資料集	
7	添上	若槻	文禄4年8月19日	大和国添上郡若槻村御後地帳	大和国添上郡若槻村御後地帳	博田右衛門尉打口須江	混合	○	3	間半	○	○	地名	番匠	○	合計	合計	文禄4年8月22日	須江金藏・安井彦介					喜多芳之文書	大和郡若槻庄史料集一巻	
8	添上	櫻本	文禄4年8月24日	大和国添上郡櫻本村御後地帳	大和国添上郡櫻本村御後地帳	博田右衛門尉打口深尾半兵衛	混合	◎	4	間半	○	○	地名		◎	合計	合計	文禄4年8月24日	平井弥四郎(花押)					大和寺因書	改訂天理布史資料編第五巻	
9	添上	楳	文禄4年8月20日	大和国添上郡楳内村御後地帳	大和国添上郡楳内村御後地帳	博田右衛門尉打口深尾半兵衛	混合	○	4	間半	○	○	地名		◎	合計	合計	文禄4年未8月20日	深尾基六		72上			大和寺因書	改訂天理布史資料編第五巻	
10	添下	山田	文禄4年8月18日	大和国山田村御後地帳	大和国山田村御後地帳	博田右衛門尉打口	混合	◎	4	間半	○	○	地名		◎	合計	合計	文禄4年9月11日	井上新介貞口(印)		91	○			山田区有文書	大和郡山布史資料集
11	平群	豊安増	文禄4年8月23日	大和国平群郡豊安増村御後地帳	大和国平群郡豊安増村御後地帳	田島混和屋敷別	混合	○	4	x	○	○	地名		○	合計	合計	文禄4年8月25日						天理因書	改訂天理布史資料編第五巻	
12	平群	空目	文禄4乙未年8月29日	大和国平群郡空目村御後地帳	大和国平群郡空目村御後地帳	牧野伝藏	混合	○	3	間半	○	○	地名		○	合計	合計	文禄4乙未8月26日	牧野伝藏		39			天理因書	大和郡山布史資料集	
13	平群	蓬田	文禄4乙未年8月29日	大和国平群郡蓬田村御後地帳	大和国平群郡蓬田村御後地帳	田島混和屋敷別	混合	○	3	間半	○	○	地名		○	合計	合計	文禄4乙未8月26日	出所御印		24			天理因書	大和郡山布史資料集	
14	平群	岡崎	文禄4乙未8月29日	大和国平群郡岡崎村御後地帳	大和国平群郡岡崎村御後地帳	矢野兵衛(花押)	混合	○	4	尺子	○	○	地名		○	合計	合計	文禄4乙未8月20日	形有之儀		80			天理因書	大和郡山布史資料集	
15	平群	額田	文禄4年8月20日	大和国平群郡額田村御後地帳	大和国平群郡額田村御後地帳	田島混和屋敷別	混合	○	4	尺	○	○	地名		○	合計	合計							天理因書	大和郡山布史資料集	
16	平群	五百井	文禄4乙未8月	大和国平群郡五百井村御後地帳	大和国平群郡五百井村御後地帳	口(松田)十六夫	混合	○	3		半	○			○	合計	合計	文禄4年9月9日	石田治部少輔打口		36			大和郡山布史資料集	大和郡山布史資料集	
17	山辺	仁興	文禄4乙未8月	大和国山辺郡仁興村御後地帳	大和国山辺郡仁興村御後地帳	混合	混合	○	3	x	半	○			◎	合計	合計				69			山辺区有文書	改訂天理布史資料編第四巻	

18	山辺	楯之尾	天理	文禄4年	御姥地焼之尾村	混合	○	3 × 3	○	○	地名	◎	合計	合計	文禄4年 乙未9月	印			茶桑心、楯 山折共	天理図書 史料編第四巻	写 原	天理図書 山原家文 史料編第四巻
19	山辺	内馬	天理	文禄4年 乙未9月	大和国山辺郡内 馬場村御姥地焼	混合	○	3 ×	○	○	地名	◎	合計	合計	文禄4年 乙未9月	印	24上 紙除			天理市史 史料編第四巻	原	山原家文 史料編第四巻
20	山辺	布留	天理	文禄4年 乙未9月	大和国山辺郡布 留村御姥地焼	混合	○	3 ×	○	○	地名	◎	合計	合計	文禄4年 乙未9月	印	22上 紙共			天理市史 史料編第四巻	原	岡田家文 史料編第四巻
21	山辺	豊井	天理	文禄4年 乙未9月	大和国山辺郡豊 井村御姥地焼	混合	○	3 ×	○	○	地名	◎	合計	合計	文禄4年 乙未9月	印	34上 紙除			天理市史 史料編第四巻	原	豊井区有 文書
22	山辺	溝上	天理	文禄4年 乙未9月	大和国山辺郡溝 上御姥地焼	混合	○	3 ×	○	○	地名	◎	合計	合計	文禄4年 乙未9月	印	90上 紙共			天理市史 史料編第四巻	原	菅田家文 史料編第四巻
23	山辺	田部	天理	文禄4年 乙未9月	大和国山辺郡田 部村御姥地焼	混合	○	3 ×	○	○	地名	◎	合計	合計	文禄4年 乙未9月	印	47			天理市史 史料編第四巻	写	奈良図書 館文書
24	山辺	杉本	天理	文禄4年 乙未9月	大和国山辺郡杉 本村御姥地焼	混合	○	3 × 3	○	○	地名	◎	合計	合計	文禄4年 乙未9月	印	41上 紙共		寛政2年写	天理市史 史料編第四巻	写	榎本家文 史料編第四巻
25	山辺	平等	天理	文禄4年 乙未9月	大和国山辺郡平 等村御姥地焼	混合	○	3 × 3	○	○	地名	◎	合計	合計	文禄4年 乙未9月	印	29			天理市史 史料編第四巻	原	天理図書 館文書
26	山辺	小路	天理	文禄4年 乙未9月	大和国山辺郡小 路村御姥地焼	混合	○	3 × 5	○	○	地名	◎	合計	合計	文禄4年 乙未9月	印	34			天理市史 史料編第四巻	原	天理図書 館文書
27	山辺	喜殿	天理	文禄4年 乙未9月	大和国山辺郡喜 殿村御姥地焼	混合	○	3 ×	○	○	地名	◎	合計	合計	文禄4年 乙未9月	印	36上 紙除			天理市史 史料編第四巻	原	喜殿区有 文書
28	山辺	田井	天理	文禄4年 乙未9月	大和国山辺郡田 井村御姥地焼	混合	○					○	合計	合計	文禄4年 乙未9月	印	39			天理市史 史料編第四巻	写	田井庄区 有文書
29	山辺	富堂	天理	文禄4年 乙未9月	大和国山辺郡富 堂村御姥地焼	田畠混 合	○	3 ×	半	○	地名	◎	合計	合計	文禄4年 乙未9月	印	x			天理市史 史料編第四巻	写	小竹家文 書
30	山辺	岩室	天理	文禄4年 乙未9月	大和国山辺郡岩 室村御姥地焼	混合	○	3 ×	半	○	地名	◎	合計	合計	文禄4年 乙未9月	印	70			天理市史 史料編第四巻	原	岩室区有 文書
31	山辺	井戸	天理	欠								◎	合計	合計	文禄4年 乙未9月	印	113			天理市史 史料編第四巻	写	東井戸堂 区有文書
32	山辺	九条	天理	文禄4年 乙未9月	大和国山辺郡九 条村御姥地焼	混合	○	3 ×	半	○	地名	◎	合計	合計	文禄4年 乙未9月	印	74			天理市史 史料編第四巻	原	天理図書 館文書
33	山辺	備前	天理	文禄4年 乙未9月	大和国山辺郡備 前村御姥地焼	混合	○	3 ×	○	○	地名	◎	合計	合計	文禄4年 乙未9月	印	37上 紙除			天理市史 史料編第四巻	原	備前区有 文書
34	山辺	台場	天理	文禄4年 乙未9月	大和国山辺郡台 場村御姥地焼	混合	○	3 ×	半	○	地名	◎	合計	合計	文禄4年 乙未9月	印	36上 紙除			天理市史 史料編第四巻	写	台場区有 文書
35	山辺	小嶋	天理	貞享元年 甲子9月	大和国山辺郡小 嶋村御姥地焼	混合	○	3 ×	半	○	地名	◎	合計	合計	文禄4年 乙未9月	印	65所 紙除		貞享元年写	天理市史 史料編第四巻	写	東田家文 書
36	山辺	蘆幡	天理	文禄4年 乙未9月	大和国山辺郡蘆 幡村御姥地焼	混合	○	3 ×	○	○	地名	◎	合計	合計	文禄4年 乙未9月	印				天理市史 史料編第四巻	原	蘆幡区有 文書
37	山辺	上ノ庄	天理	欠		混合	○	3 ×	半	○	地名	◎	合計	合計	文禄4年 乙未9月	印	51			天理市史 史料編第四巻	原	二所上ノ 庄区有 文書
38	山辺	荒藤	天理	文禄4年 乙未9月	大和国山辺郡荒 藤村御姥地焼	混合	○	3 ×	半	○	地名	◎	合計	合計	文禄4年 乙未9月	印	34			天理市史 史料編第四巻	原	荒藤区有 文書

39	山辺	稻葉	天理	文禄4年 乙未9月 日	大和国山辺郡稻 葉村御後地帳	混合	○	3	×	○	地名		◎	合計	合計	文禄4年 乙未9月 日	印	47上 紙除		原 文書	改訂天理市史 史料編第四巻
40	山辺	山田	天理		文禄後地帳	混合	○	3	×	半	地名		×	合計	合計	文禄4年 乙未9月 日	印	35		原 文書	改訂天理市史 史料編第五巻
41	山辺	佐保 庄	天理	文禄4年 乙未9月 日	大和国山辺郡佐 保庄御後地帳	田・鳥・ 鷹敷別	○	3	×	半	地名		◎	合計	合計	文禄4年 乙未9月 日	印			原 有文書	改訂天理市史 史料編第五巻
42	山辺	三味 田	天理	文禄4年 乙未9月 日	大和国山辺郡三 味田村御後地帳	混合	○	3	×	半	地名		◎	合計	合計	文禄4年 乙未9月 日	印			写 有文書	改訂天理市史 史料編第五巻
43	山辺	新泉	天理	文禄4年 乙未9月 日	大和国山辺郡新 泉村御後地帳	混合	○	3	×	半	地名		◎	合計	合計	文禄4年 乙未9月 日	印			原 文書	改訂天理市史 史料編第五巻
44	山辺	岸田	天理	文禄口 日	大和国山辺郡岸 田村御後地帳	混合	○	3	×	半	地名		◎	合計	合計	文禄4年 乙未9月 日	印	55		原 文書	改訂天理市史 史料編第五巻
45	山辺	中山	天理		文禄四年後地帳 中山村	混合	○	3	×	○	地名		◎	合計	合計	文禄4年 乙未9月 日	印			原 文書	改訂天理市史 史料編第五巻
46	山辺	成願 寺	天理	文禄4年 乙未9月 日	大和国山辺郡成 願寺村御後地帳	混合	○	3	×	○	地名		◎	合計	合計	文禄4年 乙未9月 日	小堀新介	43上 紙共	元治元年補 修	写 有文書	改訂天理市史 史料編第五巻
47	山辺	團原	天理		大和国山辺郡團 原村御後地帳	混合	○	3	×	○	地名		◎	合計	合計	文禄4年 乙未9月 日	在判	10		原 文書	改訂天理市史 史料編第五巻
48	式上	柳木	天理	欠		混合	○	4	×	○	地名		◎	合計	合計	文禄4年 9月吉日	小堀新介	191 上紙 共		原 書	改訂天理市史 史料編第五巻
49	式上	渋谷	天理	文禄4年8 月29日	和州城上郡渋谷 村御後地帳	混合	○	3	×	半	地名		◎	合計	合計	文禄4年 9月吉日	小堀新介 印	25上 紙共		原 文書	改訂天理市史 史料編第五巻
50	城上	芹井	桜井	文禄4年8 月20日	大和国城上郡芹 井村御後地帳	右衛門・伝 助五郎門 九口衛門	◎	4					◎	合計	合計	文禄4年 9月20日	小堀新介	23上 紙共	元和9年写 办	写 有文書	改訂天理市史 史料編第五巻
51	城上	滝倉	桜井		和州城上郡滝倉 村御後地帳	寺本仁右衛 門印	◎	4					◎	合計	合計	文禄4年 8月23日	小堀新介 (印)	22		原 文書	改訂天理市史 史料編第五巻
52	城上	三谷	桜井	文禄4年8 月18日	大和国城上郡三 谷村御後地帳	九口衛門・ 勘五郎	◎	4					◎	合計	合計	文禄4年 8月18日	小堀新介 (印)	55上 紙共		原 文書	改訂天理市史 史料編第五巻
53	城上	笠	桜井		表紙欠		◎	4					◎	合計	合計	文禄4年 8月20日	小堀新介 (花押)		文化5年写	写 有文書	改訂天理市史 史料編第五巻
54	城上	芝	桜井		文化5	御後地口口	◎	4					◎	合計	合計	文禄4年 9月吉日	小堀新助	○		写 有文書	改訂天理市史 史料編第五巻
55	式上	茅原	桜井		大和国式上郡茅 原後地帳		◎	4					◎	合計	合計	文禄4年 9月日	小堀新助	38上 紙共		写 所収	改訂天理市史 史料編第五巻
56	式上	大泉	桜井	文禄4年8 月29日	和州式上郡大泉 村御後地帳	寺本仁右衛 門印	◎	4					◎	合計	合計	文禄4 年9月 吉日	印	60		原 文書	改訂天理市史 史料編第五巻
57	式上	穴師	桜井	明治4年 辛未9月	和州式上郡穴師 村御後地帳		◎	4					◎	合計	合計	文禄4年 9月吉日	小堀新助	○		写 有文書	改訂天理市史 史料編第五巻
58	城上	備後	桜井	文禄4年9 月吉日	大和国城上郡備 後村御後地帳	勝介・口足	◎	4					◎	合計	合計	文禄4年 9月吉日	小堀新介 (印)	38上 紙共		原 有文書	改訂天理市史 史料編第五巻
59	城上	大田	桜井	文禄4年9 月吉日	大和国城上郡大 田村御後地帳	勝介・林足	◎	4					◎	合計	合計	文禄4年 9月吉日	小堀新助	○		写 有文書	改訂天理市史 史料編第五巻
60	城上	大豆	桜井	文禄4年	和州城上郡大豆 村御後地帳	源町	◎	3					◎	合計	合計	文禄4年 9月吉日	小堀新介	21上 紙共		原 文書	改訂天理市史 史料編第五巻
61	城上	江包	桜井	文禄4年8 月26日	和州城上郡江包 村御後地帳	寺本仁右衛 門印	◎	4					◎	合計	合計	文禄4年 9月吉日	小堀新介 (印)	32上 紙共		原 文書	改訂天理市史 史料編第五巻
62	城上	栗殿	桜井	文禄4年8 月26日	和州城上郡栗殿 村御後地帳	武石衛門・ 寺本仁右衛 門印	◎	3					◎	合計	合計	文禄4年 8月25日	小堀新介	67上 紙共		写 有文書	改訂天理市史 史料編第五巻
63	城上	赤尾	桜井	文禄4年8 月26日	和州城上郡赤尾 村御後地帳	佐石衛門・ 佐石彦	◎	3					◎	合計	合計	文禄4年 9月吉日	小堀新介	11上 紙共		写 有文書	改訂天理市史 史料編第五巻







① ②  
 壹石式斗代  
 上畠 拾町七段三畝式拾三步  
 百式拾八石八斗五升二合  
 壹石代  
 中畠 壹段五畝式拾三步  
 壹石五斗七升四合  
 八斗代  
 下畠 式段八畝式拾歩  
 式石三斗  
 壹石式斗代  
 屋敷 五段九畝式拾歩  
 七石壹斗六升八合

③  
 田畠  
 合三拾九町八段五畝式拾三步  
 居屋敷  
 此分米  
 合五百八拾石五斗壹升内  
 五石四斗壹升 永荒  
 壹石六斗六升 当荒

文禄四年  
 八月日 長束次良兵衛(花押) ..... ⑤  
 右六尺三寸之竿ヲ以五間六拾間三百歩壹反定也、 ..... ⑦  
 墨付之紙数七十枚上紙ハ此外也、 ..... ⑧  
 拾式間  
 屋敷 拾五間半 五畝廿五歩 七斗 庄ヤ 藤七郎 相除之  
 右紙之とちめく印判在之 ..... ⑩

①②部分は地目(田・畠・屋敷)品位(上・中・下)別にそれぞれ  
 の面積合計と分米合計と斗代を記載している。③④は部分は地目別項  
 目を集計して総面積と総分米(村高)を記載している。⑤⑥は年月日  
 と検地担当奉行名と署名である。⑦は長さと同面積の単位定めである。  
 ⑧は検地帳帳簿の紙数である「墨付」である。「墨付」については、

慶長三年越前検地帳の場合、奥書に記載されなときは表紙に記載さ  
 れ、ほぼ全検地帳に記載されていることを指摘した。大和検地帳では  
 ⑦⑧薬王寺村検地帳の事例があるのみでこれを除くとほぼ奥書の必  
 須項目として記載される。⑨部分は庄屋屋敷の年貢除地の記載であ  
 る。⑩は検地帳の綴じ目の印判記載の注記である。「とちめ印判」は  
 検地帳の表紙にある綴じ糸の上部に押されるものと各頁間に押され  
 るいわゆる割り印を指すと見られる。これらから記載項目で分類する  
 とI型、X型 となる(表4を参照)。

I型: ①地目別面積分米、②斗代、③面積合計、④分米  
 合計、⑤年月日、⑥奉行名、⑦単位定、⑧墨付、⑨  
 庄屋除地、⑩綴目印

この型はすべての項目を記載するもので、担当奉行長束長吉の場合  
 のみがこれにあたり、唯一⑩綴目印項目がある型である。なぜ長  
 束長吉の場合のみに⑩項目があるのかは不明である。一五事例の中で  
 ⑥9が記載項目順が①②③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩と⑧墨付が最後に記載  
 される事例で、⑦1が記載項目順が①②③④⑤⑥⑦⑧⑨と⑦単位  
 定が年月日の前に、⑧墨付が最後に記載される事例で、記載順が  
 異なる場合があるが、いずれにしても全項目記載では共通している。

II型: ①地目別面積分米、②斗代、③面積合計、④分米合  
 計、⑤年月日、⑥奉行名、⑧墨付、⑨庄屋除地

この型はI型から⑦⑩項目を除いた構成となり、担当奉行井上新  
 介と増田長盛の事例が一事例・二事例ある。但し井上場合は⑧項目と  
 ⑨項目の順番が逆になっている。増田の⑨項目では庄屋名しかなく、

表4 「奥書」記載項目整理表

形態	奉行	冊数	地目別 面積①	斗代 ②	面積 計③	分米 計④	年月日 奉行 名⑤⑥	長さ 積定 ⑦	墨付 ⑧	庄屋 除地 ⑨	綴目 印⑩	写 ⑪	項目記載順
I	長束直吉	15	○	○	○	○	○	○	○	○	○	×	①②③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩
II	井上新介	1	○	○	○	○	○	×	○	○	×	×	①②③④⑤⑥⑧⑨
	増田長盛①	2	○	○	○	○	○	○	○	○	×	×	①②③④⑤⑥⑧⑨
III	小堀正次	14	○	○	○	○	○	○	○	×	×	×	①②③④⑤⑥⑦⑧
IV	横浜良慶	24	○	○	○	○	○	×	○	×	×	×	①②③④⑤⑥⑧
	増田長盛②	3	○	○	○	○	○	○	○	×	×	×	①②③④⑤⑥⑧
V	賀須屋武則	1	○	×	○	○	○	×	○	×	×	×	①③④⑤⑥⑧
	増田長盛④	5	○	×	○	○	○	×	○	×	×	×	①③④⑤⑥⑧
	新庄直忠①	3	○	×	○	○	○	×	○	×	×	×	①③④⑤⑥⑧
	石田三成①	1	○	×	○	○	○	×	○	×	×	×	①③④⑤⑥⑧
VI	長束正家	1	○	○	○	○	○	×	×	×	×	×	①②③④⑤⑥
	増田長盛③	3	○	○	○	○	○	×	×	×	×	×	①②③④⑤⑥
VII	新庄直忠②	3	○	×	×	○	○	×	○	×	×	×	①④⑤⑥⑧
	石田三成②	2	○	×	×	○	○	×	○	×	×	×	①④⑤⑥⑧
VIII	石田正澄	1	×	×	○	○	○	×	○	×	×	×	①③④⑤⑥⑧
	八嶋久兵衛①	1	×	×	○	○	○	×	○	×	×	×	③⑧④⑤⑥⑧
IX	八嶋久兵衛②	3	×	×	×	○	○	×	○	×	×	×	④⑤⑥⑧
	御牧景則	5	×	×	×	○	○	×	×	×	×	○	④⑪⑤⑥

除地との記載はなく他の事例とは同列に扱えない可能性がある。

III型…①地目別面積分米▽②斗代▽③面積合計▽④分米合  
計▽⑤年月日⑥奉行名▽⑦単位定▽⑧墨付▽

この事例はI型から⑨・⑩項目を除いた構成となっている。担当奉  
行小堀正次の場合の一四事例だけがこれにあたる。

IV型…①地目別面積分米▽②斗代▽③面積合計▽④分米合  
計▽⑤年月日⑥奉行名▽⑧墨付▽

これはII型から⑨項目を除いた構成となっている。担当奉行横浜良  
慶の二四事例、増田長盛の三事例がある。

V型…①地目別面積分米▽③面積合計▽④分米合計▽⑤年  
月日⑥奉行名▽⑧墨付▽

これはIII型から②・⑦項目を除いた構成となっている。担当奉行賀  
須屋武則の一事例、増田長盛の五事例、新庄直忠の三事例、石田三成  
の一事例がある。

VI型…①地目別面積分米▽②斗代▽③面積合計▽④分米合  
計▽⑤年月日⑥奉行名▽

これはIV型から⑧項目を除いた構成となっている。担当奉行長束正  
家の一事例と増田長盛三事例がある。⑧の「墨付」項目が記載され  
ないのは、このVI型とX型（担当奉行御牧景則）の場合だけである。

「墨付」の項目は、慶長三年越前国太閤検地帳では必須項目の一つで、  
奥書に記載のない場合は表紙に記載されることになっていた。越前検  
地の担当奉行としても見える御牧景則の帳簿ではすべてで奥書では  
なく表紙に墨付が見られるので、大和国IV型でも表紙にあった可能性  
がある。しかし、御牧の帳簿は確認される現状ではすべてで写本であり、

この点を確認できていない。

VII型：①地目別面積分米 $\vee$ ④分米合計 $\vee$ ⑤年月日⑥奉行名 $\vee$

⑧⑩墨付 $\vee$

これはV型から③項目を除いた構成になっている。担当奉行新庄直忠の三事例と石田三成の二事例がある。

VIII型：③面積合計 $\vee$ ④分米合計 $\vee$ ⑤年月日⑥奉行名 $\vee$ ⑧⑩墨付 $\vee$

これはV型から①項目を除いた構成になっている。担当奉行石田正澄の一事例と八嶋久兵衛一事例がある。

IX型：④分米合計 $\vee$ ⑤年月日⑥奉行名 $\vee$ ⑧⑩墨付 $\vee$

これはVIII型から③項目を除いた構成となっている。担当奉行八嶋久兵衛のみ三事例がある。

X型：④分米合計 $\vee$ ⑩写 $\vee$ ⑤年月日⑥奉行名 $\vee$

これはIX型からさらに⑧項目を除き一番シンプルな構成となっている。担当奉行御牧景則の事例のみである。ただし④項目の次に他の型ではまったく見られない「此御帳畝違算用違何茂百姓より理申所、悉改御帳百姓写させ候間、重申分在之間敷者也」(⑩写 $\vee$ とする)との記載が見られる。

以上のように「奥書」記載は一〇種類のパターンに分類できるが、増田長盛①②③④、新庄直忠①②、石田三成①②、八嶋久兵衛①②を除くと他の担当部行毎に「奥書」記載が一定していることがわかる。これは、慶長三年越前国太閤検地帳と同様な状況を示していて、大和国検地帳においても担当奉行ごとの検地帳(奥書)形態を示していることがわかる。

## (2) 「奥書」記載項目の特徴1 (地目と面積・分米)

次に項目別に若干の整理を行おう。

【史料1】の①項目にある「地目」に注目しよう。地目は上田・中田・下田・上畠・中畠・下畠・屋敷を基本とすることがわかり、上中の三区分が行われていた。これに上々田・下々田・下々畠の三種類が加わり、上々上中下々々の五区分となるのが担当奉行小堀正次の場合に七事例ある。下々田と下々畠が加わり上中下々々の四区分となるのが、担当奉行小堀正次の二事例、井上新介で一事例、増田長盛で三事例、賀須屋で一事例、石田三成で一事例が存在する。地目としては「荒畠」がある場合があるが(⑩ $\vee$ ⑪ $\vee$ ⑫ $\vee$ ⑬ $\vee$ ⑭など)、斗代は下畠と同じである。また、特殊な地目としては「こうそ(楮)」がある(⑪ $\vee$ ⑫ $\vee$ ⑬ $\vee$ ⑭など)。斗代は一・五と⑪ $\vee$ ⑫ $\vee$ ⑬ $\vee$ ⑭ $\vee$ 宇陀郡田原村の上田斗代一・四や⑪ $\vee$ ⑫ $\vee$ ⑬ $\vee$ ⑭ $\vee$ 吉野郡高原村の上畠斗代一・三よりも高い斗代となっている。山村地域における楮栽培の高い位置がわかる。

①は本紙部分を地目毎に面積と分米を集計して、さらにこれが集計され③で村の総面積、④村の総分米(村高)が記載される。総合計部分に注目するならば、慶長三年越前検地帳の時にも示したように次の四類型に分かれる。

集計A型：①地目別面積分米+③面積総計+④分米総計(↓I・II)

III・IV・V・VI型)

集計B型：①地目別面積分米+④分米総計(↓VII型)

集計C型：③面積総計+④分米総計(↓VIII型)

集計D型：④分米総計のみ(↓IX・X型)

C・D型の事例数は多くはないが、①地目別分米合計がないと地目毎

に本紙の一筆毎の分米を計算しなければならず誤りが多く出る可能性が指摘できる。既に指摘したように、いずれにしても分米総計(村高)だけは記載されることから検地帳の究極の項目は、村高掌握であり、検地帳下賜の目的は村高の村への報告であつたことがわかる。

### (3) 「奥書」記載項目の特徴2 (斗代と村位別石盛制)

【史料1】の②項目は斗代記載である。検地帳には斗代(「石盛」が記載される場合と記載されない場合があるがその相違は不明である。

斗代A型:斗代記載有(↓奥書記載のⅠ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ型)

斗代B型:斗代記載無(↓奥書記載のⅤ・Ⅶ・Ⅷ・Ⅸ・Ⅹ型)

表5は検地帳からわかる斗代を検地奉行毎にまとめたものである。表5の分類にある「◎」は斗代の記載があるもの(「奥書記載②」のあるもの)、「○」は斗代記載はないが地目別の面積・分米記載があるもの(「奥書記載①」、「×」は斗代、地目別面積分米記載共に奥書にないものである。表5では斗代記載のない「○」や「×」の検地帳では、地目別面積分米記載から地目毎の斗代を計算し、「×」では本文記載の一筆記載から計算を行った結果を記している。これらの計算結果は、割り切れなかったり、一定の数値にならない場合がある。そのためここでは「◎」に分類される斗代記載のある検地帳から斗代を整理したい。田の上中下斗代の組み合わせを検地帳数を示したのは表6であり、畠の上中下斗代組み合わせ検地帳数を示したのは表7である。

上々田の斗代が記載される事例は、検地奉行小堀正次の事例のみで、この場合斗代は上々田一・六、上田一・五、中田一・三、下田一・一(それに下々田〇・九)と五種類の地目の組み合わせとな

り、全部で一・一ある。これは上々田を除くと上田一・五、中田一・三、下田一・一との組み合わせとなり、これに加えることも可能と見られる。そうすれば小堀の事例はすべてひとつの斗代組み合わせとなる。

上田斗代記載の種類は、最高の「一・六」から、「一・五九」、「一・五七五」、「一・五七」、「一・五五」、「一・五」の六種類ある。中田斗代の種類は、「一・四」を最大として「一・三八」、「一・三六五」、「一・三五五」、「一・三三」の五種類ある。下田斗代の種類は「一・三三」を最大として「一・二二」、「一・一六」、「一・一」の四種類となる。これらの斗代の組み合わせと事例数を整理したのが表6である(全部で六八事例)。A型とI型の九種類の組み合わせがあるが、

田斗代C型:上田一・六 中田一・三五 下田一・一 一一事例

田斗代H型:上田一・五五 中田一・三五 下田一・一 一〇事例

田斗代I型:上田一・五 中田一・三 下田一・一 三三事例

(A型上々田一・六 上田一・五 中田一・三 下田一・一を含有)

と三類型で六八事例中の五四事例となりこれらが典型的な組み合わせとなる。

一方、畠斗代記載の種類は、上畠斗代で最大「一・三」から「一・二六」、「一・二五」、「一・二」で、中畠斗代で「一・〇五」と「一・〇」の二種類、下畠斗代で「〇・八四」と「〇・八」の二種類でこれらの組み合わせとなる。畠斗代組み合わせとしては、全事例七〇中で上畠一・二、中畠一・〇、下畠〇・八の五九とほとんどを占める。





表6 田方斗代構成表

分類	上々田	上田	中田	下田	数	検地奉行						
						横浜	長束直	小堀	増田	井上	長束正	不明
A	1.6	1.5	1.3	1.1	11			11				
B		1.6	1.4	1.3	1				1			
C		1.6	1.35	1.1	11	4	7					
D		1.6	1.3	1.1	7		7			1		
E		1.59	1.38	1.1	1				1			
F		1.58	1.365	1.16	4				4			
G		1.57	1.4	1.2	1				1		1	
H		1.55	1.35	1.1	10	10						
I		1.5	1.3	1.1	22	13	1	6	1			1

68

表7 島方斗代構成表

分類	上島	中島	下島	数	検地奉行							
					横浜	長束直	小堀	増田	井上	長束正	不明	
A	1.3	1	0.8	2				1	1			
B	1.26	1.05	0.84	4				4				
C	1.25	1	0.8	4		4						
D	1.2	1	0.8	59	27	11	16	3				2
E	1.2	1	0.9	1							1	

70

村毎の上中下の位を決定し、斗代Ⅱ石盛が連動する村位別石盛り制については、越前国検地でも行われた可能性を実際の斗代から示したが、大和国では村位別石盛り制を明確に示すことはできないと考えられる。

田斗代で見ると、前述の田斗代C・H・I型が村位別石盛り制を示すように思われるが、C型は検地奉行横浜良慶と長束直吉、H型は横浜良慶の事例しかなく、これを大和国全体における村位別石盛り制の存在を証明することにはならない。むしろ検地奉行横浜良慶を見ると、C・H・I型の三種の斗代で構成され、これを上中下の品位を理解することも可能であり、検地奉行長束直吉の場合もC・D・I型で構成され上中下品位と見られる。つまり、村位別石盛り制が想定されるとすれば、大和国全体というよりも検地奉行毎の裁量によりと理解すべきであろう。但し、小堀正次の場合は田斗代の組み合わせは一種類であり、逆に増田長盛の場合は五種類となかなか統一性が見られないことから、すべての検地奉行に村位別斗代構成があったとは言えない点は注意すべきであろう。

#### (4) 「奥書」記載項目の特徴3 (年月日)

検地帳には「表紙」と「奥書」に年月日が記載されることが基本と見られる。但し、月までしか記載されない場合も多くあり、月日までが必ずしも重要視されているわけではない。また、年月日がどのような日としての意味があるかはよくわかっていない。想定されるのは、検地帳が完成した日、検地帳が村に渡された日などがあるのか。

一番古い日付は、平群郡総持寺村検地帳の八月十五日で石田三成家

臣と見られる黒川右近の名があるものである。日付のほとんどは八月と九月に集中し、九月二十日以降の日付けはほとんど見られなくなり検地実施期間が推定される。八月中旬から九月二十日までが大和惣国検地の実施期間なのである。例外的な事例として、遅い日付としては吉野郡桑原村の十月三日・十市郡田原本村の十月七日や最も遅い事例として、十市郡下村の十一月二十九日がある。十月・十一月の事例はこの三つしかなく、両帳とも写本なので誤写の可能性もあるが、何らかの特殊事情で検地実施日が他の集中時期からずれたとも見られる。

次に「表紙」「奥書」年月日との関係を分類してみると次のようになる。

年月日Ⅰ型：「表紙」「奥書」年月日が一致する場合

年月日Ⅱ型：「奥書」年月日が「表紙」年月日より遅れる場合

- △7▽若槻村 八月十九日 八月二十二日
- △49▽渋谷村 八月二十九日 九月吉日
- △61▽江包村 八月晦日 九月吉日
- △63▽赤尾村 八月二十六日 九月吉日
- △80▽木原村 九月七日 九月二十一日
- △92▽三瀬村 九月十日 九月二十一日
- △96▽鳥屋村 八月二十五日 九月二十日
- △101▽佐味田村 八月 九月二十一日
- △102▽藤森村 八月二十日 九月二十一日

表8 郡別検地実施日付・担当奉行一覧

月日	合計	郡別検地担当奉行名(事例数)													
		添上	添下	平群	山辺	式上	式下	十市	葛上	葛下	広瀬	高市	宇陀	宇智	吉野
8月15日	1			石三1											
8月18日	4	増田3				小堀1									
8月19日	2	増田2													
8月20日	5	増田2				小堀2					東玉1				
8月21日	1	増田1													
8月22日	5	増田1			横浜1						東玉3				
8月23日	3	増田1				小堀1							加須屋1		
8月24日	1	増田1													
8月25日	3					小堀1						石奎1			速水1
8月26日	5	増田2				小堀2					東玉1				
8月27日	1	増田1													
8月29日	3	増田1				小堀2									
8月晦日	1					小堀1									
8月のみ	29	増田2	井上1	石三4			長直13	長直1			東玉1 長直1				八嶋6
9月2日	1			石三1											
9月5日	4	増田1	長大1					増田1		石三1					
9月6日	1							東玉1							
9月7日	2							東玉1							
9月8日	1							石三1							
9月9日	1							増田1							
9月11日	2		井上2					長大1							
9月15日	5		長大3	石三1				長大1							
9月16日	12							石奎1 御牧6				御牧5			
9月17日	1									石三1					
9月18日	1		長大1												
9月20日	5							石奎1 長直1				石奎3			
9月のみ	55				小堀1 横浜32	小堀8		長大1 長直3 増田1	新庄3				御牧1	朽木3	八嶋2
10月3日	1														速水1
10月7日	1							増田1							

△105 大垣内 八月吉日 九月二十一日  
年月日Ⅲ型：「奥書」年月日が「表紙」年月日より早い場合

△62 粟殿村 八月二十六日 八月二十五日

△110 田原村 九月 八月

前述したように検地帳記載の年月日の意味は、確定されない。Ⅱ型の場合では「表紙」に検地帳作成の開始日が記され、「奥書」には検地帳作成終了日なしは在地への下付日との想定が可能であろうが、△96の場合、八月二十五日と九月二十日と一ヶ月近くの差があり、一村の検地帳の作成（清書）にこのような時間が必要であったとも考えにくいことからその意味を位置づけるまでには至っていない。Ⅱ型の逆にあるⅢ型の日付は意味はまったくわからない。奥書に検地奉行の書判のあとで表紙が作成されたのであろう。この事例の両帳は写本であることから、誤写の可能性もあるが、現時点での位置づけは不明と言わざるを得ない。

大和惣国検地帳では、一村で検地帳が複数の帳簿で構成されることはそれほど多くはない。この場合、帳簿により月日が相違することが見られる。△11 東安堵村検地帳は五冊残るが、表紙の日付けはそれぞれ八月十八日、八月二十一日、八月二十三日、八月二十五日、八月二十七日とあり、本文は田・畠・屋敷が混合的に記載されることから、検地実施の順番で検地帳に検地結果が記載されたように見られる。この場合実際の検地日を示し、東安堵村では八月十八日に開始された検地が、二十七日に終了したと理解できよう。しかし、この検地帳は写本であり「表紙」も原本をそのまま忠実に写したとは言えなく年月日しか記載されていないことや、「奥書」が欠損していることから正確

な位置づけはできない。△100 山之坊村検地帳では、五冊から構成され、八月二十二日、二十三日、二十三日、二十四日、二十四日の日付けが「表紙」にあり、五冊目の「奥書」に九月二十一日の日付けが記載される。この場合、二十二日から開始された検地が二十四日に終了し、その後、検地内容の整理・清書が行われて九月二十一日に村に下付されたと見られるのである。

#### (5) 「奥書」記載項目の特徴4 (検地奉行人と検地役人)

検地を担当した人については、表紙部分と奥書の署判部分から知ることが出来る。大きくは秀吉家臣の検地奉行と検地奉行家臣と見られる検地役人に分けられる。表1から大和国検地を担当した奉行を郡毎にまとめると次のようになる(△はのち慶長三年の越前惣国検地で検地奉行として名が見える者を示している)。

添上 増田右衛門尉長盛

添下 井上新介△・長東大藏太輔正家△・増田長盛

平群 石田治部少輔三成

山辺 横浜良慶・小堀正次△

宇陀 加須屋内膳正武則・御牧景則

式上 小堀新介正次△

式下 長東次良兵衛直吉△

十市 増田長盛・長東正家△・長東直吉△・石田三成・東玉(新

庄直忠)△・御牧勘兵衛景則△・石田全頭正澄

高市 御牧景則△・石田正澄

忍海 新庄駿河守直頼

葛上 新庄駿河守直頼

葛下 石田三成

広瀬 東玉(新庄直忠)△・長束直吉

宇智 朽木河内守元綱△

吉野 八嶋久兵衛・速水甲斐守△

検地奉行の分担人数から郡に一人しか関わらない場合(添上・平群・山辺・式上・式下・忍海・葛上・葛下・宇智)と複数の場合(添下・宇陀・十市・高市・広瀬・吉野)がある。

検地役人としては、多くの場合表紙部分に「(検地奉行名) 打口」  
と記載されることから名前がわかり、奉行ごとに次のような名前がわかる。

○増田打口：深尾甚六・佐治彦左衛門・端与兵衛・福西源次・河端喜斎・谷清介・須江金蔵・安井彦助・森嶋源七郎・長田七郎次郎・神山左近衛門・深尾半兵衛・平井弥四郎・深尾甚二郎・村井勝左衛門・中井左馬助長房・佐伯彦兵衛

○井上打口：谷孫三・駒井久七

○長束正家打口：春木金左衛門・中村重(十)右衛門・毛呂市右衛門・古高忠左衛門・松吉与次・水嶋勘左衛門・田付与右衛門・山東五郎兵衛・木村宗左衛門・吉岡清八・今村助兵衛・本部半兵衛

○小堀打口：弥左衛門・弥兵衛・伝右衛門・深町・寺本仁右衛門・武右衛門・勝介・休足・九右衛門・角右衛門・勘五郎

○石田正澄打口：芝田新兵衛・田辺小左衛門・小林九郎右衛門・毛利吉左衛門・寺田次左衛門・小左衛門・熊右衛門・上野十右衛門

○新庄直忠打口：門兵衛・太郎介・五介・介右衛門・弥吉・源次郎・新作・久七

○長束直吉打口：国領喜右衛門・小谷孫作

○石田三成打口：矢羽伝兵衛・松田重大夫・牧野伝蔵・嶋左近・山嘉作右衛門・中嶋惣左衛門・川村五郎兵衛・須藤権右衛門・黒川左近・滝川左馬介・片桐惣左衛門・佐藤主殿

これら検地奉行・検地役人と奥書署判との関係から分類すると次のようになる。

署判Ⅰ型：「表紙」に検地奉行名のみ 「奥書」に検地奉行署判または印↓御牧景則・横浜良慶

署判Ⅱ型：「表紙」に検地奉行十役人(打口)名

Ⅱ-1型：「奥書」に検地奉行署判または印↓石田全・井上新介・新庄直忠

Ⅱ-2型：「奥書」に検地役人署判↓長束正家・増田長盛

署判Ⅲ型：「表紙」に検地役人名

Ⅲ-1型：「奥書」に検地奉行署判↓小堀正次

Ⅲ-2型：「奥書」に検地役人署判↓石田三成

Ⅰ型は検地帳に検地奉行名しか登場しない場合であるが、検地実施に際しては諸実務担当の役人は必須であり、いたことは確かである。

Ⅱ-1型は(80)木原村検地帳では表紙に「東玉(印) 門兵衛 大介」

と奉行の東玉（新庄直忠）と役人門兵衛・大介があり、奥書では「東玉（印）」と検地奉行のみの署判がある。

Ⅱ―2型はへ4ノ石川村検地帳では表紙に「増田右衛門尉打口はし与兵衛」と検地奉行増田長盛と役人端与兵衛が記載され、奥書では「端与兵衛（花押）」と検地奉行署判ではなく、打口端与兵衛の署判がある事例である。増田長盛は全部がこの形態で長東正家の場合もこれにあたりと見られる。石田李頭もこの形態をとるの場合も見られる。検地帳の署判が最終的には検地役人で行われる場合は、次のⅢ―2型も含めるとのちに五奉行と称される増田長盛・長東正家・石田三成という共通点がある。これは政権内の諸活動で忙殺され、検地奉行として名のみは連ねるが、実際の現地での検地作業は検地役人に任されたものと考えられようか。

Ⅲ―1型はへ49ノしぶ谷村検地帳の表紙では、「弥左衛門・弥兵衛・伝右衛門」と検地役人の名前しか見えないが、奥書署判では「小堀新介（印）」と検地奉行の名がある。

Ⅲ―2型では、へ12ノ笠目村検地帳では「牧野伝蔵」の名が表紙と奥書ともにある。これを見れば牧野伝蔵が検地奉行のように見えるが、牧野伝蔵成里は文禄四年秀次事件まで秀次に仕え、その後石田三成の家臣となった人物である。大和惣国検地当時には三成家臣であったことから、この場合、検地帳に石田治部少輔三成の名がないもの三成家臣の牧野が役人として実施したことが推定される。このことから平群郡の検地帳に見える松田十大夫・須藤権右衛門・中島惣左衛門などは、他の検地において三成家臣の役人として名が見え、嶋左近など三成の参謀として有名であるなど、牧野伝蔵同様な事例として理解

されるのである。<sup>13)</sup>

(6)「奥書」記載項目の特徴5（その他検地奉行毎の特殊項目）  
以上は主に検地帳に共通に記載される「奥書」項目を見てきたが、ここでは検地奉行毎に記載の有無がある特殊項目について見てみよう。

まずは表2に「竿」との整理した項目である。小堀正次と長東直吉が検地奉行の検地帳には、「右六尺三寸之竿ヲ以五間六拾間三百歩壹反定也」のように六尺三寸を一間として五間六〇間を三〇〇歩＝一反と規定している。

大和国の検地に関する検地条目は発見されていなく、同じく文禄年間に検地が実施された伊勢・和泉の惣国検地での検地条目での原則が適用されたと理解されてきたため、独自の検地条目が発給されたとの推定もされてはいない。但し、のちの慶長三年越前検地では、予め検地奉行に一三ヶ条検地条目が示され、検地帳自体にも五ヶ条の検地条々が記されていることはすでに指摘した。<sup>14)</sup> これとの対比で見れば、「竿」一ヶ条規定は越前検地帳の五ヶ条検地上々にあたり、たった一ヶ条過ぎないが百姓に提示された検地定と見られるのである。「竿」の長さに関する規定にしか過ぎないものの、これが検地の原則として最も重要な項目として認識されたと考えられるのであり、これは文禄年間の太閤検地が実際の丈量をおこなったことの証左と言えるのではないだろうか。しかし、全検地奉行ではなく小堀・長東に限定される点はずいぶん疑問が残るところである。

【史料1】⑨は庄屋敷部分を年貢免除地とする注記である。これ

は長束直吉を検地奉行とする検地帳にしか記載されていない<sup>⑤</sup>。

次に、また事例は少ないが担当奉行井上新介の検地帳のみに「役人」記載が見られる。井上検地帳は添下郡足田村(奈良市)・山田村(大和郡山市)・万願寺村(大和郡山市)の三例しか確認されないが、この三ヶ村で「役人」記載が見られることから、井上検地帳には「役人」記載のある特徴を確認されよう。万願寺の場合、屋敷数二六、家数二六、役人一三、山田村の場合、屋敷数四〇、家数二九、役人一四、足田村の場合、家数二九、役人一四(湿度で板状となり本紙部分は読めず、屋敷数は不明)となる。「役人」とは研究史上「役屋」とも呼ばれ<sup>⑥</sup>、領主に対して特定の夫役負担を義務づけた百姓で、村内では一人前の百姓として「本百姓」を構成した人々とされている。

【史料一】⑩「右紙之とちめく印判在之」とこれも検地奉行長束直吉の事例のみである。各自自治体史の史料編では、「とちめ印判」のデータは記載されていないので実際に押されているかどうかは原史料を確認しなければならない。『田原本町史』史料編第一巻の口絵写真にはへ73▽式下郡八田村検地帳の表紙と奥書部分の写真が掲載され、①～⑩項目を最多項目として、記載項目は担当奉行によって異なり、⑩項目の「右紙之とちめく印判在之」と検地奉行長束直吉の印判が割り印と表紙に押されていることが見える。『改訂天理市史』上巻の一六七頁にはへ19▽内馬場村検地帳の写真があるが、これには検地奉行横浜良慶の印が表紙と割り印として押されていることが確認される。横浜良慶の検地帳には⑩項目の記載はないものの検地帳原本には⑩の「とちめ印判」が存在することを示している。実際には、この項目がなくての他の検地奉行の場合で綴じ目印は散見される。例えば、

『安堵町史』上巻の一六五頁には石田家臣矢羽伝兵衛を検地役人とする窪田村検地帳の写真が掲載されるが、表紙の綴じ目印が見える。同じく掲載される本紙写真に同一の割印が見える。また、『改訂天理市史』史料編第五巻の口絵写真に増田長盛を検地奉行とする櫛本村検地帳を載せるが、表紙綴じ目に三ヶ所印が押されているのが確認される。このように綴じ目印の存在は、帳簿の信頼性を高める項目として必要な項目と考えられるが、なぜ長束直吉のみ個の項目が記載されるのかは不明である。

前述したように「奥書」X型の場合、担当奉行御牧景則の事例のみ「此御帳畝違算用違何茂百姓より理申所、悉改御帳百姓写させ候間、重申分在之間敷者也」と特別な記載が確認される。検地帳に「畝違」(面積間違えか)「算用違」(計算間違えか)があるとの百姓からの指摘により、検地帳を改めて百姓に写させて検地帳を下付したので、さらに訴えを起こさないように命じている。計算間違えなどは御牧景則だけに起こったこととは考えられないが、この注記は御牧景則の検地帳にしか記載されない。この理由は不明である。

以上のように、検地帳内容には一律ではなく検地担当奉行毎に相違する項目があることは、検地作成時における奉行の裁量が大きかったことを物語るといえよう。

## おわりに

文禄年間の太閤検地についての評価は、中野等氏<sup>⑦</sup>によれば文禄検地を第二次朝鮮侵略Ⅱ慶長の役への前提とする点を批判して、太閤・関白政権の矛盾解消との関連という内政問題を重視する。第一次朝鮮

侵略の「文禄の役の敗戦による「三國割」の大陸侵攻計画の失敗は、太閤秀吉と関白秀次の並立体制を偶然的に成立させた。これは太閤権力による権力体系の一元化を必然化させる。「これは『叡慮』を体して国内統一戦争を戦った豊臣政権にとつてはまさに国制の転換というべき事態であった」と指摘し、「叡慮」を相対化した「太閤権力は封建的アナキー状態の克服を企図して大名領国に対し積極的な干渉策を展開、大名以下の支配階級における自律的自力救済権の否定を通じて、権力としての差別化を実現し、もって現秩序の維持をはかろうとした」と述べている。その政策として文禄検地を位置づけるのである。ただし、中野氏も述べるように畿内近国の直轄太閤検地を分析から除いている点は問題が残る。文禄検地は全国的に行われるが、惣国検地としての典型は、伊勢・河内・摂津・和泉・大和などの畿内近国検地であり、これを除いた文禄検地の位置づけは可能なのかは疑問とせざるをえないからである。しかし、ここで文禄四年大和国の検地を秀吉政権の中での位置づけは甚だ難しい。大和検地の実施は、前述したように大和支配の代替わり（筒井移封、大和納言秀長死去、大和中納言秀保死去）検地の意味合いが大きいことは確かであろうが、中野氏の理解との関係には、畿内近国での太閤蔵入地の設定や大名知行再編成の具体的な説明が必要であり、全体的な評価は他文禄検地実施と分析と共に今後の課題としたい。

## 【注】

(1) 大和郡山市史編集委員会『大和郡山市史』（一九六六年）。この表には村名・検地奉行名・検地年月日・本写などの項目を記す

が所蔵者などは記載されず、残存の根拠は明確ではない。また、『桜井市史』上巻（桜井市史編纂委員会、一九七九年）でも市域の文禄検地一覧で三五ヶ村を掲載するが、この内、一六ヶ村は寛政二年「御領下桜井組御検地帳扣」によるもので検地帳そのものが残っている事例ではない。『高取町史』（高取町教育委員会、一九三五年）には、高取藩内の村高などを書き上げた「御領内高附」が記載され、八五ヶ村の中で古検「文禄四年検地に基づく村高と、検地奉行の名が記載されている。ここでも検地帳の残存は明確ではないが、文禄検地の実施と検地奉行名は確認される事例である。表2ではこのような事例は省略している。太閤検地帳が残されている各自治体史では、文禄三年の検地条目から太閤検地の原則を示し、それぞれの個別検地帳から階層構成表を作成して近世村の成立を解説するという説明が通例で、大和国検地の全体的な説明は十分に行われていない。その中で大和国太閤検地の概説としては、『奈良市史』通史三が参考となる。

(2) 則竹「慶長三年越前国太閤検地帳の基礎的研究」（獨協中学校・高等学校『研究紀要』二九・三〇合併号、二〇一五年）。この旧稿以降に検地帳の外形に触れている成果として、秋澤繁「御前帳と検地帳」（『年報中世史研究』三、一九七八年）を見落として「御前帳の外形的諸特徴を同期の直轄太閤検地帳乃至私検地帳のそれと対比する作業は、両者の関連性及びそれぞれの特性を理解する上で重要な要件であるが、書誌学的蓄積のない検地

帳研究の現状では、早急に臨むべくもない」と指摘している。四〇年以上も前の指摘であるのにもかかわらず、検地帳の書誌学的研究はほとんど進んでいない。秋澤氏は直轄太閤検地帳の特徴について次の点を注目している。

①一紙に六行書（＝土地六筆書）

②表紙は本文の紙と同じ白紙に直接外題を書く

③綴じ方は紙捻による袋綴じで朝鮮本の系統を引く五釘眼訂

法が注目される

(3) 平井上総「豊臣期検地一覧(稿)」(『北海道大学文学研究科紀要』

一四四、二〇一四年)を参照。

(4) 豊臣秀長は天正十三年に大和国だけでなく和泉・紀伊国も領国としていたことから、大和国検地は紀伊国での検地実施との関係を考慮する必要がある。紀伊国の豊臣期検地は、次のものが指摘されている(前掲注(2)平井上総「豊臣期検地一覧(稿)」)。

①天正十三年閏八月以降 紀伊一國検地↓実施されたかは

不明

②天正十五年九月 玉置民部少輔領(日高郡) 検地

③天正十六年八月か 高野山領検地↓高野山の反対で

不実施の可能性

④天正十七年六月以前 海部郡加太検地

⑤天正十八年十月～十一月 北山地域検地

⑥天正十九年九月～十月 高野山領検地

紀州検地に関する参考文献は、井戸佳子・藤本清二郎「紀州における太閤検地と石高制の成立」(『和歌山地方史研究』七)、

安藤精一「近世農村史の研究」(清文堂出版、一九八四年)、弓倉弘年「豊臣期紀伊における検地と石高」(『南紀徳川史研究』八、二〇〇四年)、前田正明「天正十九年の高野山領の検地について」(『和歌山地方史研究』五四、二〇〇八年)、速水融「近世初期の検地と農民」(二〇〇九年)などがある。

(5) 成實堂文庫大乗院文書については、荻野三七彦編『お茶の水図書館成實堂文庫『大乗院文書』の改題的研究と目録』(上)(石川事業文化財団お茶の水図書館、一九八五年)を参照。この中には天正十九年九月十五日付けの「納 辰市八条領」「納 井戸野領」を表紙とする帳簿があるが、これは「納」とあり、面積が記載されないことから検地帳ではないので、表3からは除いている。

(6) 十津川村風屋区有文書(奈良県教育委員会事務局文化財保護課『十津川 学術調査報告書十津川文化叢書合本』一九六一年)次の二〇冊の検地帳がある。

天正十五年十月十日 和州吉野郡十津川内原村検地帳

天正十五年十月十日 和州十津川かちや村検地帳

天正十五年十月十日 和州吉野郡山崎村検地帳

天正十五年十月十日 和州吉野郡山崎村検地帳

天正十五年十月十日 和州吉野郡之内十津川村検地帳

天正十五年十月十日 和州吉野郡十津川内中村検地帳

天正十五年十月十日 和州吉野郡十津川津村検地帳

天正十五年十月十日 和州吉野郡中原検地帳

天正十五年十月十日 和州吉野郡野尻村検地帳  
和州吉野郡いけあな村検地帳

(7) 表3参照。

(8) 検地終了後に検地を踏まえて武士や寺社への安堵状が発給されるが、次のような文書が残されている。

△興福寺領▽文禄四年九月二十一日付け豊臣秀吉興福寺寺門領目録写(『春日大社文書』『春日大社文書』第五卷、吉川弘文館)△春日社領▽文禄四年九月二十一日付け豊臣秀吉春日社領知行方目録(『大東家文書』『春日大社文書』第六卷)、文禄四年九月二十一日付け南都春日宮本社家中宛増田長盛書状(『大東家文書』『春日大社文書』第六卷)△多武峰領▽(文禄四年)九月二十一日付け増田長盛書状写(『談山神社文書』『広陵町史』史

表3 天正14年・19年大和大乗院領検地帳(成實堂文庫大乘院文書)

番号	年月日	帳名	検地役人
2	天正十四年八月廿五日	大和国葛下郡大屋村帳	小新内六介
3	天正十四年八月廿五日	葛下郡大屋領検地帳	あいは
4	天正十四年八月廿五日	葛下郡大屋領検地帳	田傳
5	天正十四年八月廿五日	和州葛下郡大屋領帳	野崎
6合1	□□□□八月吉日	和州高市郡□□領検地帳	深金
6合2	天正十四年	和州高市郡四条領	小三右
7合1	天正十四年九月九日	和州山辺郡さほ庄	源四郎
7合2	天正拾四年九月九日	和州山野辺郡さほの庄御検地帳	久保休安
7合3	天正十四年九月九日	和州山辺郡佐ほの庄検地帳	長五郎右
7合4	天正拾四年九月九日	和州山野辺郡さほのやう	
7合5	天正十四年九月九日	和州山辺郡さほの庄	小新内谷小七郎
7合6	天正十四年九月九日	和州山辺郡さほの庄検地帳	深金町
8	天正拾四年九月十三日	和州添下郡寺門領検地帳	野崎
9	天正十四年九月十三日	添上部いとの領検地帳	桑原宗兵衛
10	天正十四 九月十四日	和州添上郡井殿領検地帳	小新内久右門・孫九郎
11	天正十五年九月十四日	和州添上郡井殿領検地帳	小新内善小七良
12	天正十四年九月十四日	和州添上郡井殿領検地帳	小新内九右門・弥太郎
13	天正十四年九月廿八日	和州添上郡西九条領御検地帳	多吉左
14	天正十四年九月二十七日	添上之郡之内西九条村分	小三右内新七郎
15	天正十四年九月廿九日	和州添上郡西九条領	田傳
16合1	天正十四年九月廿九日	和州添上郡西九条領御検地帳	桑原宗兵衛
16合2	天正十四年九月廿九日	添上郡八条領御検地帳	桑原宗兵衛
16合3	天正十四年九月廿九日	和州添上郡西九条領	田傳
17	天正十四年九月廿九日	添上郡内辰市内西九条村	小三右内藤介くミ
18	天正十四年九月廿九日	添上郡内辰市内八条	小之内藤井くミ
19	天正十四年十月一日	和州添下郡すかわ之領	田傳
20	天 十四年十月一日	添下郡すか原領	あいは
21	天正十四年十月二日	和州添下郡内すか原領検地帳	小新内源町須金左
22	天正十四年拾月二日	添下郡すか原領御検地帳	桑原宗兵衛
23	天正十四十月二日	添上之郡之内辰市八条領分	小三右之内新七
24	天正十四十月二日	和州添上郡辰市八条領御検地帳	多吉左
25	天正十四年十月二日	口上郡之内辰市八条領	
26	天正十四年十月二日	添上郡辰市内八条領検地帳	和新九
27	天正十四年十月五日	和州添下郡すかわら領検地帳	和田新九郎
28	天正十九年八月吉日	添上郡之内辰市八条領検地帳移	木阿
29	天正十九年八月吉日	添上郡辰市西九条領見地帳移	木阿
32	天正十九年八月吉日	口上郡井殿領検地帳	木阿

料編下巻)、文禄四年九月二十一日付け豊臣秀吉朱印状写(「談山神社文書」『広陵町史』史料編下巻) へ法隆寺領(「文禄四年九月二十一日付け法隆寺宛増田長盛書状写(「大和志料」所収文書) 文禄四年九月二十一日付け豊臣秀吉朱印状写(「大和志料」所収文書) へ内山永久寺領(「文禄四年」九月二十一日付け内山寺宛増田長盛書状(「桐山文書」『広陵町史』史料編下巻)、文禄四年九月二十一日付け内山寺宛豊臣秀吉朱印状写(鈴木文書『広陵町史』史料編下巻) へ当麻寺領(「文禄四年」九月二十一日付け当麻寺宛増田長盛書状(「当麻寺所蔵文書」『広陵町史』史料編下巻)、文禄四年九月二十一日付け当麻寺宛豊臣秀吉朱印状(「当麻寺所蔵文書」『広陵町史』史料編下巻) へ三輪寺領(「文禄四年九月二十一日付け三輪大宮若宮社人中宛増田長盛書状写(「天理図書館所蔵文書」『広陵町史』史料編下巻)、文禄四年九月二十一日付け三輪平等寺宛増田長盛書状(「三輪叢書」所収『広陵町史』史料編下巻)

武士については、文禄四年九月二十一日付け沢源六宛知行方目録(「沢氏古文書」『松阪市史』第三巻) や文禄四年九月二十一日付け多賀出羽守秀種宛大和国宇陀郡知行方目録(「史料編纂所所蔵文書」、『新訂大宇陀町史』) がある。多賀秀種には宇陀郡の三分の二にあたる二万六五九石余りの宛行われた。秀種は堀秀重の次男で近江国人多賀貞能の婿養子となるが、本能寺の変で明智光秀に味方したために改易となり兄秀政の家臣となり、その死後に豊臣秀長・秀吉の家臣となった。

(9) 平井上総「豊臣期検地一覽(稿)」参照。伊勢国については、

大石学「伊勢国文禄検地の基礎的研究」(『徳川林政史研究所研究紀要』昭和57年度、一九八二年)、伊勢国文禄検地に関する一考察(『地方史研究』二〇九、一九八七年)、和泉国については森杉夫「和泉国の太閤検地」(『大阪経大論集』一九四〇、一九九〇、一九九一年)を参照。

(10) 「墨付」について、表2刊本一覽では新庄駿河守を奉行とする事例は刊本となっていないが、『御所市史』二〇〇頁にある今住村検地帳写本の表紙写真では「紙の数五拾七枚」と「墨付」が記載される。新庄駿河守の場合は、表紙墨付を原則とする可能性が高いと見られる。

(11) 山上卓夫「文禄四年検地帳の形状について―越後国と大和国の検地帳」(『かみくいむし』四九、一九八三年)では、奈良県立図書館所蔵の添上郡窪庄村検地帳と十市郡新屋敷村検地帳(前欠)について表紙の綴じ穴位置・形状・綴じ紐、割印などに注目している。

(12) 村位別石盛り制については、佐藤満洋「太閤検地における村位別石盛り制の研究」(『大分県地方史』五八・五九・六一・六二・六三、一九七〇年)と藤野保編『九州近世史研究叢書』九州と豊臣政権』国書刊行会、一九八四年所収) 佐藤満洋氏は、文禄四年大和国検地でも村位別石盛り制が存在したことを一六冊の検地帳事例から主張しているが、これは三〇〇冊近い大和国事例の一部であり、さらにその根拠は『天理市史』史料編を出版とするが、検地奉行を確認するとはば横浜浪慶に限定された検地の事例であり、大和国全体に村位別石盛り制が存在とす

る証明にはなっていない。横浜良慶の検地帳を見ると整然と村位別石盛りが存在したように見えるが、大和国検地には一〇名以上が検地奉行として検地に関わっていることから横浜だけ取り上げることでは不十分である。

- (13) 安藤英男・斎藤司「石田三成家臣団事典」(安藤英男編『石田三成のすべて』新人物往来社、一九八五年)には九二名の三成家臣を掲載するが、ここに黒川右近・島左近・須藤権右衛門、中島宗左衛門・松田重太夫など大和国検地役人として名が見える人物が掲載される。

- (14) 前掲則竹論文注(2)。

- (15) 65頁叶田村検地帳でも庄屋甚太郎の屋敷地の年貢免除が記載されるが、検地奉行長束直吉の年貢除地許可状写が別に存在する。

【史料2】長束直吉判物(新野治一文書、『川西町史』本文編) 覚

一、屋敷巻ヶ所 拾七間  
拾四間

此畝七畝貳拾八歩

分米九斗五升貳合

右者、甚太郎屋敷除之

文禄四年

八月 日

長束次郎兵衛 判

- (16) 役屋(体制論)については、速水融前掲書注(4)、遠藤進之助『近世農村社会史論』吉川弘文館、一九五六年)、所三男「近世初

- 期の百姓本役―役屋と夫役との関係について」(野村博士還暦記念論文集『封建制と資本制』有斐閣、一九五六年) 後藤陽一『近世村落の社会史的研究』(溪水社、一九八二年)などを参照。
- (17) 中野等『豊臣政権の対外侵略と太閤検地』(校倉書房、一九九六年)

表1 文禄四年大和国太閤検地帳一覧

	郡名	村名	現在	月日	検地奉行名・役人名	出典	
						郡山	他
1	添上	柴屋	奈良	8月	増田右衛門尉打口佐伯彦兵衛		奈良
2	添上	北椿尾	奈良	8月	増田右衛門尉打口深尾甚六		奈良
3	添上	大安寺	奈良	9月4日	増田右衛門尉打口深瓦甚六		奈良
4	添上	中ノ川	奈良				奈良
5	添上	北柳生	奈良	8月18日	増田右衛門尉打口河橋喜斎		大乘
6	添上	横井	奈良	8月21日	増田右衛門尉打口はし与兵衛		大乘
7	添上	美濃庄	奈良	8月22日	増田右衛門尉打口中村左馬助		大乘
8	添上	横田	奈良	8月22日	増田右衛門尉打口瓦林猪兵衛		大乘
9	添上	稗田	奈良	8月23日	増田右衛門尉打口神山右近右衛門		大乘
10	添上	辰市	奈良	8月26日	増田右衛門尉打口中村左馬助		大乘
11	添上	下三橋	奈良	8月28日	増田右衛門尉打口谷清介		大乘
12	添上	白豪寺	奈良	8月29日	増田右衛門尉打口森嶋源七郎		大乘
13	添上	高畠	奈良	9月朔日	増田右衛門尉打口中嶋小藤太		大乘
14	添上	野田	奈良	9月3日	増田右衛門尉打口中嶋小藤太		大乘
15	添上	柏木	奈良	9月5日	増田右衛門尉打口瓦林猪兵衛		大乘
16	添上	木辻	奈良	9月6日	増田右衛門尉打口神山左近右衛門		大乘
17	添上	紀寺	奈良	9月18日	増田右衛門尉打口大岡作左衛門		大乘
18	添上	東九条	奈良	9月19日	増田右衛門尉打口大岡作左衛門		大乘
19	添上	今市	奈良	8月26日	増田右衛門尉打口佐治彦左衛門	郡山	
20	添上	西九条	奈良	8月26日	増田右衛門尉打口端与兵衛	郡山	奈良
21	添上	井戸野	郡山	8月22日	増田右衛門尉打口福西源次	郡山	
22	添上	般若寺	奈良	9月5日	増田右衛門尉打口河橋喜斎	郡山	
23	添上	番匠田中	郡山	8月18日	増田右衛門尉打口河橋喜斎	郡山	郡山
24	添上	楷	天理	8月20日	増田右衛門尉打口深尾甚六	郡山	天理
25	添上	窪庄	奈良	8月21日	増田右衛門尉打口谷清介	郡山	奈良
26	添上	若槻	郡山	8月19日	増田右衛門尉打口須江金藏安井彦助	郡山	若槻
27	添上	中城	郡山	8月	増田右衛門尉打口森嶋源七良	郡山	大乘
28	添上	発志院	郡山	8月19日	増田右衛門尉打口長田七郎次郎	郡山	郡山
29	添上	上三橋	郡山	8月23日	増田右衛門尉打口長田七郎次郎	郡山	郡山
30	添上	櫟枝	郡山	8月18日	増田右衛門尉打口神山左近右衛門	郡山	郡山
31	添上	櫟本	天理	8月24日	増田右衛門尉打口深尾半兵衛平井弥四郎	郡山	天理
32	添上	南永井北永井	奈良		増田右衛門尉	郡山	
33	添上	北之庄	奈良		増田右衛門尉	郡山	
34	添上	白土	郡山		増田右衛門尉	郡山	
35	添上	神殿	奈良		増田右衛門尉	郡山	
36	添上	森本	天理		増田右衛門尉	郡山	
37	添上	蔵之庄	天理		増田右衛門尉	郡山	
38	添上	池田	奈良		増田右衛門尉	郡山	
39	添上	北永井	奈良		増田右衛門尉	郡山	
40	添上	北野	山添	8月29日	増田右衛門尉打口深尾甚二郎	郡山	山添
41	添上	峯寺	山添	8月27日	(増田)中島小藤太	郡山	山添
42	添上	和爾	天理	8月20日	増田右衛門尉打口村井勝左衛門		天理
43	添上	石川	郡山	8月18日	増田右衛門尉打口端与兵衛		郡山
44	添下	済音寺	奈良	9月5日	長東大蔵内木村宗左衛門		平跡
45	添下	六条	奈良				奈良
46	添下	小和田	奈良		増田		富雄
47	添下	疋田	奈良	8月	井上新介	郡山	伏見
48	添下	山田	郡山	9月11日	井上新介貞安	郡山	郡山
49	添下	万願寺	郡山	9月11日	井上新介打口谷孫三駒井久七	郡山	
50	添下	中	奈良	9月15日	長東大蔵打口春木金左衛門中村重左衛門	郡山	富雄
51	添下	新木	郡山	9月18日	長東大蔵打口毛呂市右衛門古高忠左衛門 <small>ほろ</small>	郡山	
52	添下	天井	郡山	9月15日	長東大蔵打口松吉与次水嶋勘左衛門	郡山	
53	添下	筒井	郡山	9月15日	長東大蔵打口田村与右衛門山東五郎兵衛	郡山	
54	添下	歌姫	奈良	9月15日	長東大蔵クミ木村宗左衛門		平城
55	添下	小南	郡山	9月			奈良県
56	添下	傍示	生駒	9月			奈良県
57	平群	窪田	安堵	9月2日	(石田)矢羽伝兵衛	郡山	安堵
58	平群	宮堂	郡山		(石田)矢羽伝兵衛	郡山	
59	平群	額田部	郡山	8月20日	(石田)松田十太夫	郡山	郡山

60	平群	笠目	安堵		(石田)牧野伝蔵	郡山	安堵
61	平群	岡島(岡崎か)	安堵	8月	(石田)嶋左近	郡山	安堵
62	平群	竜田	斑鳩		石田治部少輔	郡山	
63	平群	菅田	天理		(石田)山嘉作右衛門	郡山	天理
64	平群	下垣内	平群		(石田)中嶋惣左衛門	郡山	
65	平群	榎原	平群		(石田)中嶋惣左衛門	郡山	
66	平群	若井	平群		(石田)川村五郎兵衛	郡山	
67	平群	乙田	生駒		(石田)須藤権右衛門	郡山	
68	平群	東安堵	安堵	8月18日	なし		安堵
69	平群	五百井	斑鳩	8月	石田治部少輔		斑鳩
70	平群	南畑	三郷	8月	欠(中嶋左衛門か)		三郷
71	平群	惣持寺	三郷	8月15日	(石田)黒川右近		三郷
72	平群	法隆寺	斑鳩	9月15日	(石田)瀧川左馬介		法隆
73	山辺	吉田	天理	9月	無名印(横浜一庵)	郡山	天理
74	山辺	備前	天理	9月	無名印(横浜一庵)	郡山	天理
75	山辺	喜殿	天理	9月	無名印(横浜一庵)	郡山	天理
76	山辺	田部	天理	9月	無名印(横浜一庵)	郡山	天理
77	山辺	田井庄	天理	9月	無名印(横浜一庵)	郡山	天理
78	山辺	小路	天理	9月	無名印(横浜一庵)	郡山	
79	山辺	三味田	天理	9月	無名印(横浜一庵)	郡山	天理
80	山辺	井戸堂	天理	9月	無名印(横浜一庵)	郡山	天理
81	山辺	九条	天理	9月	無名印(横浜一庵)	郡山	天理
82	山辺	杉本	天理	9月	無名印(横浜一庵)	郡山	天理
83	山辺	稲葉	天理	9月	無名印(横浜一庵)	郡山	天理
84	山辺	荒蒔	天理	9月	無名印(横浜一庵)	郡山	天理
85	山辺	上之庄	天理	9月	無名印(横浜一庵)	郡山	天理
86	山辺	岩室	天理	9月	無名印(横浜一庵)	郡山	天理
87	山辺	布留	天理	9月	無名印(横浜一庵)	郡山	天理
88	山辺	岩屋ヶ谷	天理	9月	無名印(横浜一庵)	郡山	天理
89	山辺	磯上	天理	9月	無名印(横浜一庵)	郡山	天理
90	山辺	園原	天理	9月	無名印(横浜一庵)	郡山	天理
91	山辺	乙木	天理	9月	無名印(横浜一庵)	郡山	天理
92	山辺	岸田	天理	9月	無名印(横浜一庵)	郡山	天理
93	山辺	佐保庄	天理	9月	無名印(横浜一庵)	郡山	天理
94	山辺	仁興	天理	9月	無名印(横浜一庵)	郡山	天理
95	山辺	大塩	山添	9月	無名印(横浜一庵)	郡山	山添
96	山辺	気原(毛原)	山添	9月	無名印(横浜一庵)	郡山	山添
97	山辺	助命	山添	8月22日	無名印(横浜一庵)	郡山	山添
98	山辺	広代	山添	9月□	無名印(横浜一庵)		山添
99	山辺	南之庄	都祁	9月	無名印(横浜一庵)		都祁
100	山辺	相河	都祁	9月	無名印(横浜一庵)		都祁
101	山辺	来迎寺	都祁	9月	無名印(横浜一庵)		都祁
102	山辺	友田	都祁	9月	無名印(横浜一庵)		都祁
103	山辺	甲岡	都祁	9月	無名印(横浜一庵)		都祁
104	山辺	富堂	天理	9月	なし		天理
105	山辺	小島	天理	9月	なし		天理
106	山辺	嘉幡	天理		無名印(横浜一庵)		天理
107	山辺	桃之尾	天理		無名印(横浜一庵)		天理
108	山辺	内馬場	天理	9月	無名印(横浜一庵)		天理
109	山辺	豊井	天理	9月	印?		天理
110	山辺	中山	天理		無名印(横浜一庵)		天理
111	山辺	成願寺	天理	9月	小堀新介		天理
112	山辺	山田	天理				天理
113	山辺	新泉	天理	9月	無名印		天理
114	山辺	合場	天理	9月			天理
115	山辺	石上	天理	9月			旧天理
116	山辺	平等	天理	9月			図書館
117	山辺	新庄	郡山	9月			図書館
118	山辺	上笠間	室生	9月			室生
119	式上	渋谷	天理	8月29日	小堀新介 弥左衛門・弥兵衛・伝右衛門	郡山	天理
120	式上	柳本	天理	9月吉日	小堀新介	郡山	天理
121	式上	東田	桜井	9月吉日	小堀新介 深町	郡山	桜井

122	式上	笠	桜井	8月20日	小堀新介		郡山	桜井
123	式上	大泉	桜井	8月29日	小堀新介 寺本仁兵衛		郡山	桜井
124	式上	粟殿	桜井	8月25日	小堀新介 武右衛門・寺本仁右衛門		郡山	桜井
125	式上	大豆越	桜井	9月	小堀新介		郡山	桜井
126	式上	太田	桜井	9月	小堀新介 勝介・休足		郡山	桜井
127	式上	備後	桜井	9月	小堀新介 勝介・口足		郡山	桜井
128	式上	初利	桜井		小堀新介		郡山	桜井
129	式上	江包	桜井	8月晦日	小堀新介 寺本仁右衛門		郡山	桜井
130	式上	川合	桜井	8月26日	小堀新介 九右衛門角右衛門		郡山	
131	式上	岩田	桜井		小堀新介		郡山	桜井
132	式上	茅原	桜井	9月	小堀新介		郡山	桜井
133	式上	松ノ木	桜井		(小堀新介)		郡山	大三輪
134	式上	穴師	桜井	9月	小堀新介		郡山	桜井
135	城上	赤尾	桜井	8月26日	小堀新介 弥右衛門・伝右衛門・弥兵衛			桜井
136	城上	芹井	桜井	8月20日	小堀新介 勤五郎・九郎右衛門			桜井
137	城上	瀧倉	桜井	8月23日	小堀新介 寺本仁右衛門			桜井
138	城上	芝	桜井	9月	小堀新介			桜井
139	城上	三谷	桜井	8月18日	小堀新介 九口衛門・勤五郎			桜井
140	式下	結崎	川西	8月	長東次郎兵衛			川西
141	式下	吐田	川西	8月	長東次郎兵衛			川西
142	式下	小坂	田原本	8月	長東次郎兵衛			図書館
143	式下	小柳	三宅	8月	長東次郎兵衛			三宅
144	式下	法真寺	田原本	8月	長東次郎兵衛		郡山	田原本
145	式下	蔵堂	田原本	8月	長東次郎兵衛		郡山	田原本
146	式下	西井上	田原本		長東次郎兵衛		郡山	
147	式下	鍵	田原本	8月	長東次郎兵衛		郡山	田原本
148	式下	唐古	田原本		長東次郎兵衛		郡山	
149	式下	八田	田原本	8月	長東次郎兵衛		郡山	田原本
150	式下	西代	田原本		長東次郎兵衛		郡山	
151	式下	武蔵	天理		長東次郎兵衛			天理
152	式下	檜垣	天理		長東次郎兵衛			天理
153	式下	いねい	田原本	8月	長東次郎兵衛			田原本
154	式下	平田	田原本	8月	長東次郎兵衛			田原本
155	式下	大木	田原本	8月	長東次郎兵衛			田原本
156	式下	いよ戸	田原本	8月	長東次郎兵衛			田原本
157	式下	為川	田原本	8月	長東次郎兵衛			田原本
158	十市	薬王寺	田原本	9月	なし			田原本
159	十市	上品寺	橿原	9月5日	増田右衛門尉打口佐治彦左衛門		郡山	橿原
160	十市	葛本	橿原	9月8日	増田右衛門尉 深尾半兵衛		郡山	
161	十市	田原本	田原本	10月7日	増田右衛門尉 中井左馬助		郡山	田原本
162	十市	新賀	橿原	9月15日	長東大蔵奉行 青木近左衛門中村重右門		郡山	
163	十市	荻田	桜井	9月16日	御牧勤兵衛		郡山	
164	十市	山田	桜井	9月16日	御牧勤兵衛		郡山	
165	十市	新屋敷	桜井	9月	長東次郎兵衛		郡山	桜井
166	十市	棕橋	桜井	9月吉日	長東次郎兵衛		郡山	
167	十市	針道	桜井	9月20日	長東次郎兵衛		郡山	
168	十市	安倍	桜井	9月16日	御牧勤兵衛		郡山	
169	十市	高田	桜井	9月16日	御牧勤兵衛		郡山	
170	十市	池内	桜井	9月16日	御牧勤兵衛		郡山	桜井
171	十市	栗原	桜井	9月20日	石田李頭		郡山	
172	十市	鹿路	桜井	9月	助治郎		郡山	
173	十市	桜井	桜井	9月16日	石田李頭 芝田新兵衛田辺小左衛門小林九郎左衛門		郡山	桜井
174	十市	上宮	桜井	9月16日	御牧勤兵衛		郡山	
175	十市	下	桜井	11月29日			郡山	
176	十市	内膳	橿原	9月	増田右衛門尉打口佐伯彦兵衛		郡山	橿原
177	十市	木原	橿原	9月7日	東玉 門兵衛大郎介		郡山	橿原
178	十市	豊田	橿原	9月7日	石田治部少輔打口			橿原
179	十市	新口	橿原	9月9日	長東大蔵大輔			橿原
180	十市	木ノ本	橿原	9月6日	東玉			橿原
181	十市	中	橿原	9月	長東大蔵大輔 青木金左衛門・中村十右衛門			橿原
182	十市	十市	橿原	なし	長東大蔵大輔			橿原

183	十市	新堂	桜井	8月	長東次良兵衛		桜井
184	十市	西ノ宮	桜井	9月	長東次良兵衛		桜井
185	葛上	南郷	御所	9月	新庄駿河守	郡山	
186	葛上	柏原	御所		新庄駿河守	郡山	
187	葛上	稲宿	御所		新庄駿河守	郡山	
188	葛上	栗坂	御所		新庄駿河守	郡山	
189	葛上	池之内	御所		新庄駿河守	郡山	
190	葛上	林	御所		新庄駿河守	郡山	
191	葛上	五百家	御所		新庄駿河守	郡山	
192	葛上	内谷	御所		新庄駿河守	郡山	
193	葛上	重坂	御所		新庄駿河守	郡山	
194	葛上	奉膳	御所		新庄駿河守	郡山	
195	葛上	朝町	御所		新庄駿河守	郡山	
196	葛上	古瀬	御所	9月		郡山	御所
197	葛上	戸毛	御所		新庄駿河守	郡山	
198	葛上	今住	御所	9月	新庄駿河守	郡山	御所
199	広瀬	大垣内	広陵	8月	長東次郎兵衛 国領喜右衛門小谷孫作	郡山	広陵
200	広瀬	寺戸	広陵	8月26日	東玉(新庄直忠) 門兵衛・太郎介	郡山	広陵
201	広瀬	佐味田	河合	8月	東玉(新庄直忠)		河合
202	広瀬	山坊	河合	8月22日	東玉(新庄直忠) 五介・介右衛門		河合
203	広瀬	藤森	高田	8月20日	東玉(新庄直忠)		高田
204	広瀬	安部	広陵	8月22日	東玉(新庄直忠) 弥吉・源次郎		広陵
205	広瀬	足相	広陵	8月22日	東玉(新庄直忠) 新作・久七		広陵
206	広瀬	笠	広陵	8月25日	なし		広陵
207	葛下	今里	高田		(石田)中嶋惣左衛門	郡山	
208	葛下	土庫	高田		(石田)片桐惣左衛門	郡山	
209	葛下	勝目	高田		(石田)松田重太夫	郡山	
210	葛下	弁之庄	新庄		(石田)牧野伝蔵	郡山	
211	葛下	中戸	新庄		(石田)牧野伝蔵	郡山	
212	葛下	太田	当麻	9月5日	(石田)須藤権右衛門	郡山	
213	葛下	瓦口	香芝	9月17日	(石田)「佐藤主殿		香芝
214	忍海	脇田	新庄		新庄駿河守	郡山	
215	高市	土橋	樺原	9月16日	御牧勤兵衛	郡山	樺原
216	高市	今井	樺原	欠	御牧勤兵衛		樺原
217	高市	土佐	高取		石田李頭	郡山	
218	高市	吉備	高取		石田李頭	郡山	
219	高市	森	高取		石田李頭	郡山	
220	高市	薩摩	高取		石田李頭	郡山	
221	高市	田井庄	高取		石田李頭	郡山	
222	高市	松山	高取		(石田)小林九郎右衛門	郡山	
223	高市	羽内	高取		石田李頭	郡山	
224	高市	谷田	高取		御牧勤兵衛	郡山	
225	高市	真弓	明日香		嶋田九郎左衛門	郡山	
226	高市	妙法寺	樺原		石田李頭	郡山	
227	高市	与楽	高取		石田李頭	郡山	
228	高市	寺崎	高取		御牧勤兵衛	郡山	
229	高市	観音寺	樺原		御牧勤兵衛	郡山	
230	高市	兵庫	高取		御牧勤兵衛	郡山	
231	高市	栗原	明日香		石田李頭	郡山	
232	高市	檜前	明日香		石田李頭	郡山	
233	高市	平田	明日香		(石田)小林九郎衛門 吉左衛門寺田次左衛門	郡山	
234	高市	見瀬	樺原	9月20日	石田李頭 小林九郎右衛門	郡山	樺原
235	高市	高殿	樺原		石田李頭	郡山	
236	高市	久米	樺原	9月20日	石田李頭 小左衛門打口	郡山	
237	高市	八木	樺原		御牧勤兵衛	郡山	
238	高市	和田	樺原		(石田)小林九郎右衛門芝田新兵衛	郡山	
239	高市	田中	樺原		石田李頭	郡山	
240	高市	木殿	樺原		吉左衛門熊右衛門	郡山	
241	高市	四条	樺原	9月16日	御牧勤兵衛	郡山	
242	高市	新堂	樺原	9月16日	御牧勤兵衛	郡山	樺原
243	高市	西坊城	高田		御牧勤兵衛	郡山	
244	高市	畑	明日香		石田李頭	郡山	

245	高市	細川	明日香		長田庄九郎	郡山	
246	高市	上居	明日香		長田庄九郎	郡山	
247	高市	坂田	明日香		石田李頭	郡山	
248	高市	岡	明日香	9月20日	石田李頭	郡山	
249	高市	飛鳥	明日香		石田李頭	郡山	
250	高市	小原	明日香		石田李頭	郡山	
251	高市	八釣	明日香		石田李頭	郡山	
252	高市	橋	明日香		石田李頭	郡山	
253	高市	野口	明日香		石田李頭	郡山	
254	高市	出	高田		御牧勤兵衛	郡山	
255	高市	奥田	高田	9月16日	御牧勤兵衛	郡山	高田
256	高市	秋吉	高田			郡山	高田
257	高市	吉井	高田		御牧勤兵衛	郡山	
258	高市	北越智	榎原		御牧勤兵衛	郡山	
259	高市	市尾	高取		御牧勤兵衛	郡山	
260	高市	越	明日香		石田李頭	郡山	
261	高市	根成柿	高田	9月16日	御牧勤兵衛	郡山	高田
262	高市	常門	榎原		御牧勤兵衛	郡山	
263	高市	小槻	榎原		御牧勤兵衛	郡山	
264	高市	薬水	大淀		御牧勤兵衛	郡山	
265	高市	石川	榎原	8月23日	欠		榎原
266	高市	鳥屋	榎原	8月25日	石田李頭打口上野十右衛門毛利吉左衛門		榎原
267	高市	車木	高取	9月			奈良県
268	宇陀	平尾	大宇陀	9月	御牧勤兵衛		大宇陀
269	宇陀	下竹庄	大宇陀	8月23日	賀須屋内膳正		大宇陀
270	宇智	五条	五条				五条
271	宇智	大津	五条	9月	朽木河内守	郡山	五条
272	宇智	櫻辻	五条	9月	朽木河内守	郡山	五条
273	宇智	中	五条	9月	朽木河内守	郡山	五条
274	吉野	小路	下市町	8月			奈良県
275	吉野	竜門内田原	大宇陀	9月	八嶋九兵衛	郡山	大宇陀
276	吉野	竜門内柳	吉野	8月	八嶋九兵衛	郡山	
277	吉野	三村内川合	上北山	9月	八嶋九兵衛	郡山	
278	吉野	和田	天川		八嶋九兵衛	郡山	
279	吉野	北曾木	西吉野		八嶋九兵衛	郡山	
280	吉野	迫	川上		八嶋九兵衛	郡山	
281	吉野	小来栖	東吉野	9月	なし		東吉野
282	吉野	麦谷	東吉野	9月	なし		東吉野
283	吉野	御吉野	黒滝	8月25日	速水甲斐守		黒滝
284	吉野	六田	吉野	8月			吉野
285	吉野	山口	吉野	8月	八嶋九兵衛		竜門
286	吉野	西谷	吉野	8月			竜門
287	吉野	峯寺	吉野	8月	八嶋九兵衛		竜門
288	吉野	高原	川上	8月	八嶋九兵衛		川上
289	吉野	井戸	川上	8月	八嶋九兵衛		川上
290	吉野	碓	川上	8月	八嶋九兵衛		川上
291	吉野	桑原	下北山	10月3日	速水甲斐守		下北山

188 168

【出典】郡山…『大和郡山市史』、奈良…『奈良市史』通史三、大乗…『お茶の水図書館蔵成實堂文庫「大乗院文書の解題的研究と目録」(上)、天理…『改訂天理市史』上巻、若槻…『大和国若槻庄史料』第一巻、山添…『山添村史』上巻、平跡…『松川文吉「平城京跡の村」』、富雄…『富雄町史』、伏見…『伏見町史』、奈良県…『奈良県古文書目録』安堵…『安堵町史』本編、斑鳩…『斑鳩町史』三郷…『三郷町史』法隆…『法隆寺の至宝』古記録・古文書、都祁…『都祁村史』、図書館…『天理図書館近世文書目録』、室生…『室生村史』、桜井…『桜井市史』上巻、大三輪…『大三輪町史』、川西…『川西村史』、三宅…『三宅町史』、田原本…『田原本町史』本文編、榎原…『榎原市史』上巻、御所…『御所市史』広陵…『広陵町史』本文編、河合…『河合町史』、高田…『改訂大和高田市史』、香芝…『香芝町史』、大宇陀…『新訂大宇陀町史』、五条…『五条市史新修』、東吉野…『東吉野村史』通史編、黒滝…『黒滝村史』、吉野…『吉野町史』上巻、竜門…『奈良県総合文化調査報告書吉野川流域竜門地区』、川上…『川上村史』、下北山…『下北山村史』



## シェイク・マスト・ゴー・オン

国語科 柳本 博

### はじめに

あるいは朝のTV番組。今日の運勢は、とか、星占い、星座占い、に心を奪われる慌ただしい時間帯。新聞にも雑誌にも、占い、運勢、ラッキーカラーにラッキーアイテムは溢れている。自分の星座や血液型がいいほうであれば一瞬喜び、そうでなければ心に暗い影が射す。もちろん次の瞬間にはほぼ忘却の彼方なのだが、気持ちは揺れる。なんなのだろう、この気持ちは。運勢がいい悪いはわかる。しかし、なぜだとかアイテムなどまでわかるだろう。誰か明確に教えてほしい、どうでもいいことだが、たまに脳裏をよぎる疑問である。その占いに心を奪われ、碎かれた男と、その妻がいた。

### 第一章 四年目のシェイクスピア

当日プログラムのメッセージは次のとおりだ。

年末恒例紅白黒紫演劇合戦 紅白！ ガキ使！ DDC！ 平成最後のシェイクスピアシリーズ『マクを下ろすな！』 平成最後の二

刀流マクベス半端ないって言ってんじゃねーよ、そんなんできひんやん普通、そだねーって言っといてやできるんやったら、もぐもぐ』以上が正式名称ですが、同調圧力により自主規制しました。オランダに行った、なおみ先輩が愛を込めて書き下ろした作品よー。筆下ろしするわー。

風物詩のように扱われるという名誉。そんな中、今年は、「マクベス」。劇団☆新感線による庄巻の『メタルマクベス』、全国大会で衝撃的な一人芝居として成果を上げた松本美須々ヶ丘高校の『M夫人の告白』にも後押しされ、試演会マクベスを『カメラを止めるな！』方式で作ろうと目論んだ。

もともと、私の中には手塚治虫の『バンパイヤ』の影響もある。初めて読んだのは一九六八年、ちょうど五〇年前！ ものすごい時間の経過である。つまりは占いの魔女の予言(あるいは預言)によって、殺人を犯し王に上りつめたものの、破滅的な未来へと落ちてゆく狂気の夫婦の物語、と捉えることができる。

## 第二章 大会の詳細

作者の言葉 祝大阪万博なおみ (DDC Dokkyo Drama Club)

獨協中学・高等学校シェイクスピア・シリーズ第4弾をお届けします！ きっかけは……。いつも演劇のことしか考えてないのに、じつは演劇のことをまったく知らないことに、はた、と気づいたの。そこで、少し勉強を始めちゃった。グループに分かれて、同じ戯曲の(ほぼ)同じシーンをどのように料理・演出するか勝負よ。祝東京五輪(いつわ)まゆみ姉さんが編み出した手法。ウフ。いつもウチの演劇部が夏合宿でやっている方式をお見せするわ。

これまでの勉強

第1弾(2015年)「ベニスの使用人——ベニスって何？」(作・

演出 獨協太郎)

第2弾(2016年)「君の縄。シンロミオ」(作・演出 複写太郎)

第3弾(2017年)「日本ハムレット——メジャーに行くべきか行

かざるべきか、それが！」(作・演出 小谷翔平)

そして今回も、少しお勉強したわ。「マクベス」といえば……

① きれいは汚い、汚いはきれい。さて、あなたなら……？

② ○○は眠りを殺した。○○の中には何を入れる……？

大野 ① 綺麗は汚い、汚いは綺麗。ただし現実逃避だ。

② イベランは眠りを殺した。

石崎 ① きれいは汚い、汚いはきれい。正義は悪、悪は正義。

坂本

- ② 活字は眠りを殺した。  
① 綺麗は汚い、汚いは綺麗。最近はずいぶん寒い。だから本当は暑い。

澁谷

- ② 期末テストは眠りを殺した。  
① キレイは汚い、汚いはキレイ。そんなことがあるだろうか。(反語)

波田野

- ② クリスマスの寂寥感は眠りを殺した。  
① 綺麗は汚い、汚いは綺麗。たぶん来るは来ない。来ないは来る。

高橋

- ② 眠りは眠りを殺した。  
① きれいは汚い、汚いはきれい。イケメンはあざとい、あざとさこそイケメン。

石本

- ② 時差は眠りを殺した。  
① 顔がきれいは心が汚い、顔は汚いは心がきれい。ちなみに僕はどっちも綺麗。

高木

- ② 好きな女の子とのドキドキする会話は眠りを殺した。  
① キレイは汚い、汚いはキレイ。奈良判定は汚いから綺麗。スマートフォンのお知らせは眠りを殺した。

近藤

- ② 私のオペラ声はきれい？  
① 眠りつて殺せるの。殺せるわけねーだろ。バーカ。

中山

- ② 綺麗は汚い、汚いは綺麗。俺は綺麗。  
① スタリラは眠りを殺した。

大橋

- ② きれいはきたない、きたないはきれい、ひらがなだとわかりにくい。

是枝 ② 自らは眠りを殺した。  
① 綺麗は汚い、汚いは綺麗。汚いも汚い。

川下 ② スマホは眠りを殺した。  
① 綺麗は汚い、汚いは綺麗。でも私の心は綺麗でもないけど汚くありません。

(やけくそ) ② 勉強は眠りを殺したと思っていた。でも違った。  
① きれいは汚い、汚いはきれい。正義は悪。悪は正義。

鈴木 ② 悪夢は眠りを殺した。  
① キレイは汚い。汚いも汚い。ガッハッハ。Byジャイアン

大西 ② 父のいびきは眠りを殺した。  
① 綺麗は汚い、汚いは綺麗。政治家の心は汚い。

吉村 ② 「アラートは眠りを殺した。  
① 裏切りは戦場の華。汚いからこそ綺麗。

柏倉 ② 文明は眠りを殺した。  
① きれいは汚い、きたないは綺麗。白いは黒くて黒いは白

い。  
② ブルーライトは眠りを殺した。

清水 ② お寿司が空きはお寿司が嫌い。ちなみにまぐろが大好きです。  
① 社会の試験勉強は眠りを殺した。結果は生き残った。

長谷川 ② 若く見えるは嬉しい、若く見えないも嬉しい、そんなお年頃。  
① 「恋の話」は眠りを殺した。私のために死ぬる？

なおみ ① フェアはファウルでファウルはフェア。だからビデオ判

定があるのよ。

② キングは眠りを殺した。もちろんステーキヴン・キングよ。

まゆみ ① 綺麗は汚い、汚いは綺麗。達筆ほど読みにくい。

② 汗水たらして喋ってるのに居眠りしてる奴は殺したくなるわ。

日韓友好

TOKYOドラマフェスタ VOL.20

— 第60回 東京私立中学高等学校演劇発表会 —

◎ 生徒創作 ○ 顧問創作 ● 既成作品 ☆ 戯曲集 @ Ⅱ  
インターネット脚本

● 12月26日(水) 開場 午前8時20分

1 文京学院大学女子中学校高等学校 8:30 ~ 9:20

☆宮澤賢治 原作 深澤直樹 脚色

『イリュージョン「銀河鉄道の夜」より』(50分)

2 東京農業大学第一高等学校中等部 9:35 ~ 10:30

☆島元要 作 『出停記念日』(55分)

3 中央大学附属高等学校 10:45 ~ 11:40

宮澤賢治 作・平田オリザ 翻案・演劇部 潤色

『銀河鉄道の夜』(55分)

Ⅱ 昼休み 11:40 ~ 12:05 (25分) Ⅱ

4 日本大学豊山女子高等学校・中学校 12:05 ~ 13:00

◎演劇部 作 『学園天国』(55分)

5 成蹊中学高等学校 13:15～14:10

◎演劇部・○ミヤモトコウジ 作 『JK』(55分)

6 十文字中学・高等学校 14:25～15:10

@さいとうやすひろ 作 『すくえますか?』(45分)

7 関東第一高等学校【韓国凱旋公演】 15:25～16:20

○川合智 作 『ココカラ』(55分)

8 日本大学第二高等学校 16:35～17:25

○宇田川豪大 作 『姉』(50分)

専門審査員講評 17:30～18:10

●12月27日(木) 開場 午前8時20分

1 聖徳学園中学・高等学校 8:30～9:25

●チャー・アズナブル 作 『メルヘンの尻尾』(55分)

2 順天中学高等学校 9:40～10:35

◎岡田拓巳 作 『鳥が鳴く木の下で』(55分)

3 白百合学園中学高等学校 10:50～11:45

@染静 作 『僕の明日が見せる色』(55分)

≡昼休み 11:45～12:10(25分)≡

4 明治学院中学校・明治学院東村山高等学校 12:10～13:05

宮澤賢治 作 ◎演劇部 脚色 『銀河鉄道の夜』(55分)

5 吉祥(きちじょう)女子中学・高等学校 13:20～14:15

◎藤巻晴佳 作 『サクラソウ』(55分)

6 獨協中学・高等学校 14:30～15:25

◎祝大阪万博なおみ 作 『マクを下ろすな!——平成最後の二刀流  
マクベス半端ないって言ってんじゃねーよ、そだねー、もぐもぐ』  
(55分)

7 工学院大学附属中学・高等学校 15:40～16:25

◎原島聖 作 『平成最後平成最後ってうるせーよ!』

——おぐ、安永、言葉を慎め。——』(45分)

生徒審査員講評 16:40～ 専門審査員講評 16:55～

表彰式 17:30～18:15

2018年12月26日(水)～27日(木)

主催 一般財団法人 東京私立中学高等学校協会

会場 京華女子高校講堂

### 第三章 戯曲

日韓友好TOKYOドラマフェスタ

獨協中学・高等学校2018上演台本

マクを下ろすな

2018・12・15 第3稿

祝大阪万博なおみ

登場人物

紅組 高木班 高木洋明 柏倉 紘 松本 鍊 吉村 嶺

白組 中山班 中山雄暉 石崎哲士 清水晶友 鈴木晴斗

黒組 近藤班 近藤 陸 大橋建斗 波田野大祐  
紫組 石本班 石本雄大 大野暁春 坂本和俊 澁谷新生

● STAFF

作・演出：祝大阪万博なおみ

演出助手：大野暁春

音響：川下大成

照明：是枝 大

音響効果：大西和弥

舞台監督：澁谷新生

演技指導：塩澤優希

小道具：澁谷新生

チラシ：澁谷新生

協力：高橋開成 小林蓮 土屋龍斗 内田悠嗣 古田匠

坂井治樹 浅川龍太郎 石塚薫 小畑亮雄 神林純太郎

和久田碧惟 内海直希 守田立吾 吉川潤 六川文裕

柳本博 長谷川美奈 井上修

PROLOGUE

幕開くとアナウンサー。

アナ やってまいりました、全米オープン。

王者・セリダシウィリアムズに対するのは小坂なおみ

セリダシ うおつ。

なおみ ふん。

セリダシ うおつ。

なおみ ふん。

レフリー ゲーム、コサカ。

怒り出すセリダシ。

セリダシ うううううおおおお！ ボボボボ！

なおみの勝利。

歓声。

アナ やりました、小坂なおみ。ゼンベイチャンピオン！

なおみ なおみよー。

反対側に色男。

なおみ ヒガシコリくん。

ヒガシ コリ。

なおみ そんなに私のこと。

ヒガシ コリ。

なおみ うれしわー。

ヒガシ 好きなんだコリ。

なおみ そうね、そうなのね、私のことが。

ヒガシ コリ、サーシャコーチのことが。

なおみ ま。なおみよー。

アナ おっと、小坂なおみもキレております。音楽！

音楽。きらびやかに。

いつもの役者紹介。

演出家の大野がにこやかな笑顔で登場。

当然、演出家らしく大野はカッターシャツの前をはだけている。

胸毛がせり出す。

大野 (胸毛をぼりぼりかきむしり、指にまつわりつく毛を吹き

ながら) はーっはっはっ。今年も快調。いい出だしじゃな

いの。

ネオ そうですかね。

大野 いいよ、いいよ。きみもね。

波田野 はい、ありがとうございます。

大野 ズバーツとね、思い切つてやればいいから、それで。

ネオ ハイ。

大野 あれ、きみたちどうしたのかな。

大相撲協会のような癒着の激しい最上級生に比べ、下級生は必死  
なのだ。

吉村 先輩、僕たち納得いきません。

松本 納得してません。

大野 何が。あれ、どーしたの、コンドーちゃん、暗い顔して。

吉村 おかしいと思うんです。

ネオ 何が。

波田野 どころが。

松本 これってマクベスですよ。

大野 そうだよ。

近藤 ど、どころが！

ネオ だからアレだよ、年末恒例のシェイクスピアシリーズ究極

の第4弾。今年はいよいよ、

波田野 マクベスに挑戦！

吉村 それもうやめるって言ってますでしたっけ。

中山 お言葉ですが、僕はちゃんとした演劇をやるうと思つて入

部したんです。

松本 これって。ねえ。

吉村 ああ。

近藤 ふぬーっ、ふぬぬぬぬー。

大野 何をそんな。興奮することなんかないって。

ネオ そうだよ。あれ、雑魚のみんなもどーしたんだい？

雑魚たちも中国共産党の独裁に反対する香港市民のようになって  
いた。

柏倉 聞いてください。ほんとにいいんですか、このままで。

清水 そうです！ って何が？

吉村 すべての演出は、パワハラとどう違うんですか。

柏倉 パワハラ？

清水 パリコレ？

ヒガシコリ、乱入。

いきなり、なおみを倒し、サーシャコーチも倒し、大野と殺陣。

ヒガシ まともな芝居がやりたい。そういつて、中山先輩は死んで

いきました。

中山 え、俺ここにいるよ。

清水 パリコレ。

ヒガシ 僕もそうです、大野さん。ちゃんとした芝居がしたい。必然性のある殺陣がしたい。すぐ脱げといわれるけど、ちゃんと意味をもって脱ぎたい。それが僕の願いなんです。

大野 うっ。

刀、一閃。

倒れる大野。

柏倉 よくやったじゃない。

清水 そうさ、よくやったよ。

ネオ なかなかいいじゃないか、マイケル。

ヒガシ（マイケル鈴木） でも僕の本音なんです。

大野 起き上がり。

大野 本音、か。

波田野 ぬぬぬ、ここまで言われてどうする、大野。

ネオ おまえだけが頼りだ。大野。

大野 よし！

波田野・ネオ 大野！

大野 よしわかった。私、トッキー大野。ここに闇の声を上げる。

今年こそ、今年こそまともなやろう。年末恒例、シエイク  
スピアシリーズ。

波田野・ネオ ありがとう、大野。

大野 （胸毛をかきむしりながら） どれがいいか選んでもらおう。  
ネオ そう、これは我々が夏合宿でやってる試演会方式。古今東  
西の名作戯曲を一つ選び、ひとチーム十分で同じテーマの  
同じシーンをいかに演出、

料理するか。

波田野 その勝負。

大野

ネオ 合宿の時は競うのです。そしていちばんいいチームを選ぶ  
のです。選ばれたチームが行くのはそれこそ

全員 天国！（全員、しばらく天使のように宙を舞う）

ネオ 選ぶのは、

全員 （客席へ指を突きつける） あなたです。

波田野　　まずは高木班。

ネオ　　よいい、アクション！

高木班

OP　傀儡子幕上

魔女出てくる。魔女はほうきにのって中央に行く。

魔女　　魔女です。キレイは汚い。汚いはきれい、そのとーり。マクベス。

マクベス、出てくる。

マク　　はい。

魔女　　おまえは欲望のまま進めば王位を継ぐことができるだろう。

マク　　本当ですか。

魔女　　ああ、そうだ。

マク　　そうか。なら、○○王に俺はなる。出てこいダンカン！

ダンカン、出てくる。

ダンカン　　どうしたマクベス。

マク　　お命ちょうだい。

ダンカン死ぬ。

マク　　これで王になった。魔女よ、われの地位は安泰なんだろうな。

魔女　　ええ、女から生まれた人間に、お前が殺されることはない。

マク　　はは、女から生まれてない人間なんているものか。勝ったな。ははははは。

マクベス去る。

魔女　　バンクオー。

バンクオー、出てくる。

バン　　はい。

魔女　　お前らは……

バン　　いやー、ちよつと待つてください。まだ心の準備が……。

魔女　　お前には……何も無い。

バン　　え？ いやいやいや、嘘でしょ。冗談はよしてくださいよ。お前には何も無い。お前の息子フリーアンスに用がある。連れてこい。

バン　　フリーアンス？ え、いやまたまた御冗談。

魔女 フリーアンスを連れてこい。

バン はい。

バンクオー去る。

魔女 バンクオーの息子フリーアンスよ。

フリ はい。

魔女 おまえはいずれ……王になる。

雷鳴。二人、去る。

S 1 将死成霊鬼

バン マクベス、王は本当に……。

マク まだわからないのか！ あいつらだ、王子たちが殺ったんだよ。

マクベスとバンクオーが口論している。

バン しかしな、あの優しい王子が王を殺したとは思えない。

マク いや、あんなに血相を変えて逃げ出したんだ。奴ら、ダンカン王が下りるのを待てなかったようだな。

バン そうか？ だったらなぜ自分たちが殺したのを隠そうとしない。まるで誰かが押し付けたよう……

マクベス、バンクオーを刺す。

バン な……まさかッ？

マク きさまは知りすぎた。死ね。

バン (言い訳)

マク、剣を抜く。バン、うるさい断末魔。去りそうになりながら去らない。

マク、再び斬る。

バン、いったん死ぬ。マクが剣を振るとまたうるさい断末魔。

マク うるせー！

バン ぐは！

マク、去る。魔女出てくる。

魔女 さあ、バンクオーよ、このゾンビパウダーで我が傀儡とな

れ？

バンクオー、起き上がる。

魔女 ほれ、右手あげろ。左手あげろ。右手あげないで左手さげ

ろ。なんかしゃべれ。

バン なんかしやべれ。

魔女 よしいけ。

バン よしいけ。

バン、出ていく。

魔女 これで計画は一步前進だ。

バン これで計画は一步前進だ。

魔女出ていく。

## S 2 喜霊鬼狂宴

マク、そわそわしている。フリーアンス、マクに近づく。

フリ マクベス王、ご就任おめでとうございます。

マク おまえフリーアンスか。バンクオーを知らないか。

フリ 私も見ておりません。

マク そうか。

バンクオー、出てくる。

フリ お父様、ここにいましたか。

マク、十字を切つてのけぞる。

フリ マクベス殿、どうなされましたか。

マク いや、なんでもない。おまえにも見えるのか。

フリ は？

マク いやいや、何でもないさ。

フリ それでは私が乾杯の……マクベス王、どうなされましたか。

マク いや、少し体調を崩してしまつて。

フリ それは大変だ。マクベス王、部屋でゆっくり休んだらどう  
です？

マク そうさせてもらう。

マク、去る。

フリ 王がいなくなつてしまつたが、一応、乾杯。

一同 乾杯。

バン フリーアンス、あとで部屋に来てくれ。

フリ わかりました、お父様。

全員去る。

## S 3 夜青月風冷

フリーアンス、バンクオーが舞台上に。

バン フリーアンス、突然だがダンカン王を殺したのは誰だと思  
う？

フリ それは王子たちじゃ……

バン いや、マクベスだ。

フリ いや、なんでそんな簡単に決めつけるんだ？

バン おまえもうすすり気づいてるんじゃないか。不自然な行  
動がかなりある。

フリ まあそうだが。

バン だから、私たちがマクベスを殺そう。そしてお前が王にな  
れ。

フリ 私が王に……。

バン ああ、そうだおまえが王になれ！

フリ わかりましたお父様。俺がマクベスを倒して王になる。

バン よく言った。明日の朝、イングランドが攻めてくる。その  
混乱を狙え。俺も協力する。

フリ ありがとう、お父様。

フリーアンス、去る。反対側からマク出てくる。

マク ここにいたか、バンクオー。

バン ああ、酔いを冷ましにな。おまえこそ体は大丈夫なのか。

マク なんとか大丈夫だ。

バン しかし、あんなに気の弱かったお前がいまや王か。

マク 不服化？

バン いやそうでもない。しかし疲れたな。私は休ませてもらお  
う。

マク そうか、じゃあ、ゆつくり休んでくれ。

バン、去る。マク、大きく伸び。

マク やつと手に入れた王位なのだ。誰にもとらせないぞ。

マク、剣を抜く。雷鳴。

マク、剣をしまい、去る。

S 4 狂帝笑斬首

マク、眠そう。そこにバンクオー入ってくる。

マク バンクオー、そんなに息巻いてどうしたんだ。

バン 大変だ。イングランドが攻めてきた。どうなされます。

マク、遠くを見つめる。剣を抜く。

マク イングランド兵だろうと、私は殺せまい。「女から生まれ

た人間に、マクベスは殺せない」！

バン 総勢は、たったの千人だとか。

マク 他愛ないな。我が軍をもつて撃退するぞ！ バン  
クオー！？

バン、剣を持ってマクベスに向かっている。狂った笑いを浮かべ  
るバン。

マク きさま……狂ったか。

マクとバンの殺陣。

マクはバンをきりすてるが、なおも立ち上がるバン。

バン (狂った笑い声)

マク きさま何者だ。いや、おまえはなんだッ？

殺陣。

マク、バンの喉を突き刺す。

その剣をつかみマクベスを刺すバンクオー。

マク う……

マク、断末魔を上げながら去りそうになる。そこを後ろからフ  
リーアンスが刺す。

フリ やつと着いたと思ったらもう終わっていたとは。さすがは

お父様。おや？ まだ息があるとは。

マク くそ、私は女から生まれた人間には殺されないはず？

フリ そうなのか！ だが残念だったな。この剣の銘はマクダ

フ！ 女なんぞからは生まれていないんだよ！

フリーアンス、マクベスを斬る。

マク ぐわー——！

E D 傀儡達幕下

フリーアンス、中央へ。

フリ やつた。やつと暴君を殺した。さ、いまから私が王だ。

爆発。

少したって魔女出てくる。

バンクオー、犬化する。

魔女 あーよしよしよし。

フリ おまえは誰だ。

魔女、中央に来る。

スポット当たる。

魔女

私はフリーアンス様を見たときひとめぼれしました。あんなに勇ましくかっこいい人がいるなんて。私はそれからずっとフリーアンス様のことを考えていました。ずっと。そして私はどうしたらフリーアンス様のところへ嫁に行けるか考えました。そして、思いつきました。フリーアンス様に恩を売ればいいんだと。その恩とはフリーアンス様よ王位にあげること。そして王妃になればいいんだと。だから私はこの計画を考えました。バンクオーをゾンビにしてマクベスを殺す。これを達成したいま、私は決めました。私、魔女やめます。そして、王妃になります。フリーアンス様！

フリーアンスに抱きつく。

フリ やだ、こんな最後ヤダ！

雷鳴。野次馬入ってくる。

野次 ラブラブシーンは終わりだあ！

フリ ラブラブじゃない！

魔女 逃げるわよ！

フリ 嘘だ！

魔女、フリーアンスを引っ張って去る。

野次 次は中山班！

全員、去る。

中山班

マクベスと夫人入ってくる。

夫人 ついにやったのね、あなた

マク ああ

夫人 このまま上手くいけば国の王になることができます。

三人上手、一人下手（バンクオー）。

マフ どうした、何があった

バン 王が……ダンカン王が

マフ もしや、持病の発作が？ならば早く医者に見せなければ  
バン いえ……死んだんです。ダンカン王が昇天致しました

笑点の曲かかる ツッコミをいれ曲止まる。

バン お亡くなりになりました。

マク 殺人事件ですか？

マフ なぜ殺人事件だと

マク いえ、なんとなく、そ、それで犯人は

バン 今探している最中（もなか）です。

夫人 最中（さいちゆう）

バン 最中（さいちゆう）です。

マク そんな悠長な！我々で犯人を見つけましょう

夫人 そうです、王を殺した反逆者を我々の手で捕まえましょう

容疑者を集めましょう早く！

バンクオー・マクダフ わ、わかりました

マク 犯人はこの城の中にいる

バン じゃこの中の四人ですね

マク えっ！

バン そ、それが、召使いたちは昨日の朝から慰安旅行に行つて

ましてインスタに写真もあげられています

マク 何！あいつら許さない。俺を置いてくな！俺も行く

夫人、マクベスを殴る。

夫人 人が多いときに殺せつて言いましたよね

マク ちよつと……忘れちゃった

マクベスへへるポーズ。殴る夫人。

夫人 遊びじゃないんだ、ここは戦場だ。ま、まあなつてしまつ

たものは仕方ないこのまま続けるぞ

マク ああ

二人離れる。

夫人 年齢は20〜50、血液型はAかBかO、出身地はヨーロッパ

パ

随分アバウトですね

そんなに褒めても何もねえぞ

褒めてない

死亡推定時刻は朝の12時

で、その時何してましたか？

三人で大乱闘（おおらんとつ）SBやっていました

大乱闘（だいらんとつ）

SB？

お前が使っていたピカチュウ強（きょう）かったな

強かった

いやいや水谷選手も強かった

水谷選手？

私のチャンネルも強かったでしょ

ちよつと待つてSBつて何の略？

スマッシュブラザーズ

マフ スポーツボーイズ

夫人 スペシャルブランド

マク まともなのが一つしかない

バン それでマクベスは何をしていたんだ

マク 俺か？俺は王の寝し・ゴホンゴホン寝室で寝てたな

バン 死亡推定時刻朝の12時じゃないの

マクベスばれてしまった顔。

夫人 その時は馬鹿眠かったんだよ

バン 誰の寝室

マク 王さ・ゴホンゴホン キングと書いてあった気がするな

夫人 あ！あそこにUFOが

マフ えっ！どこどこ

バン UFOってどうやって漢字で書くの

夫人 英語だよ

夫人、マクベスに近づいて、

夫人 何で自分のこと話すかな

マク すまん。本音が出かけてしまった

夫人 いやもろだよもろ。モロツヨシだよ。王になる気あるの！

だいたいねえあなたはねえ。

三人 どこにあるんだよ！

夫人 雲の形だよ！

三人 最初からそう言えよ！

夫人 王になる気あんの！

マク 王になる気はあるよ！

マフ・バン 王？

マクベス誤魔化す

バン 昨日寝てたんじゃないの

マク という夢をみたとか見てないとか

夫人またマクベスに近づいて、

マク わ、わかっている短剣から犯人を押し付けよう

夫人 何緊張しているの？こんなこと小学校の義務教育で習った

でしょう？

マク 習ってない習ってない

戻る。

マク 凶器の話をしましょう。この短剣に見覚えは？

バン 知らないな

夫人の長話 マクベスも一緒に探し出す。

夫人 この短剣一体誰のでしょうか

マク ふっふっふっこの短剣はな……バーナム劍社(株)製の

特注の短剣でな、ほら見てくださいこれ! makubesu@

gmail.com.jpと書いてあるんだ。寝室にも飾ってあって今

ならなんと! 税込で19800円! ってこれ俺のじゃない

か誰が私を犯人にしようと考えているのか

パン じゃあ犯人がいるはずだ

マフ去る。すぐ帰って来る。

マフ 100%一致しました

マク そうか面白い。ではその邪悪なる犯人を名乗ってみよ

マフ マクベスさんです

マク ほうこれはまた馴染み深い名だな

マフ マクベスさんです

マク ほうこれはm……

夫人たたきながら、マクベスに近づいて、

夫人 あれほど指紋を拭き取ってと言いましたよね

マク すまない、最後に一気に仕留める

棒を立てて(すっぽん) アキラが銃を構え

アキ こんにちは

銃声。

アキ 何ですかこの台本。つまんねえ台本書くな部長

セン 台本通りやれ

ユウ まあ台本がおかしいから仕方ない。だってあんな部長なん

だよ

センドウ怒り気味で

セン なぜ、アキラに注意しないんですか。ひいきですか。へー

ひいきする人嫌われますよ

ユウ なんだその言い方。俺は後輩思いなんだ

セン あー! (日替わり)

イスは去っている

アキ 先輩達! このくだり何テイク目ですか

アキラだけ笑って誤魔化す

ユウ すまない、今はそれで気が済まない

アキ すまないの駄洒落ですか。またまた

ユウキとセンドウの殺陣 センドウがユウキを倒す

ユウ このっ！不良生徒の失敗作が

ユウキ去る入れ替わりにイスルギ入って来る（ゾンビ）

アキ 何ですか、メイクしてもらったんですか

イス ……

アキ 何ですか。なんか言ってください！

イスルギかまれそうになるが危機一髪で回避センドウのところ  
に寄るが武器で返されてしまう

セン こつれだよ！俺が求めていたものはこの悲しみ

アキ ちよつと何言ってるかよく分からないです

イスとユウの動きが止まるが、すぐに動き出す

セン 俺はな、ちやほやされて生きている人間が大っ嫌いなんだ

よ！人の苦しみも知らず、知らず！だいたいな、部長にも  
なかつたことのないやつが部長の肩書に文句つけんじゃ

ねえ！

アキ 先輩！僕です！僕お願い、目を覚まして！

セン そんなので目が覚めたら、警察いらんわ

イスとユウ そこ警察じゃないよね

セン 黙っとれ

再び襲い出す。

セン 今ちよつと怪しかったけど、ゾンビはなあ筋肉と一緒に裏

切らないんだよ

グキッ。

セン 骨に裏切られた

アキ ちよつと先輩助けてください

セン 弱きものはいつも誰かに頼る。これが愚かな人間の末路か

アキ 頼る？取り消せよその単語

イスとユウ お？ついに（アキラの方を見て）反抗期か

アキ 人っていうのは集団で生きているんだよ。それぐらいわか  
るよな

イスとユウ まじめに聞く姿勢

セン お？やろつてのかい

アキ こっちには仲間がいるんだ

殺陣 センドウ不利

ユウ 俺は実は仮面を被っていたんだ

セン なんだこの化け物が

セン 結局質より量か

アキ 僕の仲間を、使えない粗大ごみみたいに言うな！

セン いやいやそこまでは言っていないよ

アキとイスとユウが同じ構え

セン くっ貴様らもろとも全員袋叩きにしてやる

ユウ それはこっちの台詞だ

殺陣 センドウやられる

セン これが力。

SENDOU倒れる

アキ はあはあこれって！ 間 何テイク目

ユウ 90テイク目だ！

セン でも三桁やるまで繰り返し返すぞー SENDOU去る

アキ ちよつと、台本何も決まっていなくてすよー！

曲かかる

次は近藤藩です。どうぞ

全員去る

近藤藩

OP OPのOP

前の班に紛れている三人。

前班A つぎは近藤藩！

コンドー この台本がどこから来たのか、それはきつと「想像力」的

なサムシングであろう。それと便座カパー。byウイリア

ム・シェイクスピア(1564)

ハタノ 存命している模様。

オオハシ こほん。さあ、はじめるさんすよ。

ハタノ いくでがんす。

コンドー ふんがー！

前班B まともに始めなさいよ！

前の班の人下手に去る。

全員 いらーだっ！

前班C うるせえ照明消すぞ！

全員 ちよつと待て！落ち着け！それだけは

暗転

OP OPのED

オオハシ あつ

ハタノ なあおい。どうするよ……。

オオハシ いやあ。照明消されているとなると……。

コンドー 悪いのは我々ですから。謝りましょう？

ハタノ だな。

全員 せえの、スイマセンボクたちガワルカッタデス。

照明点く。

オオハシ あ、ついた。

ハタノ おし始めっぞお。

コンドー 役者さん準備大丈夫ですか。

オオハシ 板つきましたあ

ハタノ 同じく

コンドー スタッフさん大丈夫ですか。

手で丸サインを送るスタッフ

コンドー では冬私学近藤藩。いきまあす。

手を叩くKND。

暗闇、無音、舞台上にて。

OHS 何度でも繰り返す。血は血を呼ぶ。未来の王に幸あれ！

そこには上手を向いたHTN、下手を向いたOHS、正面を向いたKND。

曲流れると、リズムを足で刻み始める三人。曲が突然消えると、足が止まる。

HTN そして、野心は悲劇となる。

KND てれつててれえ〜おれはマクベス、みんなコロシマース。

KND何かを繰り返しながら踊り続ける。

OHS 彼は、降伏することはなかった。

HTN そして、挑発した。

KND (踊りながら) うえ〜い。きえろきえろお短いローソク

鈴の音。KND止まる。

HTN そして、殺された。

首落ちるKND。もう一度鈴の音。

HTN　そして、

OとH　彼は、ゾンビになった。

落ちた首がOHSに向く。一歩ずつ下手に近づくKND。

KND　ふがあ

OHS　……ぎやあああつ！

HTN　そして、私は巻き込まれた。

止まっているHTNを連れて上手に去るOHS。

KND　許さん。

S1

曲流れる。入ってくる大橋。

近藤　みてきた？

大橋　ええ。もう、すごかったです。あの学校の舞台。

近藤　さすが全国って感じだな。

大橋　まさか国立劇場で手伝いに来ることになるとは。

近藤　そういうえば我々も一応スタッフだから新聞部の人たちの取

材があるって。

大橋　さっき先生から聞きました。本番一日目が終わった後でし

たつけ。

近藤　そういうえば例の学校マクベスを少しもじった作品やるそう  
だよ。

大橋　マジですか。今年の冬私学はマクベスで間違えないでしょ  
うね……。

近藤　はええ〜ま（ママ）んどくせまんどくせ。

大橋　今頃部室に居る人たちはうだうだしてるんでしょねえ。

近藤　えっ?!もうふざけんや。もうゾンビにでも食われテロ。

トランシーバーに何か連絡が入る。

大橋　分かりました。すぐ行きます。手伝いだそうです。

近藤　またあ?まいいや。ゆっくり行こ。

大橋　そうですねえ。アツそうだ。冬私学こんな台本どうですか?

近藤　聞かせて聞かせて。

S2

波田野上手から出てくる。

波田野　あ、もうこんな時間。急がねば……ん?部室が騒がしい。

なんかバケモノでもいるのか?

波田野下手に一度去って扉を開ける音。しばらくして波田野戻ってくる。

波田野 ん？

波田野もう一度再び下手に。

波田野 ちょ……やめて。えなに？あつまで！ヤメロ！  
ぎやあああつ！

S 3

下手から出てくるKNDとOHS。

OHS どうしたんですか！近藤さん！緊張で固まりましたか！？

KND そして、私は王となる。(ミュージカル調に)

OHS 王となる。そうですねあなたは王になるんですよ。つていうかいんですか？その喋り方。このままだと本気で内輪受けエセミュージカル俳優になりますよ！

KND いいから、話を聞け。

OHS アッハイ。

KND 私は、ファントム近藤だ。

OHS それはそれは。ご機嫌麗しく。

KND わたしは本当に王なのだろうな？

OHS 正直王より怪人の方が向いている気がします……あのものがいなくなつた今、あなた様は真正正銘の王であります。えっ、まじか。でもいいのか？私はただの通りすがりのファントム近藤だぞ。

OHS 問題ございません！王というのはたとえゾンビでも私にとつて存在していることに意味がある。貴方は今や王でございます！

KND そうだ……わたしは王だ！

OHS ……大丈夫そうですね。問題なさそう。

HTN 王となる王となる王となる王となる……

OHS お、きた。ちよつと奥の部屋にいてもらえますか？

KND、うなずいて去る。

OHS ここですよお！

HTNつぶやきながらはいつてくる。

HTN 王となる王となるオードブルオートマチック……

OHS どうしたんですか！波田野さん！緊張で固まりましたか！？

HTN そして、わたしは王となる。

OHS 王となる。そうですねあなたは王になるんですよ。つてい

うかいんですか？その喋り方。このままだと本気でガチキチサイコパスキャラになりますよ！

HTN いいから、話を聞け。

OHS アツハイ。

HTN 私は、波田野大祐だ。

OHS それはそれは。ご機嫌麗しく。

HTN わたしは本当に王なのだろうな？

OHS ええそれはもう。あのものがいなくなった今、あなた様は

真正正銘の王であります。

HTN えっ、まじか。でもいいのか？私はただの通りすがりの波

田野大祐だぞ。

OHS 問題ございません。王というのはたとえサイコパスでも私

にとつて存在していることに意味がある。貴方は今や王で

ございます！

HTN そうだ……わたしは王だ！

OHS ……大丈夫そうですね。問題なさそう。

HTN 今、問題なさそうだとか、聞こえた気がした。？聞こえた

気がした……。聞こえたあ気があしたあ、感じたあ気があ

したんだあ、震えだすう今この胸で、もう来る気がしたあ

OHS うおわあつ。割り込みマイソウル、ユアビーツ！まだ完全

には本物の波田野大祐が抜けていないのか……。

HTN 幾億のお星が消ええ、ふふふふふん……そして、私は歌詞

を思い出せなかった。

OHS う……うん。大丈夫そうだ。

KND ふがあああ

OHS ん？まずい！

OHS 去る。KND入ってくる。

KND 波田野さん？波田野大祐さん！

HTN 私は、波田野大祐だ。

KND 知ってますよ。それより、これでも私はゾンビなんです

よお？食べますよお！

HTN やめてくれ。

KND もおどうしちやつたんですか！いい加減に目を覚ましてく

ださい！がぶ。

HTN ん？

HTN しまれる。

HTN があ！ヒヒヒヒヒヒ、みんなしぬう、ゾンビゾンビい。い

ひひひひひワア血だあ。たのしいい

KND うわあああやばい！絶対まずいつて！ん？いや待て。サイ

コパスなゾンビとかもう天職じゃない？

HTN え？むいてる？

KND ええもう。この上ないほどに。そういえばさっきの変な口

調元に戻りましたね。

HTN あ、ほんとだ。なんかに頭を支配されていたような気分だ

よ……まったく。

KND 波田野さんでもでしたか……。

HTN あれ？近藤も？

KND 不思議ですねえ。なんだか首が落とされて、ゾンビになつて……

HTN あれ？でもなんかこちら辺にもう一人いた気がするぞ。

KND ああ……ああ！いた！

OHS 後ろを歩いてくる。

KND なんか無駄に早口でせっかちで歩くの早くて

HTN そうそう、血液の代わりがガムシロップが流れてて、

KND 眼鏡を付けてるとオタク顔で、

眼鏡を強調するOHS。

HTN 眼鏡を外すと眼鏡をはずしたオタク顔になる、あいつ！

眼鏡を外すOHS。

HとK ……？あれ？

HTN 誰だっけ？

OHS かけて去る。

KND どちらにしろあいつがカギを握っているということはまず

間違いないはずですよ。とにかく探しましょう！

HTN そうだな……。

二人去る。

S3 終わりの始まり

OHS 入ってくる。

OHS 綺麗は穢い、穢いは綺麗、俺の部屋汚い。

二人出てくる。

HTN ああ、いた！

OHS これはこれは国王陛下ではございませんか！

KとH 苦しゅうない。……ん？

KND 何やってんですか？私王ですよ。

HTN それいったら私も王だ。こいつが王はあなたしかできないとか言っただから。

KND 私だってこいつに未来の王近藤に幸あれとか言っ……。

HTN 何言っただ。今の王は俺だぞ！

KND やる気ですか？

OHS もおどんどんやっちゃってください。それでお互い死んでいい感じに悲劇にしちゃってください。

KとH そういってお前は！

OHS あ、どうも。

KND だれ？

OHS わかんない？

首を振る二人。

OHS あの時魔女に大釜から引つ張り出されたラスボス風のあい

つだよ！

KND あ！人の考えが分かるっていう、あいつ！

HTN どんだけ便利な能力なんだ。

OHS いや、能力ではないよ。この物語に出てくる人間の考えが

わかる理由は、この台本を作ったのが私だからだ！

HTN 貴様まさか……！

KND ウィリアム・シェイクスピア！

しえい そうだ。私こそがシェイクスピア！物語を悲劇で終わらせる

ため、本編でも学生の大会でも登場でアール。

HTN 本編でも登場ということは……？

しえい マクベスって奴いるでしょ。あいつ登場人物の分際で生き

残ってやるうとか言い出したんだよ。もう殺すしかなかつ

たから仕方なく意味ありげなセリフ言ってきたわけ。

KND だからマクベスは死んだのか！

しえい いかにも。まあてなわけでこのはなしはやっぱ悲劇にしなくちゃいけないんだ。

HTN ならなぜイギリスからわざわざここに来た！

しえい 次こそは前年のような喜劇などにさせないためだ。貴様ら

が内容を変えてハッピーエンドなんかにされたら困るから

なあ。一度は台本を書き換えて洗脳することに成功したが、

まさか殺しあう前に洗脳から覚めるとは……。

HTN 何言っている！最近はやりのゾンビものとか入れてもうカ

メラを止められなくなるぐらい意味不明にしたのはあんた

だろ！

激しく同意。

KND うるさい！お前らは一生、この試演会方式でもやってい

ろ！

HTN 黙れ！俺たちが、この試演会方式に終止符を打つ！

一閃！（聖飢魔IIはログアウトしました。）

KND 私も加勢しよう。

HTN いい。素振りでもしてろ。

KND ええ……。

しえい まったく、お前もわかっているだろう？前年、そう。今か

らちようど一年前この冬の私学大会にて、同じ公の場にて

試演会方式の終焉を宣言しながらも関わらず、貴様らはま

たこの方式をやっている。その意味が分からないのか！

HTN 分かってる。いくら俺たちが既成事実を作っても、この方

式は終わることはないだろう。それでも、いつかなくなる  
と信じて！戦う！

KND 激しく同意

しえい ならば終わらせてみる！

軽い殺陣。

しえい 終わりじゃああああx！

銃弾をかわすHTN。

しえい え……？も、もう一発！

HTNはじく。その弾をはじくKND

しえい さあ始まりました！早速ですが色々あつてはじかれ  
た銃弾が壁に向かって飛んでいきます！伸びる！伸びる  
ぞ！

はじかれた音

しえい おおおっと！色々あつて壁がはじいた！こつちに飛んで  
きます！さあ俺どうする！かわしたああ！

HTNに刺されるシェイクスピア（社員）

しえい 私は作者だぞ！？いくら切られても史実じゃないからこの  
物語の中では死ぬことはない！

HTN お前なんか、負けやしない！俺は、王だ！

KND おい、なんでお前が王になってんだ。

HTN お前まだあきらめてなかったの？！

KND 当たり前だ俺は王だ

HTN うっせ！

KND切られる。

KND 仕方ない私の奥義を見せつける時が来たようだ！ふ  
ぬううう

力をためるKND

HTN 遅い

斬られる。

しえい いいぞもつとやれ  
KND まて！今やったらすべてあいつの思惑通りだ！

HTN そうだなでもお前は殺して王になる。

しえい やったぜ。

KND切られて絶命して去る。後ろから銃を突き付けられるHTN。

しえい さあ、これで、試演会に反対する勢力はいなくなる。

剣をしまうHTN

しえい 諦めるか！いい判断だ。

HTN ……くらえ！腐ったニシン！

しえい んご。うまうま

HTN よく噛みましようねえ。

しえい ……・・うっ！腹があ！

HTN シェイクスピアの死因は、腐ったニシンを食べたことによる感染症！

しえい まさか……私を殺すただけに腐ったニシンなんかをずつと右ポケットに入れていたというのか！

HTN これで……おわりだああああ！

シェイクスピア切られる。

しえい ぎゃあ！でも効かない。ふふふ……勝ったと思ったか？き

こえないのか……？暴君よ！

かすかに響くバーナムの森の歌声

しえい 作者でもマクベスは滅ぼせない。だがバーナムの森ならどうだろうか？

バーナムの森、登場。歌いながらHTN、いや、今はマクベスというべき彼を連れていく。

しえい そして、再び悲劇は始まる。何度でも繰り返す。血は血を呼ぶ。未来の王に幸あれ！

大橋つぶやきながら去る。

S4 近藤出てくる。

近藤 新聞部の皆さんもお疲れさまでした。しゃしん？適当に撮っちゃって大丈夫ですよ。あー、疲れた。ついに今日で国立劇場手伝い終わりか……。長いようで短かったなあ。でも無事に終わってよかった。

大橋登場。

大橋 お疲れさまでした。ああそうだ。この方々は？

近藤 新聞部さんの取材。いまは休憩アンド写真撮影中。

大橋 そうでしたか。それで前自分が言った例のマクベスの話どうでした？

近藤 ああ、あれのこと？個人的h

大橋 あ、近藤さん近藤さん。波田野さんがいらつしやいましたよ。

近藤 あ、ほんとだ。学校待機の人たちも来たみたいだねえ。

大橋 あ！おおい！波田野さん！

波田野でてくる。

波田野 ……

大橋 どうしました？

近藤 何かあつたんですか？

波田野、近藤の方を振り向く

近藤 ん？

波田野、近藤にかぶりつく。

近藤 え？……ふがあ。

波田野 ふがあ。

大橋 え？

大橋に近づくとふたり。

大橋 え？なんですか？もしかして……ゾン……ピ？ああ待つて！

止まるゾンビたち

大橋 あ、とまった。

動きだすゾンビたち

大橋 ちょっと新聞部の方々！逃げないで！あ、こら！カメラを止めるな！

ストップモーション。

オオハシ（手を叩く。）はい。みなさん！お疲れ様でした！

コンドー お疲れえ。

ハタノ ……

コンドー 波田野さん？終わりましたよ？

ハタノ、コンドーにかぶりつく。

コンドー え？……ふが。

オオハシ ……え！なに！待って！

止まるゾンビたち

オオハシ あ、とまった。

動きだすゾンビたち

オオハシ だと思ったよ！

オオハシ去る。

コトハ ふが。ふが。ふが。ふが……

オオハシを追いかけて去る。

オオハシ ぎゃあああああああああ！

オオハシ出てくる。

オオハシ 次は石本班！

オオハシ去る。その後ゾンビたちも追いかけて去っていく。

石本班

OP

石本が雑魚つばいやつに連れてこられる。

石 yameroyoi！！

雑魚① 雑魚がよお！粹がつてんじゃねえぞこらあ！！

雑魚①、石本を殴る。

雑魚② そうだそうだ！オラッ！

雑魚二人に殴られまくる。雑魚のうち一人は威圧するだけ。

雑魚② これに懲りたら二度とパン買ってこいつって言ったときラン

チパック買ってきたりすんじゃねえぞ！

二人去る

石 (疾走感出して)俺は何でこんなに弱いんだ……俺にもつ

と力があれば……。

あゝあ。俺にもテッペンとる位の勇気があればなあ……あ  
あ、虚しい……チツクトツク見よ。

魔女達出てくる。踊っている。

石 やっぱこいつらおもしろえわ。ははっ。はははは……

絶望する石本。

魔女② きれいは汚い、汚いはきれい。私の部屋は汚いからきれい。

あはあははははははははは

急にノイズが入り、画面から飛び出す魔女たち

石 うわっ！お前らなんだよ！誰なんだよ！

魔① 私たちは魔女じゃよ。

石 魔女なんているわけないだろ！ババアはあっちいけよ！

まムシャクシャしてるんだよ……

魔③ 知っておるわい。だから来たんだろうに。

石 はあ？訳わからん。帰れよ

魔② まあまあ、さっきの奴らにやられてイライラしてるんだろ  
う？

石 え、なんで知ってたんだよ……キモっ

魔② 見てたからじゃよ。はっは！（癖が強い笑い）

石 いや余計キモいわ。

魔① それはそうと、誰よりも強くなれる力、欲しくないかい？

石 そんな力、あれば欲しいけどよ……

魔③ だと思ったあー。あたしやそうだと思って、用意してきた  
のさ

魔女、何かを取り出して石本に渡す

魔達 これを授けよう……

石 なんだこれ……？

小包を渡す。中に変な物。でも魔女たちはすぐそれをしまふ。

石 なんだったんだ今の……

魔① こっちじゃった。これはあたい達が月の力を込めて作った

アクセサリじゃよ。

石 いやいや胡散臭すぎるだろ。

まあまあ。死にやあせんから大丈夫じゃよ。はっは！！

いや絶対なんかあるじゃねえかよ！！てかこれどうやって  
使うんだよ。

魔③ なんか意外に乗り気じゃのう。ほっは

あんたいちいちむかつくなあ

まずそれを天高く掲げる。そしたらば、大きな声で、「ムー  
ンパワー、メイキングアーツ！」と叫ぶんじゃ。すると

あら不思議。美少女セーラー戦士に早変わり。

石 ええ！？何それめっちゃめっちゃ恥ずかしいやつじゃねえ

か!!というか、なんで俺なんだよ

魔③ お前はいずれ頂点に立つ男。そのためにはこれが必要なん

じゃ。運命は変えられんからのう。

石 まてまでまで。え?俺が頂点?

魔② そういうことじゃ。

石 なんか、魔女っていう割には優しいんだな。

魔① べつ、べつに、おまえのためにじゃないわい。勘違いしな

いでよねっ!

石 お、俺もババアのツンデレとか興味ねえし……

魔② ま、そういうことじゃからがんばりなよ。あ、ちなみに変

身するとセーラー服になるから、むやみに変身するんじや

ないよ。

魔女たち去る。

石 変なやつらだったな。ちょっと練習するか、?でもなあ

……セーラー服になるのはやだなあ……あ、合言葉だけ練

習しとこ。(ここは自由に)ムーンプリズムパワー、メイ

キングアーツ……恥ずかしいなあ……でもこれでテッ

ペン俺のもんだ!!はっはっは!

石本は走り出す

S 1

相模

おいサトルう。平和かよおいもつと暴れてえよお。なん  
か平和ボケしてねえか? 最近下つ端の奴らにもナメられ  
るしよ。俺はあつちい戦いがしてえんだよ!

サ

落ち着け相模。なんの理由もなしに暴れても……そこら辺  
の雑魚と一緒だ。

相模

そうだけだよ……  
失礼しまーっす!!!

石

そこに入ってくる石本と側近

相模

おい!誰だそいつ?お前勝手に変な奴入れんな!  
すいません!こいつなんか話あるって言って聞かなくて

側近

……

相模

なんだ?てめえ人の部屋に勝手に入ってくんじゃねえよ  
相模!そうやってすぐ絡むな!で、お前、何しに来た?

石

テッペン取りに来た。サトル、お前を倒して俺がテッペン  
になる。

側近

ええええええ!?!うっそん!?

石本、油断してた雑魚を倒す

相模

お前なあ、いい加減に……



側近、殴られる

側近 ひでぶっ！

石 おい、詫びとしてパン買ってこい！

側近 へい！あ、お金くませえ！

石 馬鹿野郎てめえの金で買ってこい！

側近 へ、へい！

買ってくる

石 これランチバックじゃねえか！

また殴られる

側近 あばびっ！！

魔女出てくる。

魔 きれいはきたない。きたないはきれい。私の部屋は汚いからきれい。

石 お、あんたか。ありがとな。お陰で Teppen とれたぜ。それで、俺の運命はこれからどうなるんだ？

魔 ほっほ、それは良かったのう。お前さんは女の股から産ま

れたものには倒せん。

石 女の股から産まれない者などいるものか！俺は無敵だ！！

魔女去る。

S3

そこに清掃員のふりをして入ってくる相模。

相模 清掃です。……ふんっ！！

後ろから殴る

石 いてえっ！なんだおまえ！

相模 この程度の変装も見破れんとは。まだまだだな！忘れたか

よクソ野郎。

石 あー、あのとときの雑魚か。

相模 サトルの仇、取りに来たんだよクズ野郎

石 生意気な。ひねり潰してやる

殺陣

相模 さすがに強いな……

殺陣

石 当たり前だろう。俺は女の股から産まれたものには負け

ん！

相模 ふっふっふ……ハッハッハ！

石 何だ、何がおかしい！？

相模 俺は、帝王切開だ！俺は、女の股から産まれてはいな

い！

石 なっ、何イ！？

石 馬鹿な、だつたら、お前が……！

相模 よし。やるか

石 畜生おおおおお！！

殺陣

石 くっ……

そこに入ってくる魔女

石 おい、ババア！良いところに来た！俺にもつと力をくれ！  
魔 言つたじやろ。運命は変えられないんじやよ。

魔女去る。

石 くそおおおお！

相模 ちよ待てよ。

殺陣

相模 ファーーーーー！ふう。すつつきりした。よし。サト

ルの見舞いにでも行つてやるか。

相模去る

ED

平和な世界。と思いきや……

?? クソツ！あの野郎！むかつくぜ、

魔女 きれいはきたない。きたないはきれい。私の部屋は汚いか

らきれい。お前さん、力がほしくないかい？

?? なんだあんた？あつち行けよ！

魔女 まあまあ……

話しながら去る。

epilogue

みんな終わって、ほっと一息。

柏倉と清水、出てくる。

柏倉 さて、選んでいただきましょう。

清水 どうぞ！

カーテンコール。

石本 まことに僭越ながら、役者紹介をさせていただきます。

高木 赤点組、高木班。(紹介する。以下同じ)

中山 白組、中山班。

近藤 黒組、近藤藩。

石本 最後は紫組、石本班。

リーダー出揃う。

ヒガシ コリ。

と言いながら、全員切る。倒れる。

柏倉 どうしよう。

清水 お客様、お願いします！

順に並べて拍手を強要する。そこに倒れているが、該当するとき

だけ立つ。

柏倉 ○○班がよかったと思う人(以下同じ)

どこか、壺位と最下位決める。

大野 決まりましたね。

しかし、しよせん大野の言うこと。説得力に乏しい。

最下位の班長 納得いかん！

最下位の組が反旗。殴りかかる。

ヒガシ、また全員倒す。

大野 よーい、アクション！ カメラを止めるな。幕を下ろす

なー。

全員、ゾンビとなって、マイケル鈴木を囲んで「スリラー」のダンス。

一糸乱れぬゾンビダンス。  
ターンがバシッと決まって、

幕

## 第四章 幕が下りて

部全体での反省会で、次のような文章を示した。

『メタ・マクベス 反省』

とにかく聞こえてくる前評判だけは、過去最高であった。客席がどうなるか。実行委員の先生方みなさんから心配された。昨年は通路をつぶし、遅れてきたかたはすべてシャットアウト。勢い込んで観に来た関東一高さんは入場すらできなかつた。そこで今年は伊藤先生の大胆英断。審査員の前に教卓を並べてブルーシート。即席の栈敷席（硬いけど）の登場である。最終日のトリ直前にあてはめざるをえなかつたためのこの事態。場内、熱気ムンムン、期待満載の中で始まつた。

まずアナウンス。祝大阪万博……うけない。焦る。ようやく題名の副題でクスクス。それからは知つてのとおり、笑わせるより笑われるような部分は仕方ない。いつものホームの感じで好意的な観客のもと、京華さんでの最後の上演は進んでいったのは安堵の一言。

今回いちばん思つたのは「メタ・シアター」という概念だ。「メタ」とは、「超〜」の意味。中高生が舞台で演じている演劇。それは、何歳を、どこの国の王様を演じようと、すべて中高生がやつていることは当たり前前提として観客は受け入れる。ところが、その枠組を逆手にとつて「役者が演じていることを劇の中で打ち出している芝居」というような意味で、よく使われる。このシェイクスピアシリーズは試演会方式と銘打っている。うちの演劇部員が演じている「メタ方式」

の枠組の存在は最初に確実に宣言しているのだ。

しかし、今回のいくつかの班は、それをまた「メタ」にして、「メタ×メタ」でワケがわからなくなつてしまつたのではないか。そんな印象が強い。たかだか十分程度のそれぞれの班の芝居なのだから、そこに二重三重の枠組を加えてしまつては、話がややこしくなつて興味を損なわれる。部員の○○であるということは大前提として触れることなく、短い時間、ひたすらマクベスの世界を構築するようにしてほしかつた。だから一部の審査員からはとても評判が悪かつた。なんとか特別賞（いらないけどね、もう）に滑り込んだのは意外といえ意外。みんなの総合力もだが、お客さんがあれだけ笑つてくれた後押しによることを忘れてはならない。

他にも、たとえば高木が冒頭、何度刺されても死なないところがある。デカい声でワハハと笑つて断末魔。でも死なないというギャグ。でもよく考えると意味が分からない。ゾンビパウダーをかけられるのはその後ののだから。こういうあたり、あとから考えると「？」であり、利根的な笑いを呼んでも後に通る理屈は残らない。

ちゃんとした芝居を、ちゃんとした会話を、ちゃんとした演技を。ゾンビが出てくるようなファンタジーに逃げるのではなく、百分百アリズムの芝居はできないものか。TOKYOドラマフェスタは年末のお祭りだから、同じような形式もよからう。でもこれは年に一回だけ。我々は演劇部だ。演芸でもコントでもない（区別は実は難しいけどね）。ちゃんとやりたい。それが2019年の目標でもある。そして、前評判だけでなく、見終わったあとこそ評判が高まる、後味のよい、後にひくような舞台を作り上げたい。

(二〇一九年一月九日)

## 第五章 二〇一八年

このTOKYOドラマフェスタの生みの親であり、本校の韓国公演推薦をいただいた内木文英先生がお亡くなりになった。今回の大会は追悼の大会となった。

全体のプログラムに以下のような文章を掲載した。

本会顧問で全国高校演劇協議会名誉会長・内木文英(ないき・ふみえ)先生が、本年10月2日にお亡くなりになりました。享年34歳でした。先生は、この大会の生みの親として、20年前の第一回から長きにわたり第一線に立ってご指導をしてくださいました。そして、韓国との交流にも心を砕かれておりました。心よりご冥福をお祈りするとともに、この大会のよりいっそうの充実を誓っております。今回のTOKYOドラマフェスタは天国の内木先生に捧げます。

韓国との交流——今年は全州で行われた大会に関東一高が『ココカラ』という作品で出場して好評を博した。顧問の川合智先生の力作を生徒たちが大熱演。大きな感動を呼んだ。私も引率者の一人として、草の根・日韓友好に一役買ったつもりである。

また、長年、この大会の舞台となった京華女子高校の講堂からも離れることになり、最後に感謝状を顧問であり、前・実行委員長の伊藤弘成先生にお渡しした。

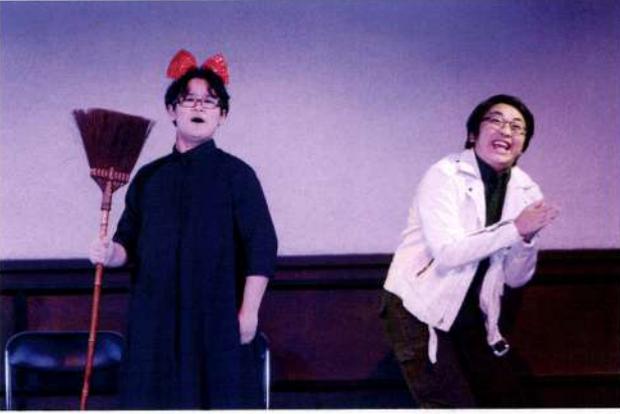
その他、高校生芸能甲子園ではベストパフォーマンス賞を受賞。地区大会奨励賞の「君たちはどう生きないか」の短縮版であった。

さて、来年以降もシェイクスピア・シリーズが続くのであろうか。チエーホフという説もあるが、そうすると私も一から勉強し直さなくてはなるまい。来年、またここにいたい。しかし、いまいる場所と風景がまったく違うことだけは自覚している。

OP「いまの調子でいいんですか」



紅組・高木班  
「ソンビパウダーで我が傀儡となれ」



紫組・石本班「私たちは魔女じゃよ」



ED「マイケル鈴木とスリラーダンス」





ることができるというメリットも忘れてはならない。しかし、視覚的な相違を用いた板書法もあり、効果的な運用も可能である。ICT 機器を用いないアクティヴ・ラーニングも同様に、リテラシーや端末数に拠らず実施することが出来る点で優れている。しかしこの場合でも、ICT 機器が運用できれば授業の可能性は広がる。筆者が行った授業例で言えば、生徒から並べ替え問題の解答を端末で集めることで比較・検討するなどの方法が考えられる。

ICT 機器を用いたアクティヴ・ラーニングは相対的に新しい授業法であり、今後の展開が期待される。この場合の最大の問題は生徒のリテラシーの問題に帰することができる。ICT 機器を用いたパッシヴ・ラーニングは板書における教員の負担を大きく軽減することができる。また高い再現性や編集可能性により、よりよい授業を展開できるようになる点で非常に優れている。しかしこれは同時にデメリットとなりうる点が看過されている。つまり、授業速度が上がることで生徒の授業内での学習を阻害することがありうる。とはいえ、情報量の多さを活かした授業が可能となるため、運用法や量に十分留意することで、その効果を最大化することができる。

本稿では ICT 機器の運用および授業形態の相違を類型化することで、これまであまり論じられてこなかった利点と欠点を指摘し、それぞれの可能性と問題点について考察した。

#### 参考文献

- ・ 小林昭文編著『これならできる！授業が変わるアクティヴ・ラーニング』① アクティヴ・ラーニングを知ろう（2016年）
- ・ ー『これならできる！授業が変わるアクティヴ・ラーニング』② 新しい授業を体験しよう（2016年）
- ・ ー『これならできる！授業が変わるアクティヴ・ラーニング』③ いろいろな授業の方法（2017年、汐文社）
- ・ ー『これならできる！授業が変わるアクティヴ・ラーニング』④ 未来の生き方・学び方を考えよう（2017年、汐文社）
- ・ 高木展郎『変わる学力、変える授業』（三省堂、2015年）
- ・ 堀田龍也「ICTの活用とアクティヴ・ラーニング」in 教育課程研究会編『「アクティヴ・ラーニング」を考える』（2016年、東洋館出版社）

#### 公官庁資料

- ・ 中央教育審議会、『新たな未来を築くための大学教育の質的転換に向けて～生涯学び続け、主体的に考える力を育成する大学へ～（答申）』（平成24年8月28日）
- ・ 総務省「電気通信サービスの契約数及びシェアに関する四半期データの公表（平成29年度第4四半期（3月末））」（2018年6月22日）

しまつては生徒の実力を適切に反映しきれない。ただし、実際にキーボードに触れさせ、解答する機会が多くなればなるほど速度は増しているため、ICT そのものの授業で行うことの必要性もさることながら、各教科教育においても多くの機会を確保するという意味で、導入するべきであろう。こうした観点から、授業において ICT 機器に関しては積極的に用いていかなければならないとも考える。

### 3. ICT 機器の運用と授業形態—可能性と問題—

授業において ICT 機器を用いることとアクティヴ・ラーニングは昨今では密接な関係のもとに論じられることが多いが、本稿において ICT 機器とアクティヴ・ラーニング、そしてパッシヴ・ラーニングという用語を導入しながら一方的な講義形式の授業でも ICT 機器やアクティヴ・ラーニングと関連付けることが可能であることを示した。この分類によって、ICT 機器の有無と授業形態であるアクティヴ・ラーニングおよびパッシヴ・ラーニングとで 4 つの事象を想定することを可能とした。さらに ICT 機器自体と授業形態とでその可能性と問題点を考察することも課題として浮かび上がる。

ICT 機器自体の可能性は、一般的に認識されているように、膨大な情報へのアクセスができる点である。また、情報の収集や編集、保存、修正が容易で再現性も高く、用途も多様である。本稿で見た例では、生徒に運用させた場合での「紹介したい人を紹介する」活動や教員が用意する PowerPoint などが挙げられる。また AI の活用は新たな教授法の開発につながる。しかし同時に、機器に関するリテラシーが直接的な影響を及ぼすという限界も指摘される。生徒のキーボード入力の手が速い速度がそのまま実力判定に反映されかねない点を鑑みれば明らかである。また、AI の運用については実際のところ、教員側の問題が依然として大きい。とはいえ、授業形態に拘らず、ICT 機器を用いない場合とは授業の展開の仕方に相違があり、可能な授業方法の幅が大きく広がったことは間違いない。ICT 機器を用いなければ、生徒にニュース動画を作成させることは到底不可能であるし、生徒の興味関心を刺激することにも一助ある。

授業形態がアクティヴ・ラーニングであるかパッシヴ・ラーニングであるかもまた本稿において論じた。アクティヴ・ラーニングは一方的な講義形式の授業では不可能であったような、生徒による知識の運用や議論を可能なものにした。以前に比して表現・発表する機会は格段に増え、筆者のアクティヴ・ラーニングの授業ではすべてにおいて生徒が何らかの形で発表を行っており、他者の前で意見を述べる機会を多く担保している。こうした経験の中で評価・反省を繰り返し、技能を上げていくことで発信性を高めるのがアクティヴ・ラーニングの理由である。しかし、それはパッシヴ・ラーニングによって支えられていることがあまり論じられてこなかった。例えば英語の動詞の活用形として三人称単数現在活用を運用させるアクティヴ・ラーニングを行うには、日本語にはあまり馴染みのない主語の三人称や現在時制という理解が必須であり、アクティヴ・ラーニングでは正確な習得が困難で、仮に三人称単数現在活用に関する知識がない中で多くの実践的アクティヴ・ラーニングを行えば、その修正は難しくなる。筆者が行った「紹介したい人を紹介する」活動は、パッシヴ・ラーニングによる動詞の活用形について十分な理解があってこそ可能なものであった。パッシヴ・ラーニングによって得られる学習効果は看過することができず、アクティヴ・ラーニングの成立要件として位置づけられる。

ICT 機器を用いないパッシヴ・ラーニングは従来型の授業であるが、ICT 機器を用いないという点でリテラシーの問題を無化することができる。さらに、黒板の物理的な面積を無駄なく十分に活用す

に見られる状態も思い描かせられれば最大の目的が達成されたと考えることができた。

生徒が書いたものは生徒個人の趣味を反映したものであり、非常に多様であった。この時点では過去形を一切扱っていなかったなど、英語に関する学習がそれほど進んでいなかったこともあったため、多くを望んではいなかったのだが、書かれたものは想定を遥かに凌駕していた。まず、5文程度で書かせたのだが、内容の取捨選択が適切で、まとまっていたため第三者にも伝わりやすいものが書けていた。さらに、既習事項を組み合わせることで詳細に表現している生徒もいた。本活動はアクティヴ・ラーニングの典型例であると考えが、それゆえにその学習効果を如実に表している。

## 2. アクティヴ・ラーニングとパッシヴ・ラーニング

諸外国における学習方法の研究成果や日本の教育事情で指摘される学力の低下から教育制度改革が主張され、アクティヴ・ラーニングやICT機器の導入による学習効果が指摘されている。本稿もその流れに逆らうものではない。実際、筆者が行ってきたICT機器を使うか否かに関わらず、アクティヴ・ラーニングの効果はパッシヴ・ラーニングでは得られないような高いものであったし、アクティヴ・ラーニングかパッシヴ・ラーニングかに関わらず、ICT機器を用いた授業は黒板でのみ行っていた授業形態とは異なり、新たな授業方法や提示の仕方、生徒への伝え方が可能となったため、その効果は疑いの余地もない。AIの活用はICT機器を用いた方が効果的で、今後の広まりや方法論の研究が期待される。しかし、アクティヴ・ラーニングやICT機器を用いた授業の方法論が主張されすぎているとも感じる。アクティヴ・ラーニングを支え、その根本的な学力を形成し、可能にするものは他ならぬパッシヴ・ラーニングである。安定的かつ確固たる学力・知識があり、一定の運用力があってはじめて、こうした生徒の力を総合的に高める方法としてアクティヴ・ラーニングは効果的であり、パッシヴ・ラーニングでは到達できない次元である。また、ICT機器の用い方を誤れば逆効果である。ただし運用の方法が授業運営として適切であれば、その効果は非常に高い。

アクティヴ・ラーニングとパッシヴ・ラーニング、ICTを用いるか否かといったことは総体的な議論が必要である。英語科に限ったところであるならば、4技能—読む・聞く・話す・書く—の実力を伸ばすという目標に向かう方法論としてとらえるべきであり、方法論を突き詰めた先に目標が見えてくるものではない。換言すれば、4技能を伸ばすことが出来るのであれば、アクティヴ・ラーニングであるのかパッシヴ・ラーニングであるのか、ICTを用いるのか否かは問題にならない。ただし、現状でいうならば、「ICTを用いたアクティヴ・ラーニング」は「ICTを用いないパッシヴ・ラーニング」に比して特に「書く」「話す」の機会をより多く提供できるため、欠かせない方法であることは間違いない。筆者の立場は「書く」「話す」から「読む」「聞く」への刺激とするものであり、「読む」「聞く」から「書く」「話す」を触発しようとするものであり、そのためにICTを用いたアクティヴ・ラーニングの可能性を追求するものである。

また、別の観点からICT機器を授業で用いる意義はある。平成36年度から始まると想定される次期学習指導要領では、テストがCBT（Computer-Based Testing：コンピュータ上で実施する試験）を実施することと示されているため、テキスト入力を利用できるよう指導していかなければならない。筆者の実施例に限っていうならば、タイピング能力の指導は不可欠である。というのも、現在の生徒はキーボードでの入力に慣れていないため、その速度が生徒の学力を反映しきれない。筆記用具で書くならばより多くの問題に解答できるはずなのだが、キーボード入力になった途端に解答数が減って

を読み解くという経験をしたことの意義は大きかったと考える。

### 1.3.2.2. 中学1年英語 EP (2単位) におけるもの

EPでは教科書のGetの部分以外を中心に扱い、種々の活動を行った。実際の運用力を高めることを目的としているため多くの実践を行ったが、ここでは1例のみ触れる。

活動内容：紹介したい人物を紹介する

活動目的：インターネットを使い、ある人物について調べ、英文でまとめる

英語で情報検索をすることによる便利さを体感させる

評価観点：インターネットを適切に用いることができているか

人物紹介の英文が伝わりやすいような構成になっているか

担当教員：日本人英語科教員1名、ネイティヴ英語科教員1名、計2名

使用機材：生徒用タブレット

配当時間：1.5時間

本活動は①を想定したものである。この活動を行うまでに、生徒はタブレットを授業内で利用していたため慣れていた。しかしインターネットを使うことはなかったため、本活動を計画した。教科書で「友だちを紹介する」という活動があり、その流れで実施するのが最適と判断した。紹介する人物は生徒自身に自由に選ばせたため、非常に積極的な活動となった。ただし、タブレットを利用した実績が不十分であると考えられたため、提出はタブレットではなくプリントに英文を書かせた。事前に「友だちを紹介する」で活動自体のイメージはできていたため、導入時はインターネットの利用法に注力できた。

また、生徒自身の興味関心が深い人物について紹介するという活動は、生徒1人1人のニーズに沿うのみならず、個々人のやる気を奮わせ、英語習得への原動力ともしたかった。本活動時点で生徒が持っている情報の不足を補うべく、インターネットで検索させた。中学1年生の英語力では英語ページの検索で情報を的確に得られる可能性は低いため、日本語ページの検索になるが、活動終了時の総括では「英語で調べられたら、英文で紹介する際には楽だったかもしれない」ということも自覚させ、今後の英語学習への意欲を高めたかった。

友達という人物を紹介すべく、情報を得るために疑問文を学び、実際に運用しながら定着を図るProject2での活動は、「調べる」「情報を整理する」「英文にする」という流れ自体がそのまま別の人物の紹介にも応用可能であった。ただし、「紹介したい人物を紹介する」ためには相手に疑問を投げかけるのではなく、自分で疑問点を想起し、答えをインターネット上に求めるという点で異なる。

このような相違点を認めながらも、生徒個人が紹介したいと思える、他のクラスメートに知ってもらいたいと思う人物を英語で紹介するという活動は、生徒の意欲を高める効果があると考えた。また、スピーチを聞く側の生徒も、未知の人物について英語で知らされる情報に注目したり、既知の人物の新たな側面や共有できている情報を英語で受容したりという活動には一定の意義があるとも想定した。

本活動を通して、英語で表現することや英語で情報を得る事の楽しさを体験し、また同時にその苦勞も実感する中で、今後の英語学習の指針を示すことを狙った。さらに、英語で文章化する際の苦勞は語彙力の差に顕著に表れるだろうが、英語での情報収集への視点を想起させ、英文読解力向上の末

がっていた。原稿についても、彼らの日常や興味関心に密接に結びついたものだった。また注目すべきは、文法項目として過去形をある程度扱ったところであり、過去の事実に関して表現する活動であると、ある意味安易に考えていたが、生徒が用意したニュースはそれを凌駕していた。学習時点の英語に関する知識では表しきれないことについては自ら調べたり、教員に質問したりして学びつつ完成させていた。教員側も既習事項を主に使えるよう指導したが、どうしても難しい場合には簡単に発展的な文法についても説明をした。換言すれば、本活動は文法中心（Grammar-centered）な活動ではなく意味中心（Meaning-centered）の活動であり、4技能型のものであったと考える。

## ② Further Reading の「Alice and Humpty Dumpty」後に行ったスキニング

本活動は、教科書で該当箇所を扱っている際、生徒が「不思議の国のアリス」の話であると勘違いしていたところから計画していた。

活動内容：Alice's Wonderland の英文での要約を読み、Humpty Dumpty が登場するか確認する

活動目的：特定の語句や関連語句を文章の中から探し、長文読解への意識を高める

評価観点：できる限り早く、必要な情報を発見できるか

担当教員：日本人英語科教員 1 名

使用機材：教員用タブレット 1 台、生徒用タブレット

配当時間：0.5 時間

本活動においてはプリントで配布することも可能ではあったが、タブレットを使用した。この活動は③を想定したものである。理由は、1 度に見られる情報量を制限し、最適な環境を確保するためである。プリントでこの活動を行えば、英文全体に意識が行き、注意力が散漫になることが危惧された。そこで教員用タブレットで生徒が活動を行うシートを 3 ページに分割し、注目する箇所をコントロールすることで、順を追って少しずつ進められるよう配慮した。この活動は英語自体が不得手な生徒でも、必要な情報を全体の中から探すという意味ではゲーム性もあり、取り組みやすかったようである。

すでに教科書で Humpty Dumpty が卵の形をしたものであることを生徒は十分に理解している。そこで、活動を 3 段階に分けた。まずは一通り「Humpty Dumpty」という単語を探しながら最後まで目を通す。次に、触れられていなかったのがただ単に見つけられなかっただけかを確認すべく、1 度目よりはゆっくりとしたペースで確認する。最後に、Humpty Dumpty が見つけられなかったのは、「Humpty Dumpty」とは書かれていなかった、すなわち別の表現が使われていたのかを考慮に入れる。この段階に移り、文章に目を通す前に形状や服装など Humpty Dumpty の特徴をもう 1 度確認した。そして該当するような語句があるかをもう 1 度探させた。

すると、「egg」という単語が出てきた。小文字で始まった綴りであったため、固有名詞ではなく一般名詞である可能性を指摘しつつ、該当箇所の内容を読解させた。文章自体は中学 1 年生用に書かれたものではなかったため容易に理解されることは想定していなかったが、知っている単語や生徒同士が協力して文意を考えていく事で、その「egg」が Humpty Dumpty では決してあり得ないという結論に生徒の力で至った。

これだけで長文読解への意識が高まったかは未知数であるが、少なくとも生徒自身の力で文章

本活動は主に③を想定したもので、教科書 Lesson 9 を扱い終わった際に行ったものである。Lesson 9 においては不規則活用の動詞を含む過去形が扱われる。また、Lesson 8 においては現在進行形が既習となっており、時制としては未来時制や完了時制といった重要な項目を残してはいるが、助動詞 can もすでに扱われていることから、この時点で多くのことを表現できるようになっている。そこで、New Crown English Series 1 を総括しながら、特に過去時制をより多く運用させるべく、追加の活動を行った。

文法理解を確認しつつ定着を図るような活動よりは、生徒たちがよりアクティブに英語を運用できるよう、生徒自身の手によってニュース動画を作成させた。動画の作成というゴールに向かうためには、生徒一人一人がニュース原稿を作成し、どのような動画にするかを考えなければならない。ニュースの素材選択から自由に行わせることで、自分の興味・関心を英語で表現する経験を積み、英語自体への学習意欲へと繋げようとした。昨今では youtube を視聴している中学生も多く、後述する別の活動「自分の紹介したい人を紹介する」では youtuber と呼ばれる、youtube での動画視聴者数によって収入を得ている人たちを紹介していた生徒も多く、今回は生徒自身が youtuber のようなことができるのではないかとという予測もあり、こうしたことが生徒の更なる意欲へと繋がるのではないかと期待していた。

そこで、まずは教員がニュース動画を作成し、生徒に活動のイメージを与え、その後は生徒一人一人が原稿・動画作成のサポートをした。また、今後に向けての指導として、内容を膨らませるにはどのようにしたら良いかを指摘した。これまでまとまった内容について表現するという活動は「EP (2 単位)」で扱われることが想定されており、「EL (4 単位)」においてはあまり実施することができていなかった。複数の単文を作るのではなく、少数の出来事を複数の英文で描写するにはどのようにしたら良いかを指導しつつ、既習事項でも多くのことを表現できるという自信にも繋げつつ、発展的な活動が可能な生徒にも対応した。

本活動は予定配当授業時間の残りで行ったものであった。生徒の反応はおおよそ良好で、当初の想定通り、youtuber のような動画を撮ろうと努力した生徒も多くいた。この活動の方法論として 2 つのものを準備していた。1 つは文章の流れをパターンとして型の練習させ、それを変形・応用させるというもので、もう 1 つは 0 から生徒に考えさせるというものであった。今回は後者を選択した。前者であった場合、生徒は特定の文法項目を複数回活用する機会を得ることができ、その反復練習の結果、定着することが見込まれ、またニュース原稿を仕上げるにも比較的容易であったと思われる。しかしその場合、表現できる内容が特定されてしまい、生徒が伝えたいと思っているニュースを伝えられるとは限らない。また、ニュース動画の作り方については活動のゴールであり、生徒には楽しんでもらいたかった。ゆえに後者で行うこととした。今回、ニュース原稿を書き上げるまでにはかなりの労力を要した。というのも、生徒が表現したいと思う事柄が多様であり、その熱意も想定以上であったため、それに応えるには苦勞した。しかし、生徒が仕上げてきたニュース原稿や動画は、これまでの指導のなかでは想像もつかなかったような飛躍的な英語力を駆使したものも見受けられ、動画を作るという活動によって生徒のモチベーションが思いのほか上がったと考えられた。

生徒には動画用の原稿を書かせ、双方を提出させた。動画に対しては評価シートを作成し、フィードバックを行っている。原稿に対しては英語や内容に対するコメントやアドバイスを入れた。動画はロイロノート・スクールでできる機能を存分に活用し、創意工夫のある作品が仕上

については教科書内に2度出てくる。1つはLesson 2で宇宙飛行士である若田光一氏に注目し、もう1つはLesson 9の中で、人の会話の相手としてアンドロイドが活躍しているという例の紹介で扱われている。筆者はLesson 1から順番に扱っていったのだが、Lesson 9で若田氏に言及された際、授業内でも、生徒の多くが気付いたため、いくつかの点で議論を試みた。しかし、それをさらに進めるのであれば、「人が暮らしていくうえでの快適さとは何か」について、教科書のみを資料として情報をまとめ、坂茂の建築に対する考えが述べられているLesson 8を参照させながら考えさせることも可能であろうし、1人1人が残した業績の影響を考えさせるために坂茂のほか、Lesson 10のCharles M. SchulzのThe Peanutsを取り上げることもあり得る。これらの例によって示されるのは、アクティヴ・ラーニングを行うのにICT機器が必ずしも求められるわけではないということである。すでに生徒が持っている素材のみを用いながらも、考えさせ、まとめ、発表させ、クラス内で議論させることは十分に可能である。

### 1.3.2. ICT機器を用いたアクティヴ・ラーニング

総務省が電気通信サービスの契約数やシェア動向についてまとめた報告書によると、2018年3月末の時点で日本での携帯端末の普及率は181.7%に達している。中でもスマート・フォンやタブレット端末は小学生でも日常的に触れる機会が多い。とはいえ、活用法は限定的であるようにも感じる。ゆえに導入には事前指導のようなものも必須となるだろうし、運用を始めたとしても、開始当初は生徒も手探り状態であろう。だが、これらのコストをかけてでも授業内で使用することのメリットは大きい。ICT機器を活用するメリットは①膨大な情報へのアクセスを可能にし、瞬時に収集すること②収集した情報を再編集する手間が省けること③作成した資料を共有、もしくはスクリーンなどに投影することで発表時に情報の提示をしやすくすること④解答例などを瞬時に収集し、フィードバックできること⑤複数の解答例などを比較・検証・検討できることが挙げられる。これらのうち、①～③は生徒を主眼とし、④および⑤は教員の立場に立ったものであり、多くの実践例が考えうるもので、実際筆者の場合もこの2つに依拠する活動が最も多い。授業でのICT機器の用い方はこれらの組み合わせとなる。以下、筆者が実際に行ったICT機器を用いた授業の中でもアクティヴ・ラーニングに分類され、かつ専門書でもあまり見かけないものを述べる。

#### 1.3.2.1. 中学1年英語EL(4単位)におけるもの

ELでは教科書New Crown English Series IのGetの部分を中心に扱うが、その中で実施した2例を述べる。

##### ①一般動詞の過去形(不規則変化)を扱った際に行った「ニュース動画を作成する活動」

活動内容：ロイロノート・スクールの動画作成機能を用いてニュース動画を作る

活動目的：一般動詞全般の過去形の運用能力を実践し、イメージを高める

評価観点：過去形の運用が適切か

出来事を効果的に伝える記事が書けているか

動画に独自性や工夫が見られるか

担当教員：日本人英語科教員1名、ネイティブ英語科教員1名、計2名

使用機材：生徒用タブレット(ロイロノート・スクールが利用可能状態)

配当時間：2時間

自分の答えの正当性を主張し、他の生徒もその解答に対する説明を試みる。

所要時間：1問につき3分

活動目的：既習の英語に関する知識を用いて自分の考えを述べる

高校1年の英語コミュニケーション英語Iの授業で、Crown English Series IのLesson 9のExercisesにおいて試みたものである。

本活動は英文法に関する正しい知識を確認しつつ、それらを用いて相手に対して説得力を持つ表現をすることができるよう計画したものである。単に知識の確認や表現することだけでなく、ディベートをも視野に入れ、自分自身の意見や信念に関わらず伝えられるかといったことも考えていた。ここでは2つの設問での例を述べるにとどめる。

大問は「Put the phrases in the correct order (語句を適切に並べ替えなさい)」である。

1. 私たちは、ほとんど毎週末に映画を見に行ったものだ。

We ( to / almost / used / weekend / to go / every / the movie ).

この問いを生徒1名が黒板で解かせた。すると「We used to go to the movie almost every weekend.」と書いた。これは正解なのだが、解答した生徒に、この答えに至った経緯を説明させた。すると、次のような流れを説明した。①「映画を見に行く」はto go to the movie であること②「ほとんど毎週末」がalmost every weekend であることの2点であった。しかし、このままではusedが不明であることと、順列として6通りの選択肢があることを指摘すると、used to 動詞の形で「～したものだ」という意味になるため、自分の解答は正しいとした。サポートが必要であったとはいえ、説明としては間違っていない。

2. その質問はすばやく解答されなければならない

The question ( answered / quickly / must / very / be ).

この問いも別の生徒に解かせた。その解答は「The question must very quickly be answered.」であった。その説明は①「～なければならない」はmustである②「解答される」は受動態で、その形は「be + 過去分詞」であるためbe answered となることの2点であった。very quicklyの位置については説明が難しいようであった。これは誤答であるが、そこで実力からして恐らくは正答していると思われる生徒を指名し、続きの説明をさせようとした。2番目の生徒はvery quicklyという部分がbe answeredという受動態部分を修飾しているのだが、それはveryがquicklyを修飾しているのと同じ論理であるとした。例えばa small black catという表現の"small"や"black"のように、修飾語が複数用いられるのは英語でもあり、説得力は皆無ではない。ちなみに、この生徒の答えはThe question must be answered very quickly.と考えており、こちらが正解であるが、自らの考えとは異なるものに対して、他の知識を用いながら論ずることができていることがわかる。

また、実際に試みたものではないが、例えばCrown English Series Iでは宇宙飛行士の若田光一氏

指定し、口頭での指示を目で追わせる他に方法がなかったが、全体的なイメージが黒板に投影されることで、視覚的かつ直感的に理解することができるようになった。また、板書事項も記述方法が変わり、イメージしやすく、分かりやすいと好評な部分もあった。PowerPointなどのアプリケーションを適切に組み合わせることで効果が得られる。また、教員がICT機器を用いていることで、授業中に生じた生徒からの質問・疑問のうち、答えとなるものに関する情報や映像を直接もしくは具体的に示すことが可能であり、不要な説明の時間を省きつつ印象に残りやすい授業展開が可能となる。従来は知識の共有をあきらめざるを得なかったような、生徒からの細かい疑問点に明確な情報を示せるようになった例は枚挙にいとまがないほどである。

だが、問題がないというわけでもない。授業展開の速度のほか、投影可能な面積に限りがあり、少なくとも黒板よりは小さいため、板書可能な部分が減ることになる。スクリーンを用いながら全面に板書するにはスクリーンを1度撤去するという手間と時間が発生する。このデメリットを克服しつつ、より効果的に運用するには、黒板を2分割して考える、すなわち投影部分に長期的な項目を提示しておき、それを参照しながら授業を展開する方法が考えられる。公式などを常に表示し、生徒が内容に不安を覚えたらいつでも確認できるようにすることで、運用しながらの定着が期待できる。プロジェクタによる投影画面と授業が展開されている黒板の面との視覚的な相違を活かした手法であると言える。

ICT機器を用いることで高めるべきは学習効果であり、それは視覚的な効果や意識・認識の変化、授業内の閉塞的な空気の開放や多様な授業展開方法と言い換えることができる。その際には、授業時間内における生徒・児童の学習に寄り添ったものであるかに注意を払う必要がある。

### 1.3. アクティヴ・ラーニング

アクティヴ・ラーニングは昨今注目を集めており、教育法や授業案などの研究が進んでいる。また、各学校でICTの導入が進んでおり、アクティヴ・ラーニングはICTと密接に結びついているように感じる。しかし、言うまでもなく両者はそれぞれ独立したものであり、アクティヴ・ラーニング自体はICTの有無に関わらず導入が可能である。本節では実際に筆者が試みた幾つかのアクティヴ・ラーニングを例に対し考察する。

#### 1.3.1. 黒板を使ったアクティヴ・ラーニング

この方法はまだ実践経験が少なく、他にも多様な方法が考えうる。しかし少なくとも言えることは、黒板を使うことに意義があるというよりはむしろ、黒板でも出来るアクティヴ・ラーニングが存在するという点である。発想の原点は、一方的な講義形式の授業ではなく、生徒が理解し、それを基に考え、表現する活動への模索であった。生徒がプレゼンテーションを行うことが活動の主体となるため、ICT機器を用いた方が容易であることは確かではあるが、生徒個人個人のICT機器運用力によらず、活動することができるという点では優れていると考えた。また、ICT機器で行うにはデータで作成する必要があるため、その分の時間的なコストが必須となるが、黒板での活動は即時的かつ直感的である。端末数によらず、また生徒も端末やアプリケーションの利用法を知らなくても実施できるというメリットもある。

ここに実際に行った授業の1例を示す。

活動内容：日本文を参考にしながら、指定された英単語を並べ替えて文を完成させる問題において、

知識があって初めて意味を成すものである。16世紀のヨーロッパはそこで自己完結した世界ではなく、それ以前の歴史的な流れや東方世界との関係など、重層的なものの統合体でもある。換言すれば、1つの事柄について深く学ばせようとするれば、その背景にまで意識を持たせる必要があり、こうした認識はアクティヴ・ラーニングで得られるものとは限らない。より多くの情報や知識を獲得するにはパッシヴ・ラーニングが最適である。

アクティヴ・ラーニングとパッシヴ・ラーニングとの関係—むしろ比率というべきか—は教科によって異なるが、後者を主体とし、十分な知識を定着させ、十分な運用能力があった上で、思考力や実践力、企画力を体感させることが肝要であると考えられる。

### 1.2.1. 黒板を使ったパッシヴ・ラーニング

これは従来の形式で、高校1年では2学期中間試験前まではこの形態であった。利点は黒板の横幅を十分に活用でき、板書の修正を教員が直感的に行うことができる点であろう。生徒は教員の観点で為された板書内容を理解し、ノートを取っていく。疑問を抱けば生徒は質問する。この形式については特に詳述を要しないと考えられるため、他の点に移る。ただ、この方法は他の授業展開の参照点となることは確かである。

### 1.2.2. ICT 機器を用いたパッシヴ・ラーニング

これは中学1年のELのクラスや高校1年の2学期で導入した形式になると考えている。ICT機器を用いてはいるが、実質的な授業形態や展開方法は「黒板を使ったパッシヴ・ラーニング」と大差ないのではなかろうか。ただ、教室内にICT機器があるという点でのみ異なる。利点はパワー・ポイントなどを用いれば事前に板書事項を準備することで、板書にかかる時間が大幅に減少でき、展開内容の再現性が高く、何度でも同じ内容を掲示することができる。さらに、データで管理しているため、授業後などに加筆・訂正することが可能で、ブラッシュ・アップさせることができる。また、デジタル教科書にはペン機能で複数の色やハイライター機能もあり、板書法の可能性が広まった。

まず中学1年では当初、プロジェクタによる黒板への投影という方法を採用していた。しかし投影力不足が大きな原因で、結果的には黒板を使ったパッシヴ・ラーニングになっていた。プロジェクタが2学期より変更になり、投影力が上がり、スクリーンを活用可能になり、併せてプロジェクタ対応のペンも利用できるようになったことから、板書をペンで行うようになった。その際の生徒からの反応は色や太さ、ハイライター機能といった板書方法の多様化から、見やすくなり、分かりやすくなったと好評であった。

ただ、高校1年では違った反応が多かった。プロジェクタを導入すると、教員の板書スピードは格段に上がった。それまでは教員が英文をほぼ全文書いてからポイントの解説が始まったが、デジタル教科書によってその時間が省かれるようになると、生徒からは教員による手抜きだという指摘を多く受けた。恐らく、単なる不平・不満以上に、生徒はそれまで教員が黒板に英文を書いている時間を使ってノートの確認をしながら理解を定着化させたり、既習事項との比較などをする活動ができなくなったことが挙げられる。

このように高校1年では好印象で迎えられるということではなかったが、デジタル教科書ならではの授業展開を提示し続けたところ、雰囲気に変化が見られた。多くの文字データを一度に映すことができるという利点を使い、文章のマクロな展開の確認に用いた。それまでは教科書の行数番号などで

た教授・学習法の総称。学修者が能動的に学修することによって、認知的、倫理的、社会的  
能力、教養、知識、経験を含めた汎用的能力の育成を図る。発見学習、問題解決学習、体験  
学習、調査学習等が含まれるが、教室内でのグループ・ディスカッション、ディベート、グルー  
プ・ワーク等も有効なアクティブ・ラーニングの方法である。(P.37)

このように言葉自体から実態を考察する方法はそのものについて考える際には明快である一方、輪  
郭が見えにくい。そこで、本稿では相対的な方法を試みる。

### 1. 1. 「ICTを用いた授業」と「アクティヴ・ラーニング」とその補集合

「ICTを用いた」を  $p$ 、「アクティヴ・ラーニング」を  $q$  とすると、 $P^c$  は厳密には「ICTを用いない」  
となる。ここには将来、新たな方法が加わる可能性があり、10年後にはその方法にシフトしている  
ことも大いにありうるが、現段階では「黒板を用いた」として現実的にはおおよそ問題なからう。無論、  
この概念付けは短絡的で、例えば筆者はすでに AI を用いており、授業での運用は現実的かつ効果的で、  
それらは実際に ICT を用いてはいるが、今後の展開を考えると、AI 自体で 1 つの授業形態を形成する  
こともあり得るため、単純に ICT の枠に留められない可能性もある。ただ、幾つかの教育実践例を参  
照したが、AI の導入が定着しているとは思えないため、現状この分類で問題なからう。 $Q^c$  も厳密に  
は「アクティヴでない学習方法」であるが、現時点ではアクティヴの反意語であるパッシヴを当てれ  
ば間違いないと思われるため、「パッシヴ・ラーニング」としておく。すると、 $P$ 、 $Q$  とそれぞれの補  
集合の組み合わせで 4 通り ( $P \wedge Q$ 、 $P \wedge Q^c$ 、 $P^c \wedge Q$ 、 $P^c \wedge Q^c$ ) の授業形態が想定できる。そこで、  
今年度、中学 1 年および高校 1 年で実施してきた各種を比較・検討する。なお、中学 1 年は総合的な  
英語の時間である EL (4 単位)、既習事項の運用を行う EP (2 単位) で、高校 1 年はコミュニケーション  
英語 I であり、中学 1 年は年度開始当初から教員はデジタル教科書を使い、EP のクラスでは同  
様に年度当初から生徒用タブレットを活用している。高校 1 年では 2 学期中間試験前まで教員はデ  
ジタル教科書を使用していなかった。

### 1. 2. パッシヴ・ラーニング

アクティヴ・ラーニングの真新しさもあって、パッシヴ・ラーニングは相対的に軽視されていると  
感じる。確かに知識偏重型の指導は以前と比して意義を無くしている。例えば「アルマダの海戦」と  
問われれば「1588 年、スペインの無敵艦隊がイギリス海軍に負け、制海権の移行が明確になった」  
と答えられれば第一段階はクリアしていた。しかし、昨今ではインターネットで検索すれば、その程  
度の情報は即座に入手できる。ゆえに、これからは更により深い知識を用いて独自の発想をし、展開し、  
論を組み立て、発表することに重点が置かれるようになる。しかし、一定の水準の知識を持ったうえ  
でより深い知見を運用できる生徒の方が、的確な思考をするであろうことは容易に推測できる。そ  
こにパッシヴ・ラーニングにも重要性が見いだせる。

ここに挙げたアルマダの海戦を題材に高校 1 年生「世界史 B」でアクティヴ・ラーニングを試みる  
とする。2 時間程度で海戦の歴史的意義や変化などを考えさせることが目的として想定できるが、イ  
ンターネットで検索すれば、衝突に至った経緯や両海軍の動きまで瞬時に情報を得ることができる。  
さらに進めればスペイン海軍が寄港した都市の特徴を調べ、なぜそのような動きをしたのかも考察す  
ることができる。しかし、こうした活動は「16 世紀のヨーロッパ世界」という巨視的な視点や認識、

## <研究ノート>

# アクティヴ・ラーニングとパッシヴ・ラーニング — 授業内での ICT 機器活用について

青木輝憲

## 0. はじめに

「ICT 始めました」—まるで冷やし中華のようであるが、冷やし中華なら「HC」であるので少し違う。しかし、昨今の私学の中等教育では、これが冗談では済まされない。保護者の ICT 教育への関心は高く、校内実施の学校説明会等で、授業風景を見学される際には、教室の中で ICT 機器を使用しているか否かでは反応が大きく異なり、実際、生徒がタブレットを使っていた授業で、保護者のスマートフォンが廊下からドア越しに教室内の風景に向けられたことは 1 度や 2 度ではない。学習効果の点でもその大きさは無視すべきではない。

私立高校の実質無償化により、私学が選ばれる可能性が高まっている。高い学力を持った公立高校受験生の中で、経済的な要因が大きかった生徒が私学を選択することも大いにありうる。そうした中で、私学としての独自性を学校の強みとして変換し、外部に発信し続けられるか否かは今後より重要になるように思われる。その 1 つが「ICT を用いたアクティヴ・ラーニング」の実践であろう。

ところで、「ICT を用いたアクティヴ・ラーニング」という表現は、「ICT を用いた」という部分が「アクティヴ・ラーニング」を修飾しており、この 2 点は相互に無関係であるはずである。例えば、仮に「ICT を用いた授業はアクティヴ・ラーニングである」と命題化し、その真偽を検証すれば明々白々である。ところで、この論理の対偶・裏のそれぞれの真偽を検証しようとする、大きな問題が立ち塞がる。しかし同時に、非常に示唆に富んだ考察を与えてくれそうである。つまり、「ICT を用いた授業」および「アクティヴ・ラーニング」ではない授業とは何であろうか。また、実際にそれは存在するでないものか。

本稿では、右記の問題点を念頭に置きながら、筆者が行ってきた授業を検討する。

## 1. ICT を用いたアクティヴ・ラーニングとは何か

一般に、ある事象を認識する方法として、絶対的な方法と相対的な方法とがある。つまり、前者においてはそれぞれを定義しているところを参照すれば事足りる。ICT とは Information and Communication Technology の頭文字で、かつて日本では IT (Information Technology) と呼ばれていたが、通信 (communication) の利用が一般的となり、現在では ICT という用語が一般的になっている。アクティヴ・ラーニングについては中央教育審議会 (2012) の中で述べられている。多少長くなるが引用する。

教員による一方的な講義形式の教育とは異なり、学修者の能動的な学修への参加を取り入れ



兼田

すごく、いろいろと話を聞いているうちに、もう2時間近く経ってしまいました。そうですね。きょうはいろいろと戦争中の学校生活。それから諸先輩がたの、戦後のさまざまな過ごし方、獨協を出たあと、あらたに学校に入り直す、あるいは新しい学校に進みながら、生活のために、結局、進学をあきらめていかざるを得なかった方がた、あるいはその中でも、必死に努力をされて、新しい道を切り開いて、今日まで日本を支えてきていただいた、獨協の先輩がたの話を、ほんとにわずか2時間でありましたけど、いろいろと聞かせていただきました。肉声含めて、やはり文字とは違った重みと言いますか、そういうものが感じられたというふうに思います。

まだまだ私たちのほうも、もう少し時間があれば、さらにいろいろと聞かせていただければありがたいんですけども、時間的な制約も、またありますものですから、きょうのお話に関しては、そろそろこの辺で終わりにさせていただきたいと思うんですが、畦森先輩の、あるいは皆様方のいろいろなお話をお聞きしながら、最初にお話ししたんですけども、戦争の終結を「終戦」という言葉で一括していることに、1950年代から、天野先生はとても危機を感じてらっしゃいまして、もうあれは完全な敗戦であると。敗戦ということに関する意識が、終戦という言葉によって、著しく阻害されている。むしろ自己欺瞞になってしまっているということ、1950年代に、既に天野先生が書かれていました。

やはり徹底的に現実を見つめる。敗戦であったということから、出発しなければならないということ、天野先生はおっしゃられて、奇しくも、きょうの畦森先輩の話、あるいは牧先輩の話を聞いて、今、われわれはあらためて先の大戦というものが何だったのかを、もう一度、見つめ直さなければいけないんじゃないかということ、きょうは強く感じた次第です。また畦森先輩のほうからしていただいた、陳以文先輩の話も含めて、何か、まだ戦後の部分で、終わっていない……。何ていうんですかね、取り残された問題というのが、もっと埋まっているんじゃないかということも含めて、考えさせられました。

そして最後にやはり、こういうお話の中でも、皆さまがたが獨協を愛してらっしゃって、獨協という学校で過ごしたことを、とても誇りに思っているということ、ひしと感じさせていただきまして、私も昭和52年でありますけれども、ここの卒業生なものですから、そういう点では、やはりこの学校に流れている、一つの雰囲気と言いますか、伝統というのは、やっぱりそういうものかなということ、あらためて感じた次第です。

私ばかりがしゃべってしましまして、なんか申し訳なかったんですけども、やはりこういう機会にご来校いただき、ご協力いただき、ほんとにありがとうございました。心より御礼を申し上げます。

(この後、昼食をしながらの雑談と最後に同窓会の柳原副会長からの挨拶があり、終了した)

か消防ポンプ。そして、こっちに火事がある。足から水をダァーと吸い上げて、ここから放水するの、水を。もうしっかりやる、ホース。ホースそのものになる。ホースが開いてね、???。そういうイメージを持たなきゃダメだよ。水が、今、水を足から吸い込んで、ダァーと遠くまで放水している。こっち見ないで、向こうに火事がある。そうイメージした? ずっと続けて、水が、足からダァーを吸い込むんだよ。それで大きな水がダァーと出てくる。そうすると、さっきのフラフラの手よりかね、これが重たく。

ということはなぜだ。それをきみたち、考えなさい。これを物理学では解明できない。これは一種、武道の世界の話だけだね。それほど、じゃあ、今、イメージしたことは何だ。結局、気持ちなんだ。気持ちを出す。うちに帰って、ちょっとみんなで、また練習してごらん。今、言ったことをね、どのぐらい効果が表われるか。ということは、これからきみたちが勉強するうえにおいて、いかに自分が???。

佐藤 ドイツ語の授業、どのぐらい授業があるんですか。

兼田 ない。

佐藤 ない。ないですか。

兼田 英語だけ。

牧 高校で選択で???。

畦森 こうやって本を見たり考えたりして、それでおしまいになっちゃう。だからせっかく??? というのをね、???ないと思います。武道の世界の???。僕ら、武道???。これは???。で、思い出したら。

佐藤 受験。今はほんとに英語が主体です。とにかくアメリカですよ、医学もね。昔はドイツという、医者になるのはドイツ語ということだったんですけど。

畦森 ???。忍耐と意志の不思議さ。これが、じゃあ、なぜ???、???。

佐藤 それこそ大学受験でドイツ語の???。ドイツ語、受験、ドイツ語が???。医学部でも(この箇所は複数の人の会話が重なっており、判読不明な部分がある)

畦森 だからこれを自分のいかに気持ちと。

男性 フランス語???。

男性 英語。

畦森 持てる。意志。意識ね。これを覚えておいて。試してごらん。そうすると、勉強するときに、人生を、これからしていくうえで必ず役に立つ。だから何でも諦めちゃったり、通りいっぺんで、勉強したいと思っても、歴史なんかまさにそうで。だからつらつらあとで考えて、何かあったら、ずっと思い出して、落ち着いて、力を抜いて。それで自分の気持ちをそこで集中するということ、訓練して。ということです。

兼田 どうもありがとうございました。

畦森 まだ、???、運動をやってない子が多いし。

兼田 そうですね。やっぱり集中とかって、今まで、いや、スポーツの集中力ってね。

畦森 そうですね。

兼田 はい。どうも。はい。

畦森 これはほんとに不思議なことですから、今、言ったことは。

畦森 この中で運動部、いるの？ 何か運動をやっている。  
兼田 兼部しているのがいるよね。  
生徒 はい。  
兼田 青木君はどう？  
畦森 何をやっているの？  
生徒 卓球をやっています。  
畦森 え？  
兼田 卓球だそうです。  
畦森 あとはいない？  
兼田 あとはおそらく兼部していても、やっぱり文科系が多いのかわらんですね。  
畦森 じゃあ、質問がなかったら、ちょっとおもしろい、お土産に実験を。  
生徒 実験？  
副会長 していただいて。  
兼田 どうですか？ 実験をやってもらいたい。ねえ。やってもらいますか。はい。  
畦森 4人ぐらいです。4人ぐらい、真ん中に出てきて。  
兼田 はい。じゃあ、青木君、おいで。じゃあ、もう一人、誰でも。  
畦森 まずね、コヤナギ君、こうやって???（気楽に?）立って。???立っていて。それで後ろの人は、ちょっと抱えて、持ち上げてごらん。後ろの人が抱えて、持ち上げてごらん。うん。????（ドウ、コナッテナンデ?）、そこは???、ちょっと抱えて。ここは???、こうやって。こうやって、ここを下から持ち上げて、こうやって。ここへ腕を掛けて、ここを持って、とにかく持ち上げる。それがこのさっきの体重。で、もう一回。ちゃんと力を抜いて。で、もう少し胸を張って。それで気持ちを静めて、???。そして自分の脳、血やなんか全部、下へ下がってくる。イメージ。イメージを???。イメージの???。全部、自分の内臓。全部、下に下がってくる。イメージする。そして足がこの地面に、床にグーと食い込むぐらいのことを考える。イメージ。???。きみたちはいいの。前の二人。それで、さっきみたいに持ち上げてごらん。まだ気持ちの集中が足りない。もう少ししっかり、自分の重心が全部、下に下がるようにイメージ。足が床に突き刺さるようなイメージ。それで持ち上げてごらんなさい。重くなっただろう。  
生徒 重くなっています。  
畦森 え？  
生徒 重いです。  
畦森 重いだろう。  
だからきみたちの質量というのは決まっている。体重も決まっている。けども、自分がイメージをすることで、誰だって重くなる。で、この手、手を出してごらん。今度、4人でいいから。いや、いや、じゃあ、いいや。今度、きみがやる。右手を出して。で、足は少し大きく。きみやってごらん。力を入れてもいいんだよ。手を開く。だけど、こう、みんな、軽いけれどもね。今度は、またイメージの問題だよ。だから???ですね。で、今度、手を少し。今ね、ここは大きな水槽。水。水の中に浸かっている。こんな。それで、きみたちは、なん

哇森 それでこのぐらゐの木に突き刺さるんですよ、ガラスが。すごいですよ。

牧 屋根を突き破って、下に下りてきて、下りたところで、ナパーム弾のように、油脂が飛び出ますから、その油脂が壁に付着すると、火がつくんです、酸素と化合して。だから止めようがないんですよ、火の。もう一瞬にして、火だるまになりますよ、浴びたら。それが50万発も、ばら撒かれたら、われわれも想像が付きませんが、ひどかったよ、2、3日あと、その焼け跡に行ったら。ほんとに焼けた人の、真っ黒になっている。

哇森 それは僕も牧も体験しているんですけども、原爆のような地獄。それはわれわれは知らない。

牧 そう。うん。

哇森 それから南方で食い物がなくて、死んでいった兵隊さん。そういうものは、われわれは知らない。

牧 それも知らない。

哇森 これもやはり話に聞いて、つらかったらうなって想像するけれども、この子たちよりは、時代が近いから、想像力がちょっと働く。だから自分でやらないことはわからないですね。

牧 大丈夫？ こっちが話して、何かあったら。

兼田 何か質問があれば、どうぞ。

牧 どんどん聞いてください。答えられるものなら。

哇森 もう、何を聞いていいか、わかんないよな。

兼田 よろしいですか。みんな、圧倒されちゃったかな。

牧 いや、もう時間もだいぶ過ぎちゃうんだけど。それで、今、皆さん、平和だけど、平和って何だろうって、逆に聞きたいんだけど。

生徒 平和ですか。

牧 平和って、何でしょうね。

兼田 ぜひ思うところを述べてください。

牧 じゃあ、例を挙げると、ぐっすり朝まで寝られること。今、皆さん、ぐっすり朝まで寝られる。寝るのは当たり前だと思うけど、平和だから寝られる。それと、お腹いっぱい、いつでも食べられるという。何でも好きなものを食べられる。そのヒントとして、何を考えられる？ 平和ちゅうの。

哇森 やっぱり今の世の中じゃ、わからないよね。

牧 不足がないものね。なんか不足があるとしたら、お小遣いが足りないとか、親がうるさいとか、そんな程度だと思うんだけど。だから平和って何だろうって、考えてみてください。このあいだ、僕は学童保育に、ボランティアで行っているんだけど、小学生の3年生まで、戦争の話をしてくれと言うから、ちょうどいい絵本があった。平和って何という。その絵本をもとにして、話したんだけど、その絵本では16項目あるんです。平和というのは、こういうものだよというのが、16項目、書いてあったんだけど、皆さんも、あらためて時間があつたら、平和って何だろうと。それは引っくり返せば、戦争中の苦勞を考えればわかる、と思います。だから平和なんだけど、平和って何だろうって考えても、時間があつたら、みてください。

が大学の予科に入ったころは、朝、予科が???（1缶に?）2本、くれるか、3本???（くれるか?）。全部、買っていくんです。それで安全カミソリで、それを4つに切るんです。それで、みんな、こんな小さいキセルの子どもみたいなのを持って歩いて、それで、それに分けて、タバコを吸う。あるいは回し飲み。そんな時代でした、タバコもね。

で、タバコ、僕もずうっと、今でもタバコを吸っています。クラスで一人だけです。肺がんの実験をやっているんですよ、長年。それで続けているんですけども、ほんとにタバコ、だから何十年、吸っているけれども、一番おいしかったのは、佐藤君なんか知らないだろうけど、海軍で、カッターで沖へ出るんです。???（カッターで訓練するんですけど?）。そして気の利いた班長だったもんだから、それ、沖で休ませて、「おい、タバコを吸え」つって。で、みんなにタバコをくれる。このタバコが人生で一番おいしい、今まで。おいしく感じたんです。それだけ体を動かして、空気のいいところで、吸えないとこで吸ったんだよ。だから人間って、変なものなんですよ。あとでちょっと僕は、この子たちに実験をさす。人間の感覚つうのは、モノがあるときとないときで全然違うんです、ありがたいが。これは体験する以外、ないんですよ。だから、いくら「昔は大変だったよ。こうだよ」つってもね、これはあくまでも彼らには想像の世界です。

牧　　そうですね。

畦森　だからいくらやっても、一応、耳に入れとけ。で、右から左に抜ける。抜けるだろうけど、「昔、こんな話を聞いたことがあるよ」で、いいんじゃないでしょうか。それじゃなかったら、重荷になっちゃいますよね、それこそ、いつまでも、それを引き摺っていたら。だからそれ、人生を、おとなになって考えたときに、「日本にもこういう時代があったんだ。こういうのを経験した大人もいたんだ。それに比べれば」ということを考えてほしい。だから戦争中のことはテレビの、ああいうのもやっているから、そういうのを見て、「ああ、こんなだったのかな」ということで、通過すると思うけども、それでもいいですね。

牧　　それでいいんじゃないですか。

さっき焼夷弾の図解をお渡ししたのは、何のためかということ、ちょっと計算してもらいたいんだけど、これが38発、束になっていますよね。このぐらいの一つの筒が、38集まって、一つの爆弾なんです。それが、B-29は、40個ぐらい積んでくるわけです。と、それが、撒いたときに、38発×40が、1機の積んでくる焼夷弾の数。それがだいたい本所深川だと、325機、来たというんです。それを掛けていくと、38×40×325、掛けると、約49万4000発なんですよ。約50万発。で、この筒一つが、ものすごく火力のある焼夷弾だから、それが50万発、ばら撒かれたら、火の海になりますよね。

それで、ことに本所深川は、川が多かったから、逃げ惑う。夜だし、逃げ惑って、焼け死ぬ人が多かった。神田ですら、15メートルぐらいの道路が、火が地を這って、反対側に燃え移るぐらい、火は強かったですけど、われわれは昼間でしたから、まだ逃げられましたけど、本所深川だったら、夜だったら、ものすごい火力なると思います。

畦森　あれ、焼夷弾、上でパパッとなるんですね。

兼田　ああ、途中でね。

牧　　300メートルぐらい上で、ばらけるの。

り。それから、われわれの時代でも、紙がなくなると、新聞紙の紙でお尻を拭いていました。そんな時代だった。もう今はウォシュレットがなきゃ、イヤだって言ってる。でも、あのしゃがむのが、体にいいみたいです。足腰のためにね。

兼田 鍛える。

畦森 そんなことを聞いたことがあります。

それから、それで便所というのは、海軍では廁つった。昔の言葉だね。僕ら、廁。だから彼も廁。廁当番というのがあって、海軍で。廁当番というのが、海軍にあったでしょ。必ず廁当番。だから戦後も便所掃除なんていうのは、ほんとに苦にならないですね。だからそんなのは、きみたちも便所の掃除なんかでも、ちょっとお母さんの手伝いをして、やっていると、そんなに苦労にならないから、だから何でもやったほうがいい、今のうちに。

だから今のうちに勉強するのもいいけれども、さっき言ったように、見たり聞いたりするのも全部、勉強になるんだから、それをしまっという、難しく考えないでいいから、やるだけ、何でもやってみて。

牧 今、畦森さんが言った闇市というのは、それは、僕は神田に店があって、会社があったから、神田駅のところに広場があって、そこへ闇市がずうっとできたわけです。で、闇市では、何をするかというと、米軍の払い下げた食料、米軍の食堂から出た残飯が、こういうバケツに入って、運ばれてきて、それをお鍋でグツグツ煮て、それを提供して、一杯いくらって食べさせて。だから中にタバコの吸い殻なんかも入っているわけです。そういうのを取り除いて、大きなお鍋でグツグツ煮る。

それから今、お話が出ていた、お芋を、何でも、今のような、おいしいお芋じゃなくて、大量生産されたお芋を煮て、それに食紅なんかで色をつけちゃって、それを売る。だからみんな、その箸とか、スプーンなんかないから、みんな、ポケットに箸とか、スプーンを持って、歩いていた。いつ、なんか食べられるものが売ってれば、そこで食べるというのが、それほど切迫していたわけです。食べ物が無い。

それで、われわれは電気工事だから、電信柱の上へ登って、配線なんかすると、電線の切れっ端。こんなものでも、うっかり下に落とせば、ワァッと何人か来て、拾っていきますよ。だからそういうものを売って、お金にしようという人もいるし。だからわれわれも、自転車で、上へ登るときは、自転車を鎖で括り付けないと、自転車がすぐ、下りてくるまでにはなくなっちゃう。モノがないんですから、とにかく。食べるものと、いろんな生活必需品がないから、それはもう今、トイレの紙が、今のようなトイレットペーパーはないから、新聞紙を使うということだってあった。

畦森 先生はタバコを吸います？

兼田 前は吸っていました。今はもうやめちゃったんですけども。

畦森 きみたちのお父さんたち、タバコを吸う？

生徒 お祖父ちゃんが吸ってました。

副会長 今は吸いません。

畦森 タバコは、戦後はタバコは配給で、配給のあとは自由販売になった。ばら売りしていた。僕

結局、ついこのあいだ、女房を亡くしたんだけど、何が今まで、考えて、人生、幸せだったかなという、やっぱりいい結婚をして、幸せになること。これがすごく大事。だから人生、誤らないでね、しっかりと勉強する時期には、しっかりと勉強して。これ、畦森さんの持論なんだよね。一生の勉強は、ある時期でしかできないんだよ。それがちょうど今、きみらなんだよね。スポンジのように吸い取る勉強をして、しっかりした人間になってほしい。これが、きょう、私がここに出てきた目的。私の目的です。どうぞよろしく。

畦森　まあ、うん、そういう人生勉強というのをね。  
みんな、知らない単語をこれから言います。シラミ、知ってる？　シラミ。見たことある？  
ないね。

兼田　知ってる？シラミ。

生徒　シラミ、僕、小っちゃいころになっちゃって。

畦森　そう？　虫だよ。

生徒　シラミ。頭に付いちゃった。

畦森　なったことがあるの？

生徒　はい。

畦森　戦後はシラミが多くて。で、学生で、DDTというのが、アメリカから入ってきたの、真っ白な、DDT 撒きのアルバイトをやった、区役所に行っただけ。で、トラックに乗って、大きなポンプを持って、回る。それで当時は、引き揚げ者なんかの寮がいっぱいあった。そこへ行くと、シラミがすごい。で、バケツの中に着ているものを、お湯の中に浸けると、シラミがパアと、みんな、真っ白になるぐらい浮いてきて。これがシラミ。

それから言葉で知らないのは、憲兵とか、特高という言葉は知らないよね。知ってる？　聞いたことある？　じゃあ、これは調べてくださいね。それから、われわれのときは、体力検定というのがあった。教練と同じように、土嚢を担いだりしたり、手榴弾を投げたりして、どのぐらいの体力があるかとか、こんなくだらなくことだけだね。

あとは僕らしか知らないのは、闇市。僕はよく、新宿の西口に闇市というのがあって、大学の予科のころ、運動をやって、帰りに、そこへ寄って。そのころは、まだ闇市もきれいになってきましたけど、戦後の闇市と違って。それで、どんぶり一杯のサツマイモ、これを水で溶いて、どんぶり一杯。これ、いくらだったかな、値段は忘れたけど、それを一杯、食べるのが楽しみで。そんなものを食べていたんですよ。これはあれでしょ。

それからパンパンなんていう言葉は知らないね。聞いたことある？　ないだろう。お父さんに聞いてもわからない。パンパン。これも調べてもらったほうがいいかな。それから昔の便所、知ってる？　しゃがむ便所。入ったことある？

生徒　当時、汲み取り式だった。

畦森　声が聞こえない。

生徒　当時、汲み取り式だった。

畦森　そう。汲み取り。で、汲み取りが来ると、たいていのうち、火鉢に醤油を垂らすんです。で、匂いを消す。

だからもう当時は、どこへ行っても、田舎へ行くと、そのころは、ひどいところは糞で拭いた

い状態に放り込まれちゃって、すごくまいりましたよ。

それで学校は、今、こちらの方は5年生まで行ったでしょ。私は上級学校1年生で、同じ年を過ごしているわけ。その1年間の授業はビッシリありましたよ。ただ、ビッチリあるんだけど、3年の修業課程の教科を全部、1年で修める。それは国の方針だったんでしょね。1年で修める。そして2年以降は、さっきと同じように、工場動員にかけられた。だから勉強できない状態で四苦八苦で、とにかく生きていくことだけで精一杯。腹は減るし、ストームは喰らっちゃうし、もうどうしようもない1年間を勉強しました。

けども、畦森さんなんかには褒められるんだけど、そのバンカラ学校で鍛えられたのが、これがやっぱり大事なことだった。社会へ出てからね。それで私は昭和22年に社会へ出たわけ。社会へ出て、ここから先は社会へ出た話になるんだけど、社会へ出て、戦後の日本は、ほんとに大変だった。

獨協時代は、何が不足だつっても、親は健在で生きていたでしょ。まともにちゃんと獨協としての勉強をさせてもらったわけ。ありがたかった。だけどね、戦後、昭和22年、社会に出たときには、親はもう戦争で、空爆でやられて、腑抜けになっちゃうし、どうしようもない。食うものはない。カネは新円封鎖。

新円封鎖なんて聞いたことないかな。調べてほしいよね。今のギリシャもおかしくなっている。ああいうのが、日本でもって、そうとう強烈な手を打ったから、今日、立ち直っているんですけどね。今まで積み重ねていた財産は全部、差し押さえになっちゃっているんですよ。それで、食うや食わずの状態、私は会社に勤めて、とにかく昼も夜もなしに、働いて、働いて、がんばってね、わが家の生活を成り立たせてきた。それが畦森さんに言わせれば、非常にやる気を、この何ていうか、しっかりとした、やるという意志を在学中に持たせた。そのことに関しては、あの戦後の非常にひどい状態は、非常に、もうりっぱな先生だった。戦後の姿そのものがね、先生だ。そういうふうに思っています

それで戦後、製薬会社を定年になって、アイソトープ協会へ勤めたわけですよ。そのアイソトープ協会というのは、先ほどもちょっと話に出した、原子力発電所で廃棄物のアイソトープ、放射線を出すアイソトープが出ますよね。これがあるんで、原子力発電所が社会の一般的な批判を受けて、世の中で反対、反対ってなるわけ。その事業所の立ち上げに、私はスカウトされて行って、盛岡で生活をしたんだけど、それね、成功したんです。20世紀最後の成功事業所だよ。で、仕事としては、私はりっぱな仕事をしたと思うんだけど、そういう心意気とか、いろんなのは、在学中に何を習ったなんていうことよりも、もっともっと大事でね、いかに生きていくかという、それを教えてもらった。それが私にとっては、後輩である皆さんに、しっかりこの機会にお話を伝えておきたかった。そう思いますけど。

それで、きょう、世の中は戦後70年ということで、いろんな、新聞でも何でも、調子良く、いろんなことを言って、知ったような顔をして、戦争はしないようにとか、いろんなことなんだけど、私が行ったバンカラ学校は、おまえたち、小利口になるなということを、すごくやられましたよ。小利口になるな。意味はわかりますよね。要するに目先の利いた、ちょこちょこっと、うまくやっちゃうというのはね。それから、なんとなく偉ぶったようなことをやる。そういうのは、徹底的に叩かれたからね。で、そういう一つのしつけというか、教育というか、その中で育ったのが、今日??? (4人の中の私が一人?)。

た巻き直して。あ！ゲートル、知らないつったね。ゲートルを巻き直して、それで亀戸まで歩いて、二人で。そして、焼け跡全部、探して歩いたけど、わからない。それで、もう疲れきっちゃって、夜、うちへ帰ってきて。それでしばらくその友だちは、うちにいたんですよ。うちは獣医さんで、それで子ども、ぼんぼんで育てているものだから、何もできないし、しばらくうちにいて、それから、うちが強制疎開ってなった。強制疎開というのは、もう有無を言わず、うちをぶっ壊すんですから、補償も何もない。で??? (吉祥寺?) のほうに疎開して。

で、そこから今度は、その友だちは、麻布獣医に合格していたんです。当時、専門学校ですけど。それで、とにかく、じゃあ、学校へ顔を出す。で、学校へ顔を出したんだけど、学資の出どころがないんです。学費がね。それで中央線の駅員をやっていました、アルバイト。それでも学校、どうしても行かれないというので、学校をやめて、山梨の変電所へ勤めた。それから僕も交流はありましたけれども、そういうふうにして学校を断念した連中がいるんですよ、何人も。だからそれが一番かわいそうでした。学校へ行かれないというのがね。学校へ行きたくなくても、無理に行かされるのもいる時代とは、ちょっと違いますよね。

牧 今、ここに、江東区とか、あちらのほうにお住いの、台東区にお住いの人いる？  
兼田 江東、台東、いますか？  
牧 いわゆる昔で言う下町。隅田川の向こう側の。いない？  
畦森 いない。  
兼田 いない。ちょっと今、でも、結構、最近は千葉のほうに行ったりしますね。市川とか。  
黒岩 千葉まで行っちゃうわけ？  
兼田 亀戸、下町。いわゆる下町も、向こう、川向こう。  
牧 今、畦森先生の言った友だちの本所深川は、空襲で、一晩で、10万人、約、死んだんだけど、なんでそうなるかって、ここに焼夷弾の絵があるから、回して、見てください。

中村 獨協はやられなかったんですね。  
牧 やられないです。  
黒岩 あのね、獨協がやられなかったんだけど、空襲は受けているんですよ。さっきから話の出るイモカン。これが一生懸命、やっぱりですね、防火、水バケツ、あれしてね、努力してくれた。それは聞いているの、卒業後。  
それで、今、5年生まで行った人の話。それが中学5年生のときが、造兵廠と服部製作所というのに分かれて、そこで勤労働員を受けていたわけ。それで私は4年で進学しちゃったから、そういう体験なし。なし。でね、高等工業へ進んだわけです。で、その高等工業へ進んで、これはもうね、ほんとにぶったまげたのは、パンカラ学校なんですよ。獨協みたいな品のいい学校じゃなく、とにかく激しいんだよね。パンカラ学校。  
まず、行った、もうその日から、ストームで、メツチャクチャにかき回されちゃって。もうストームってね、言葉すら、皆さん、知らないと思うけど、要するに先輩からの、今で言う言葉を使えば、いじめ。いい言葉を使ったら、激励。で、ストームでかき回されて、私は4修で行っているから、英語はできない。勉強も少し足りない。そういう中で、勉強のできな

僕ら??? (ニイ、サン、ヤリュウモ?) 貰ったんだ。それで獨協の夜勤というのがあったんですよ。交代で泊まり込んで、そして4年生? あと、4年生がいたか。5年生が、僕ら、5年のとき、5年生が??? (アタマニナッテ?), 4年生がいたんだな。で、たまたまその当直のときに、そのワインを貰った。葡萄酒。ワインなんだけど、葡萄酒だね。それを貰って、そのまま学校に来て。そうしたら英語の先生が、この先生も学生と仲がいい。その先生も貰ってきた。

それで当時、小遣い室があって、周りに畑があって、小遣い室があったんです。8畳ぐらいのね。で、囲炉裏が切ってあって、その囲炉裏で宴会が始まっちゃう。それで食べるものが何もないなど。小遣いさんが、そうしたら作っていた葉っぱをつまんできて、とにかくなんか茹でて、醤油かなんかかけて食べたんだな。

そうしたら、10時か、11時ごろ、空襲警報が鳴る。明かりを消して。当時は電球に黒い布を被せて。あんなもの、空から見たら、何ていうことない、被せて。そうしたら、そのうちにさっきのイモカンという先生が、ちょうど当直だったんです。知らなかった。「5年生、いるか?」つって、探して歩いている。そのうちに、小遣い室に来て、空襲の最中なのに、電気をパッとつけちゃってね、「いないか?」つって、やって。それで照らしたところに、今、もう、これ、慈恵に行行って、教授になった。そいつと、もう一人いたのかな。それ、力があるものだから、襟首を掴まれて、逃げられない。そうしたら、僕の仲のいい奴が、小遣い室のハキダシ。ハキダシって知ってる?

兼田 ハキダシって知ってる?

生徒 聞いたことがない。

畦森 排き出しって書いておいてください。それで、あとで調べなさい。排き出しが……。

生徒 どういう漢字を書くんですか?

牧 排水溝の排なんですよ。手偏を書いて、非常の非。

畦森 ごみを排く。

牧 排く。排き出す。

畦森 それも調べたほうがいい。調べるということは勉強になる。

そこから、一人は排き出しから逃げ出して。それで目白のほうに向かって、逃げ出したんだ、裸足で。そしたら、ちょうど空襲の最中で、おまわりさんに取っ捕まって、それで学校へ戻された。僕はどうしたんだろう? 僕はうまく隠れたみたいだけど、とにかく全部、捕まっちゃって、まあ、殴られる。殴られる、??? (ソノギンカアジメ?)。それで、おまえたちは教練検定合格書保留、下りない。これはね、教練検定合格書というのがないと??? (昇級受験?) 受けられない。だから謝って。そんなことがありました。でも、教頭もやさしい人で、勘弁してくれと。絶対、やるなよ。そういう造兵廠の生活でした。

で、??? (次?) は3月10日の空襲。その日は夜勤。で、うちに帰って、僕は矢来下だったものだから、矢来。で、江戸川橋をずうっと歩く。うちへ帰って、休んでいたら、友だちが訪ねてきて。別れて、だから3時間ぐらい経ったのかな。亀戸に住んでいたんです。うちに帰ったら、うちがない。お父さんもお姉さんもいない。妹とお母さんは疎開して。それで、うちに訪ねてきたんだけど、とにかく一休みしろと言って。で、あるものを食べて、少し休んで、じゃあ、また行こうつって、もう電車も何もないんです。僕もゲートルを、ま

いちいち避難していたら、何もできないので、自分のそばに爆弾が落ちなければ、仕事をしているような状況でしたね。1日置きにね、B-29が、夜、来たら、たまらないですよ。

うちは2月25日に神田で焼けたんです。そのときは、昼間でしたけど、その次が東京大空襲の3月9日の晩です。その前日に神田あたりが、一帯、焼けたんですけど、その焼夷弾という。紙と木の家（うち）が、東京がほとんどそうでしょ。木造の家が多かったですから、それを燃やすための焼夷弾という爆弾をつくったわけです。その火力の凄まじさと言ったら、もうすごいものです。

だからそんな話をすると、長くなっちゃうんですけど。

畦森 だから服部の連中は恵まれなかった。

牧 恵まれない。

畦森 造幣廠はおもしろかった。

兼田 おもしろかったんですか。

牧 造兵廠はね。

畦森 造兵廠というのは、戦犯になった木村兵太郎という人が、大将かな。あの人がトップだったかな。で、板橋にあって、東京の中の大学生。それから女学生。中学生。これが何百人と来ていたんでしょうね。そして、みんな、それぞれが分担で。

われわれのほうは、中学4年生でしょ。これから5年になる。で、竹の台という、今、あるでしょ。昔は竹の台工業。そこの1年下。それから日本女子何とかって、3年生の女の子。獨協生、もてますよ。もうね、ほんとに工員さんを介して、ラブレターを貰ったりね。それから軍のあれだったものだから、食事は、まあまあ良かった。その中でサボる奴はサボって、大きな、その中でね、全体に、獨協生の自由奔放なところが出ていましたね。

あとは??? (大將軍公?) の軍事工場だから、将校と喧嘩したり、?? (一時?)、問題になりましたけど。そんなこともあって、自分で石鹼をつくって、作業着を洗って、きれいにして、オシャレしたり。

牧 だけど、われわれ、服部にいても、あまりにも杜撰な工場管理なので、われわれの仲間が、憲兵隊に行つて、訴えたことがあるんです。そういうように、正義感を持っているんですよ、みんな。ただ、虐げられているわけじゃないんですよ。それが獨協の生徒だから、そういう反骨精神で、正しくしたいと思って、訴えたかもしれないけど、それで、それ以来、訴えて、主に憲兵隊なんかに行つた奴は、内申書が悪くなっちゃった。それで大学へ、なかなか入れなかったって、こぼしているのもいました。

だから反骨精神とか、そういうものはちゃんと持っていたんです。

畦森 造兵廠でも、週に1回、栗饅頭の配給があつて。このぐらいのね、3つぐらいあつたかな。そうすると、先生は残りを??? (カウモモタ?)。それで門の前で、別れるときに??? (カシラギツトリ?)。そうすると、悪いもんだから、「頭(かしら)！」って言うと、「栗饅!」。そうすると、みんな、大笑いして、先生も苦笑いして。

それからたまには葡萄酒、日本の葡萄酒の配給。そのときですよ、葡萄酒の配給を、みんな、

畦森 やっぱり公立よりか恵まれてますでしょ、何でもね。

兼田 そうですね。そういう、やっぱりこう、諸先輩がおっしゃられる、昔からのほんわかした、自由な雰囲気というのは、もうやっぱり生きていますね。

畦森 そうですね。

兼田 それはいろんな意味で血液になっているんですかね。そういうところはあると思います。

そうですね。なんかいろいろと話が広がってきています。もうちょっと、いろいろとお聞きしたいことがあるんですけども、今の話の流れの中で、やはり戦争のときのこと、特に一つは、動員のことですね。学徒勤労動員の厳しさと、もう一つは、やはり何回か出ている、戦後の苦しいですね、その生活ですね。

黒岩 戦後の生活。

兼田 そうですね。そちらのほうに、いくつかお話をお伺いさせていただきたいと思うんですけども、まず勤労動員ですね。牧先輩のほうから、行かれた場所、たぶん牧先輩の。

牧 板橋。

兼田 板橋のほう？

牧 ええ。服部製作所。

兼田 服部製作所。ちょっとそのお話を、お聞かせいただければと思うんですけども。

牧 これはクラスによって、行く場所が違ったんです。畦森なんかは造兵廠という、もう軍隊なんです。

畦森 これは学年で、ドイツ語科の1クラスだけが、服部というところに行ったんです。あと2組と、英語科3組は陸軍直結の造幣廠に。なんでそういうふうに分かれたのかは、わからない。

牧 わからない。

畦森 彼は服部工場。服部工場というのは、非常に待遇が悪くて、食うものも悪いし、待遇も悪いしね。

牧 作業服からして違うんですよ。こっちは国の造兵廠ちゅうと、わりあいきちっとした作業服を、カーキ色は変わらないんだけど、着ているんだけど、われわれ、服部の連中は、民間の高射砲の弾かなんか、いろんな兵器をつくっていたんですけど、そこはもう麻のお米の袋みたいな、ひどい作業服で、もう油を使う。旋盤を動かすんですから、われわれなんか、最初、旋盤なんちゅうのは、見たこともないような機械を動かして、モノをつくれと言われても、もうそんなまともなものは、最初からできるわけがない。と思うんですけど、いわゆる兵隊に、みんな、引っ張られていっているから、熟練工さんがいないから、その穴埋めに学生を動員して、そこへ嵌めたんだと思いますから、それは、何ちゅうんですか、もうほんとに夜勤もあり、交代もあって、夜もやりましたけど、旋盤を動かすんです。で、高射砲の信管かなんかをつくっていたと思うんですけど、いろいろ人によって、つくったのは違うんだと思うんですけど。だからもう夜、夜勤が終わって帰るときは、よく電車の中で、吊り革につかまって、ガクって膝が折れるほど、寝ちゃったことも、ずいぶんありましたよ。

その上に空襲があるんですから。まず昭和20年になってから、1日置きぐらいに、東京は空襲を受けていますから、その空襲警報が鳴るたびに、行ったのは、機械を止めて、防空壕なり、逃げるんですけど、しまいにはもう逃げなくなっちゃいましたけどね、平気になって。

兼田 そうですね。高校で、一応、必修なんだっけ？ 必修ではありますけど。

畦森 あ！そう？

兼田 昔よりは時間は減っているんじゃないかなと思います。獨協は比較的、そういう点では、漢文はやるほうだとは思いますが。

牧 こういう穴の開いたような定規を、漢文のときに。返り点なんかを隠す定規なんかある？

生徒 ないです。

牧 あ！そう？ 昔はよく漢文の本の上に、マス目に穴が開いた、あれを置いて、返り点なんかを覚えて、文章の読み方を練習。僕なんかは練習したけど、そういうのはないのかな、やっぱり。

生徒 読み方というよりも、訳し方を覚える。それが中心。

牧 それは、その漢文の文は、やっぱり中国のでしょ。いろいろと示唆に富んでいるようなものがあるのかな。

生徒 返り点が付いてる中国の漢文、書き下し文。

牧 漢詩とか？

生徒 そうですね。それを日本語訳して。

牧 例えば、「青年（少年？）老い易く学成り難し」なんていうのをやっているのかな。「光陰矢の如し」とか。

兼田 「光陰矢の如し」ですよ。

やっぱり今、どっちかという、ほんと受験でしか考えないので、楽しむというのはね。調子から入って、そのまま、やっぱりスッと入ってきて覚えるというような、そういう楽しみは、なかなかないですね。ただ、すぐ訳しちゃうので、訳しちゃうと、落語の落ちを解説するようなもので、つまらないんですよ。それがなかなかね、その調子で覚えてもらうというのが、一番いいんだと思うんですけど、なかなかそうはいかないというのがあると思います。蛇足ですけどね。

牧 この4人の中で、一番、成績が悪かったんだけど、悪い奴が、そういう漢文の、なんかの文章を覚えているんだよ。そのくらい勉強は教室できちっとしていましたよ、みんな。

畦森 だから今、受験勉強なんですよ。そのための勉強になっちゃって。

牧 獨協はいい学校なんだから、勉強してください。

畦森 僕なんか、今、覚えている。ある会で、40、50の人に言っても、通じなかったけど、「兄弟牆に聞げども外その務を禦ぐなり」というのがあるんです。これ、誰もわからないんだね。だから寂しいことになっちゃうかなど。

兼田 確かにもう『十八史略』なんていうのは、今はもう出てきませんからね。

畦森 夏休み、『十八史略』を読みました。おもしろかったですよ。講座作った先生がいて？？？（ゴシヒロクドコヘサンジュウノタミ？）なんていう言葉が、『十八史略』に出てきてね。

牧 今、教室はきっちり勉強しているの？ 学級崩壊なんてないでしょ、獨協には。

生徒 ないです。

牧 ねえ。

兼田 そうですね。戦後のそういうことというのは、いろんな意味で、まだまだ解決をしていないことが多いですね。

畦森 そうですね。

それで同級生でも、4年で旧制高校に入った。旧制高校って、少しですからね。そして4年から入ったのが、何人もいました。ところが、非常に優秀な奴だけでも、戦後、お父さんが空襲で死んだので、家族の生活を守るために進学をあきらめた。これはもう何人もいましたよ。どうやっても上級学校へ行かれない。これは優等生クラスなんです。そういう仲間が、いまだに僕もよく話をするんですけどもね。

だから、そして、4年、5年は動員でしょ。ですから、上級学校を受けるとしたら、みんな、行った連中は独学で勉強したんですね、ほとんど。それこそ僕なんかもそうですけど、神田へ行って、受験の参考書を買ってきて、この問題が解けたら、これは高校、こっちは医大だと。そんなことをして、勉強して、戦後、学校へ、みんな、進学したんじゃないかと思います。

牧 先生、これ、これ、置いていきますから、先生が読んで、皆さんに読ませる必要があったら、どうぞ、それで先生のところに置いておいてください。

兼田 ありがとうございます。

牧 これはもう中に、いろんな獨協時代の写真がある。

畦森 だから昔は勉強したくても、勉強できなかったのがいた。学校へ行きたくても行けなかった。それが時代の環境ね、一番、イヤなことね。

牧 いや、戦争になったら、勉強できないよ。

畦森 まあ、できない。それもそうだけど、さっき、言ったように、生活のために行かれない。だからこれが一番、国のあり方としては、最低じゃないでしょうかね。勉強する者は、自分でも勉強したんだけど、勉強したんだけど、今みたいに奨学金制度も、そんななかったし。だからそれを考えたら、きみたちは幸せだから、勉強というのは、できるときにしなきゃいけない。

僕は大学の哲学で、カントかな、「Ich denke, also bin ich」。ドイツ語です。「我思う。ゆえに我あり」ということですね、有名なね、デカルトですね。

兼田 デカルトですね。

畦森 それから、あれはパスカルの「人間は考える葦である」。

とにかく今のうちに勉強して、ものを考える人間になってもらいたいと思います。その勉強というのは、ものを考える一つの手段として、引き出しにいろいろしまっておいて、大人になったときに、引き出しから引っ張り出して、それで自分の考え、人生をどう考えるか。だからきみたちは歴史をやっているんだから、もういい加減な歴史、ごまかされちゃいけないと思うね。

牧 ほんとにそれは。いろいろ本が出ていますから、歴史の本。

畦森 だから読んで、判断して。

ただ、今の人たちは古文書を、これから読む能力が、だんだんなくなってくると、恐ろしいと思う。今、漢文ってないでしょ。

れましたよ。それは、私はいいいことだと思っているけどね。

牧 だから中学4年生ぐらいで、ロシア語のトルストイの小説を、原語で読んでいたのがいるんですもの、サカモトなんか。だから勉強したし、本をたくさん読みましたよ。今は皆さん、どうなんだろう、本は読むより、こっちのほうかな？ こっちのほうが多いんだろうな。

兼田 本を読んでいますか？

牧 どうだろう、これ。みんな、持っているんだろ、今、スマートフォン。持ってない？

生徒 持っています。

牧 持っていない人いるの？

生徒 はい。

牧 ああ、いるんだ、持っていない人が。へえ！ だけど、本は読んでもらいたいんだよな。いわゆる昔の夏目漱石、僕、何でも。

畦森 この台湾のね、陳以文。台湾から来た同級生で。これはうちが台湾人なんだけど、お父さんは薬剤師だったのかな。

牧 医者でしょ。

畦森 いや、薬剤師だった。それで息子を医者にしたいというので、日本へ寄越して、お兄さんは歯科医になって、それでもう亡くなりました。横浜で、ずっと開業して。それで同級生は、陳以文、カゲヤマと言いまして、日本名にして。これが非常に愛嬌のある男で、中学3年、4年だったかな？ 陸軍の少年航空兵をどうしても目指す。それで当時は佐藤も予科練。そうすると、残っているのが送りにいくんですよね。だいたい予科練は品川が多かったな。品川のホームへ行って、軍用列車に乗って。それで、みんな、手を振って、がんばれよって。あの光景というのは、忘れないですね。

それで、この陳というのが行って、戦争が終わって、シベリアに抑留されて、そして2年か、3年、いた。2年ぐらいいたのかな。そして日本に帰された。ところが、国籍が台湾ということになって、入国って、どうなっていたのかな。それでお兄さんが横浜にいるから、降ろしてくれって言うんだけど、降ろされないんで、日本に立ち寄ることなく、台湾に帰されて。そして、そのうちに消息がわかって、手紙のやり取りをして。で、僕も会いにいたり、向こうも少し落ち着いてから、同窓会に、クラス会に必ず出て。2、3回、出てきましたね。そしてほんとに同級生が好きで、年に、クラス会があると、向こうから、台湾のちょっとしたお菓子だとか、そういうものを送ってくれたりして、ものすごく、死ぬまで懐かしがっていた。

ですから、この男のね、このこっちのほうに書いてあるけど、よく記憶しているんですよ。で、ご飯を食べるときに、陸軍ではこれがあるよね。「箸取らば、天地御世（あめつちみよ）の御恵み、君と親の御恩忘るな」。これを言われて、食事をしたって書いてあるんですよ。で、この写真にも、僕は写っているんですけども、非常に悲しい。だから行くときは日本人、帰るとき、国籍が変わった。私はそれぞれがふるさとへとクルマに乗る姿を見て、ほんとにさびしかった、と書いている。

だからこういうことがあっちゃいけないんですよ、同級生に。非常にこれは思い出すと寂しいですね。

畦森 生徒は全部、剣道か、柔道、どっちかをやらせられたんです。で、寒稽古になると、朝、??（タイソウ?）のころ、起き出して行って、暗いうちにね。それで学校に着くころに、少し明るくなって。それで柔道の者は柔道、剣道の者は剣道に分かれて、練習してという。

牧 皆さん、予科練なんかの海軍なんかで、精神バットなんて聞いたことない?

生徒 精神バット?

牧 うん。

畦森 ないね。

兼田 聞いたことはない。

牧 経験者がここにいますから。その精神バットなんちゅうのは、どんなものだった。経験しているだろ?バット。当然。ねえ。これ、話を聞くと、想像を絶しますよ、皆さんの今の時代からしたら。とにかくバットでお尻を殴るんです、教官が、上官が。

佐藤 それで日曜日なんかは、みんなでそれで野球をやっているんですよ、バットで。

牧 で、そのたるんでいるという、ただ単純な、見た目で、たるんでいるというだけで、殴られるんです。そういう時代があったんです。

われわれ、今、写真で回っている習志野へ行ってですね、われわれ、兵舎みたいなどこへ泊って、そのうちの一人が、なんか民謡を歌ったんですよ。誰かが歌を歌ったんです。そうしたら、それを配属将校が聞いていて、「今、誰が歌ったんだ」。で、それを誰も「僕が歌いました」って言わなかったものだから、そこの一クラスの者を全部、並ばせられて、一人ひとり、前に行行って、往復ビンタを受けたことがあるんです。そういう卑猥な歌を歌うのは、何ごとどと言うんですけど、卑猥な歌なんかじゃないんですよ、民謡を歌ったと思うんですけど、その配属将校は、「おまえたち、たるんでいるから並べ」つって、学生ですら、そういう時代だったんです。

それから校庭で、配属将校がサーベルで生徒を殴って、ここが割れて、血を流したことも、一度、ありますよ。その殴ったほうが、今度慌てましたけどね。とにかく精神論がすごかったんだ。だから予科練の軍隊のことは、こちらがよく知っているから、質問があれば。そのほかね、どんどん聞いてください、時間がないんだ。

生徒 ちょっと質問させていただきます。

牧 いや、座ったままでいいよ。声は大きくしてな。

生徒 授業のこと。学校の中で授業があるじゃないですか。その中で授業の雰囲気は、例えば静かだったか、騒がしかったかとか、そういうことをお願いします。

牧 それは、とにかく、けども、みんな、真面目に勉強した。学級崩壊なんて、ありえなかったもの。先生は怖いものだと思っていたもの。尊敬もしてたし。

黒岩 あのね、しつけ。しつけはしっかりやりましたね。どこも・・・。学校、生活・・・。

牧 しつけは。

黒岩 だから先生の話は、先生のほうを向いて、きちんと聞きなさい。姿勢も良くしなさい。だからガシャガシャ、自分でやったり、内職をやって、自分でなんかをやっている。これは怒ら

だけど、ほんとに4キロもね。今は5キロのお米を1キロ、減らして。実感が、今、4キロちゅうのはないでしょうから、5キロのお米を、よくご家庭で買うと思うんだけど、あれに1キロ減らして、担いで歩くというのを想像してみたら、重たさがわかると思うんです。

畦森 優等生はサーベル。その辺が違う。

牧 ここにその教練のときの写真がある。習志野で鉄砲を持っているんですよ、みんな。で、今、畦森が言ったように、一番いい人はサーベルを持っているわけ。だからこれを回しますけど、こういう訓練があるわけ。

兼田 サーベルね。これは軽いんだ。

牧 それで、その広い習志野の中、這いずり回される。

中村 今の自衛隊の基地ですよ、それは。

牧 そうなんでしょうね。よく地理関係はわかりませんが。それで兵舎に泊まると、藁布団みたいな、中が綿じゃなくて、草かなんかか、藁が入っているような、ほんとに粗末なものでしたよ。

畦森 ドイツ語からは、幼年学校、陸軍士官学校ね。で、海兵は、英語をやっていないとあれなので、英語科からは、やはり何人か行きました。一人は戦後、海兵出た奴がいたし。

兼田 海軍はもう英語じゃないとダメなんですね。

畦森 いや、もう海兵はね。

兼田 海兵はね。

畦森 当時、陸士・海兵に入るのは、そうとうできてないと。

牧 そうとうできてないと入れない。ほかになんか、どんどん言ってください。

兼田 どんどん質問しよう。いろいろと。私ばかりやっても……。夜間行軍というの、じゃあ、夜8時ごろに集合して、解散。獨協にたぶん帰ってくると思うんですけど。

牧 往復ですから。

兼田 往復で。もうそうすると、もう明け方近くになるんですか。

牧 そうですね。だから眠くなって、寝ながら歩いていて、すっ転がったりしたりしたのもいましたよ。

中村 すごいですね。

兼田 で、帰ってきたら、もうそれは？

牧 解散。

兼田 解散で、家に帰ると。

牧 ええ。

兼田 これはもう昭和16年、7年ごろなんですね。

牧 4年生ぐらいからかな。

—— 18年？

牧 3年生。それで銃剣術という、剣道みたいなのがあったんですよ。防具をつけて、棒で突くやつ。だから僕なんかは、大きな奴に突かれるだけで、すっ飛んでいっちゃいますから、もうほんとにイヤでしたね、もう、そういう。

黒岩 中村さんなんかはさ、イモカンというのは知っているでしょ。

中村 ええ、知っています。

黒岩 聞いたことありますよね。

軍隊を定年で、学校へ配属になった先生が、畦森さんが、さっき、しゃべった、2人、准尉の先生がいたわけ。教練の担当。そのうちの一人が、イモカンと言うの。ジャガイモみたいな、感じがね。とっても実感が出ている。それからもう一人は、アイカンつって、アイザワ先生なんで、アイカン。

非常に教練というと、学問的な価値はないかもしれないけれども、楽しい学園生活の一つの要素でしたよ。そんなのがありましたよね。

兼田 先ほどの畦森先輩の話だと、この二人の方ですが、とてもやさしかったという。

牧 ??話、??話している。

畦森 やさしかったけど、殴られた。

兼田 なるほど。教練というのは、毎日、ほぼあるんでしょうか。

黒岩 うん、時間、多かったね。

畦森 多かったね。

黒岩 あの当時の??からね。

兼田 体育並みに、もう校庭に出て、やるというふうなやつなんですね。

牧 這いずり回って、それ。で、三八式という鉄砲を持たされるんですよ。で、僕みたいな小柄な……。

なんか、みんな、大きな人と同じ三八の歩兵銃を持たされる。それが約4キロあるんですよ。結構、2番目の人ぐらい、僕は小さかったので、だからその鉄砲のほうが高いぐらいだったんだけど、4キロの鉄砲を持って、10里、40キロぐらい歩かされるんだよ。獨協から井の頭公園まで、夜中。夜中、鉄砲を持って、歩くようなのが、教練でありましたよ。

生徒 すごい！

兼田 夜、集合するんですね。

牧 ええ。

兼田 夜、学校に集合して。

牧 夜、わざわざ。

畦森 40キロ行軍という。

兼田 40キロ行軍？

牧 そう、40キロ行軍。

兼田 すごいですね。

牧 はい。だからここから吉祥寺の先まで歩く。

黒岩 大国魂神社の話でね。

畦森 そう。

中村 府中のほうですか。

牧 府中。

兼田 カネゴンって言うんですよ。昔、「ウルトラQ」という怪獣シリーズがあって、あの中でカネを食う怪獣がいましたね。それがカネゴンという。それでカネゴン、カネゴンと言われてはいますけど。そんな感じですね。ええ。

牧 ああ、そうなんですか。

生徒 で、そういう綽名もあるんですけど、あんまり、何ていうか、そんなないんです。あんまりないので、やっぱり昔の先生、ちょっと、いろいろと親しかったから、ニックネームがたくさん付けられたのかなというふうな、ちょっと思っ。

畦森 そうじゃないと思いますね。親しいから綽名を付けるとか、親しくないって、そのね、親しい人には親しいような綽名、嫌いな先生なら嫌いな綽名。こうなりますね。

兼田 なるほど。

牧 それはわりあいしていましたね。

兼田 なるほど。それ、皆さん、自由に、だいたいそういう先生のキャラクターみたいなのがわかってくると、だいたいそれに合わせた。

畦森 そうです。それは先輩から来るんです。

兼田 先輩から来るんですか。

畦森 ええ。

兼田 先ほど、殺人鬼なんていうのはもうだいたい。

畦森 あれはわれわれが付けた。

兼田 あ！さすが。

牧 嫌われている先生は、そういうふうな、われわれだけで付いているんですね。

兼田 なるほど。

牧 だからダイナマイトなんちゅうのもいましたし。

畦森 あれも上から来たんだけど、新しい先生は、われわれが付けた。

兼田 なるほど。一つの、一種の遊びみたいなことですね。

畦森 そうです。だから綽名を付けるのも、生徒の感覚。

牧 センスがあります。

畦森 これも大事ですね。

兼田 そうですね。

牧 だから少ないちゅうのは、ねえ、ちょっと。

畦森 考えて、付ける。

兼田 考えて、付けるんです。

牧 どんどん。それで自分たちだけで、呼び名で、先生と親しく、そういうふうな話すってね、いいと思いますよ。悪いことじゃないですよ、ニックネーム。

畦森 皆さんのころもあったでしょ、みんな。

柳原副会長 ちょっとわれわれのときは、案外、ほとんど当たり前でしたけど、先生。

牧 昔はそうだったんですよ。

獨協と、獨協の雰囲気とそれと、それにうまく融合しているんです。だからわれわれの仲間  
は同窓会を、卒業以来、一時、途絶えていましたね。でも、せいぜい5、6年かな。それから  
僕らも始めたんですよ。いまだに毎年、やっています。

だからそんなことで、獨協の特に学生時代の思い出というのは、僕はそんなとこです。あと  
は、勤労働員の話になると、これ、また長くなるので、これは本にも書いたんですけども、  
また、何かこれ、ご覧になったと思うんですけどね。これ、結局、教練のことだとか。

兼田 そうですね。読ませていただきました。

畦森 大したことは書いていません。何か、かえって逆に聞いていただいたほうが答えやすいかも  
しれません。

兼田 なるほど。

牧 先生、時間は何時まで？

兼田 一応ですね、こちらのほうで、12時半ぐらいまで予定しているんですけど。

牧 じゃあ、あんまり時間がないから、逆に今、畦村が言ったように。

兼田 じゃあ、質問をしたほうがよろしいですかね。

畦森 したほうがいいよね。

牧 聞いていただいたほうが、断片的に話をしたんじゃ、皆さんのほうが理解を、なかなかでき  
ないと思うんだけど。こういうところを、先輩、聞きたいというのが、当然、おありになる  
と思うから。

兼田 一応、昨日、今まで勉強したことを含めて、こんな質問をしようというのをやっ  
て、最初に、じゃあ、学校生活のことについて、菅田君かな、一応、考えたことがあるんですよ。

畦森 ああ、そうなの。

牧 どうぞ。

兼田 はい。

生徒 たくさんの資料を読ませていただいたんですけど、先生にニックネームをたくさん付けて  
らっしゃいますね。

牧 はい。ニックネームは付いていました。

兼田 綽名ですね。

牧 ええ。付いていましたよ、ほとんど。

生徒 今、僕の学校というか、獨協では、あんまり、そんなたくさんニックネームが付いている先  
生はいない。

牧 兼田先生、何ちゅうの？ ニックネーム。

生徒 ちょっと本人の前。

牧 いいんだよ。本人の前だって、そのぐらい先生は理解しているよ。

生徒 まあ、一応。

牧 いや、だけど。うん。

兼田 いや、私自身、カネゴンって言うんですよ。

牧 え？

よくありますよね。それがだんだん広がってきて、そのころは治療法も、今もないと思いますけれども、九段にナンリュウドウ（南龍堂？）という、今から考えると、中国の人だったと思うんですけど、医者がいまして、そこへ全国から集まったんです。どんな方法かという、その毛の抜けたところを、カミソリでジョキジョキ剃って、そこへ麻酔をして、そして三枚刃のメス。これ？？？（ガンセツ法って出てるん？）です。それでビーと傷をつけて、膏薬を貼って、包帯を巻いて。そういう治療法があった。今はないですね。だいたいもう当時も、光線を当てるとか、塗り薬しかない。これはあまり効果がない。そこへ中学の2年から通って。

そうすると、どうしても子ども心にも、ちょっとうつになってくるんです。それで、その約1年近く。そのあいだに僕は図書館へ通って、本を読む。それから矢来下に住んでいましたので、神楽坂が近く。当時、神楽坂には寄席があった。寄席にも入り浸った。いろんな話を聞く。これは非常に、将来、勉強になって、役に立ったんです。

それで気がついたら、3年ぐらいになったら、成績がガタンと。で、これじゃ、いけないというので、中学1年生から、もうドイツ語、数学、物理、化学、全部、教科書をおふくろが取っておいてくれたので、それをまたやり直したんです。そうしたら、半年ぐらいで成績がバーンと真ん中以上に。そういうことがありました。だから、それが、また許された獨協というのは、僕は非常に……。

同じ小学校から獨協へ入って。で、また府立に。うちのほうは府立4中が、今の戸山高校です。それが進学が多かった。そして英語科に入って、1年生が終わってから、府立に転校した仲間が何人かいました。で、みんな、後悔しているんです、府立へ行ったのが、イヤだ。獨協にいれば良かった。というぐらい、獨協というのは、わりあいに、それは教練やなんかもあって、つらかったけれども、おおらかでした。そんな僕は中学の低学年のときの思い出があります。

高学年になっても、ちょっとバカなことを、いろいろやりましたけれども、獨協というのは、当時、いろんな人がいる。剣道のイマイズミ（？）師範という人のお弟子さんが、これ、殺人鬼つって、鉄の棒を持って、歩いているんです。それで頭をガツンってやったり、背中をビターンと叩いたり。僕もやられて、コブができたことがありますけど、そのぐらいの時代でした。

案外、良かったのが、当時、昔の兵隊さんで、兵隊さん上がりで、准尉、特務曹長の先生が2人いたんです。この方が教練の基本を教えてくれた。この二人は非常に情愛のある、やさしい先生でした。その影響を受けたのが、あれ、みんな、多いんじゃないかと思います。あとはもう職業軍人の配属将校というのがいました。これはもう威張ってばっかりいて、それで千葉県の習志野に、教練、野営するわけです。それで兵舎が、ずうっと習志野にあって、そこで這いずり回ったり、なんかして、教練をやって、そこへ泊って。それで、また、這いずり回ると、そんな。だからこれ、3年かな？ 3年生ぐらいだったかな。4年じゃない。それで、そこで、あの辺はマクワウリが取れる。誰かがマクワウリを食べて、全員、整列させられて、軍刀でぶん殴られたんです。だからそういう時代でした。それでも、「あの将校、ぶっ殺す」なんて思ったことはなかったんです。時代に翻弄されて、しかたないとあきらめたのかもしれない。でも、みんな、年をとってくると、それが一つの思い出として残って、何か

と、これから、皆さん、将来がありますから、外国のほうへ出掛けていていただきたいと思います。

あとから、いろいろ話が出るとは思いますけど、とにかく獨協の時代は、あんまり勉強する時間というのがなかったことは事実です。もう3年生から勤労動員に行って、自宅から工場へ通うというのが、毎日でした。学校に来たのは、確か週に1回ぐらいしか来ていません。だけど、みんな、獨協の伝統というのは、今はわかりませんが、非常に、わりあい自由な雰囲気がありました、戦争中でも。だから下級生をいじめるとか、それから軍隊式に威張るとかということは、まず少なかったと思います。

そのように、獨協には伝統もありますから、いい伝統を、ぜひ皆さんに受け継いでいていただきたい、と願います。また、いろいろお話ししながら、あと、進めていきたいと思っています。どうぞよろしく。

兼田 よろしくお願ひします。ありがとうございます。佐藤さん、お願いします。

佐藤 私は学校を卒業せずに、途中から海軍へ行ってしまいましたので。それが昭和18年です。予科練へ志願して、10月に入隊しまして、終戦まで、あちこち、航空隊を回って、最後は山形県の神町という、今、飛行場が、山形空港がございますけれども、そこで終戦を迎えて、復員してまいりました。

ですから、ちょうど私が海軍に入ったころは、だいたいドイツ語科から、150人ぐらい行ったんですけれども、そのうちの一緒に三重の海軍航空隊へ入ったのが、4人おりました。みんな、終戦まで、戦死もせずに、無事、みんな、復員したと思います。

そんなことで、ちょっと特殊な形になりますけども、卒業もせずに戦後、また学校をやり直して、設計事務所などをやっておりました。

私どもが入った海軍のときは、たった4人でしたけども、その1年あと、昭和19年になると、約、その10倍の1500人ぐらいの予科練の人間ができたようでございます。とにかく当時は学問よりも、とにかく戦争というような時代でしたので、高等学校を卒業せずに、終わってしまいました。略歴、そんなことでございます。

兼田 どうもありがとうございました。

今、一応、諸先輩のほうから、それぞれ自己紹介と、それから獨協に対する思い、さまざまな思いを聞かせていただいたんですけども、一応、全体の流れとして、まず最初に、入学されてから、だいたい昭和17年ぐらいまでは、いろんなお話をお聞きしても、なんとかドイツ語を含めて、授業らしいものが、行なわれていたようでありまして。その中での日常生活。どのような授業があったりしたのかも含めて、最初にですね、その点について、畦森先輩のほうから、いろいろとお話を、学校生活に関して、何か印象に残っていることとか、ありましたら、お聞かせいただければ、ありがたいんですけども。

畦森 そうですね。僕はいい加減な学生、中学生でした。遊んでばかりいましたね。とにかく珍しかったのは、ドイツ語でしたね。

で、自分のことしか、わかりませんけれども、中学2年生のときに、僕は頭にハゲができて。

いや、ほんと恵まれた人が、両親が、昔の中学、それから専門学校、大学。これはもうほんとにわずかだったと思います。ですから、そういう意味では、まったく違うわけです。

それと、われわれのころは……。昔の獨協の名前を知っていますか？

生徒 獨逸學協會中學校。

畦森 獨逸學協會中學校ね。

それで旧制で5年制。そして5年制で来て、それで昭和20年に5年生が卒業。同時に4年生も卒業。これはこのときだけ。なぜ4年生が繰り上げ卒業したかという、兵隊に引っ張るため、4年生で卒業。で、卒業式もやっていません、われわれは。だから本当は同窓会でも、昭和20年卒となると、4年卒と5卒がありますので、20年卒で、物故者の名前が出て、4年卒はわからないです。ですから、これはもしできるならば、4卒と5卒に分けていただきたいと思います。

それから、われわれのころは、英語科とドイツ語科。ドイツ語科は3クラス、英語科は2クラスかな。まるでドイツ語科と英語科と性格が違ったんです。これ、ドイツ語科というのは、獨協の本来の伝統的な部分を握っているから、のほほんとして、非常に自由で、悪戯する奴もいるし、勉強する奴も。これ、もうごちゃ混ぜでしたけれども、非常に良かったと思います。われわれが、昭和15年に入学するときは、獨協、開成、麻布、これは並んでいたんです、同レベルで。で、どこへ行こうか。そのときに、府立を落っこった連中が、だいたい獨協に、みんな、来ています。途中から府立へ、また替わったのもいますけれども。ですから、わりあいに粒が揃っているというか、良かったと思う。そういう、まだ、学校のレベルの時代でした。そういうことの、学校の制度の違いもあった、ということです。

ですから、それともう一つ、皆さん、頭に入っているでしょうけれども、この戦争は完全に負けたんです。僕らは、僕も海軍にちょっと行き、こちらの佐藤君は予科練に行きました。だからそういうことは、元、ちょっとでも軍籍にいた人間が、負けたと言うのは、非常に変な、奇異に感じるかもしれないけれども、ほんとに完全に負けたんです。無条件降伏だったということ覚えておいてください。それで日本は生まれ変わったわけです。

ですから、そういうことを頭に入れて、歴史を勉強して、ほんとにそれを生かして、将来、生きていていただきたいと思います。また細かいことは、また、その時どきにお話します。

兼田 ありがとうございます。

牧 私は牧と申します。この4人は全部、同級生ですけど、私は獨協を出たあと、旧制の専門学校に行って、それから稼業の電気工事屋を継いで、ずっと営業を、商売をしていた人間です。ですけど、今、皆さんが、今、畦森が話したように、日本は完全に負けましたけども、今、日本人としての誇りを持てるような歴史の勉強をしていただきたいと思います。

それは、確かに戦争中は、諸外国にはものすごく被害を与えたということは、間違いない事実だと思います。日本はご承知のように、沖縄だけで地上戦がありましたけど、そのほか、日本軍が攻めていったところでは、非常にその相手の国民に被害を及ぼしたことも、事実だと思いますから、その歴史を正しく勉強して、何も日本人は誇りを失ったらいけませんし、日本人としてのプライドは持っていただきたいけど、加害者としてのあれもよく学んでいただきたいと思うんです。で、卑屈になることはないですけど、それを承知のうえで、正々堂々

## 懇談会記録 (本文)

兼田 じゃあ、諸先輩のほうから、ひと言ずつ自己紹介、していただければと思います。黒岩さんのほうから、よろしく願いいたします。

黒岩 簡単に自己紹介いたします。私たちの学年は昭和15年入学で、昭和20年卒業。ですから、大戦が昭和16年の12月に始まっていますので、卒業まで、ピッタリ、私たちは獨協で過ごしたと、そういう学年です。

それで私はですね、4年で修了して、上級学校へ進学して、山形大の工学部、今で言う工学部ね。当時は高等工業と言いましたけれども、それを outcomes、社会へ出て。昭和22年に、その上級学校を卒業して、製薬会社へ勤めて、定年まで、ピッシリそこでやって、定年後、日本アイソトープ協会というのに行きまして、そのアイソトープ協会で、時代は放射能どうのこうので、非常に社会がうるさい中、一つの事業所、アイソトープ事業所の立ち上げをやって過ごしました。現在、年金で、ゆっくり過ごしています。体があちこち、具合が悪くなって、衰えていますけれども。

戦争中を通して、非常に困ったのは、空襲で我が家が全部、焼けちゃいまして、親父が立ち直れなくて、ほんとに困った。そういう中で立ち直ってきたわけです。どうぞ、きょうはよろしく願いします。

兼田 よろしく願いします。

黒岩 それで、皆さんにお会いして、率直なところ、かわいいな。どうかね、世の中で、今、戦争が終わって、70年なんつって、マスコミ、いろいろ出していますけど、きょうは、獨協の学園で、私たちがどういうことで過ごして、そのあと、どういうふう生きてきたのか、それをよく、一つ、聞き取っていただきたい。どうぞよろしく願いします。

畦森 畦森です。座って、話をさせていただきたい。

まず、きょうは中学生の諸君が多くて、歴史をやっている。諺がありますよね、賢者は歴史に学び、愚者は経験に学ぶ。歴史を勉強する人は、歴史というのは正確に、時の権力だとか勝者に歪められない歴史を、ほんとに真の姿を勉強してほしいと思います。その姿がなかったら、歴史を勉強しても、ただの受験勉強の年譜を覚えるだけで、ほんとに歴史を勉強することにはならないと思います。だからそれを諸君にくれぐれも言っておきたい。

私は、職業はデンティストです。今はドイツ語科の方はいないですね。

兼田 おりませんね。

畦森 ああ、そうですか。デンティスト、歯科医師。で、今、合気道の師範もやっております。そんなことから中学生も、2、3、教えていますけれど、僕が言いたいのは、まず、その歴史に対する学び方をしっかり持ってもらいたい。ということですね。

それで皆さんとわれわれ、いわば異人種。ちょっと見ましたら、だいぶ違うんですね。何が違うか。まず、当然のことながら時代が違う。時代背景が違う。それからご両親ときみたちとは、同じ道をだいたい歩いています。われわれとは全然違う道です。で、われわれの両親で、みんな、今みたいに、新制中学・高校、これを卒業してきた人は、そんなにはいません。

獨協同窓会

副会長 柳原克忠氏

常任監事 中村昭美氏

歴史研究部顧問

兼 田 信一郎（社会科）

高 木 修（数学科）

なお、懇談会の記録の冒頭は私の趣旨説明から始まるのであるが、聞きなおしてみても冗長であるので割愛し、卒業生の自己紹介から起こしている。また、雑談に入る前の私の締めくくりの発言も、話の趣旨をまとめる形で手を入れている。その他の部分は忠実に文字に起こしている。ただし、録音を聴きなおしても不鮮明な箇所は「???'と表記し、後ろに推定される発言内容を記した。また、後半分で畦森氏が生徒に体験をさせる部分では複数の人の発言が重なっており、不鮮明となっていて、「???'が多出するが、ご了承願いたい。記録を文字に起こすにあたっては、メディアミックス&ソフトミックス（株）の協力を得た。記して感謝申し上げます。

2019年2月28日

追記

懇談会の音声記録と映像記録は、USBメモリとDVDにダビングして後日同窓会事務室の方に寄贈する予定である。ご視聴される場合は利用されたい。

8月21日午前9時ころには懇談会に参加される同窓生4名の方々と部員及び顧問、そして同窓会から柳沢同窓会副会長、中村常任監事が参集し、懇談会は始まった。当初懇談会の時間としては2時間程度を予定していたが、昼食を挟んで午後1時間近くまで続いたように記憶している（懇談会の発言記録は2時間3分でその後雑談が続いていた）。

その後、懇談会での内容を踏まえて歴史研究部は、秋の獨協祭で「第二次世界大戦と獨協」というテーマで展示を行い、芽城会（昭和20年5卒ドイツ語科クラス会の名称）の文集の手記内容の紹介や、懇談会当日の様子を映像で紹介し、懇談会で話題となった「三八式歩兵銃」の重さを体験してもらうための自作の道具なども展示した。また、懇談会に参加した菅野祐太君（当時高3）に懇談会の発言記録の要約を作成してもらい、それも同時に展示した。

この獨協祭での展示には一定の評価をいただき、同窓会賞をいただいた。また、獨協祭の期間中、同窓会室でも「戦時下の獨協」と題して懇談会に参加された方々が中心となって写真など貴重な資料を紹介された。この展示の様子や、懇談会に参加された方々の文章、懇談会の様子などは、後日発行された『独協通信』第85号（2015年12月）に掲載されている。この号には同時に、畦森公望氏の「戦後70年「戦時下の独協生を顧みる」—我ら昭和20年卒・現役生との懇談会に参加して—」と題する小文と懇談会参加記も掲載されており、あわせて参照していただきたい。

その後、教頭から懇談会の記録をまとめてみては、という助言をいただいた。また私自身もそのことの必要性を十分に認識していた。今回、ようやくこのことが果たせたのであるが、ここまで3年余りの時間がかかってしまったのは、ひとえに私の怠慢にある。このことに弁解の余地はない。懇談会開催にご尽力いただいた方々にこの場を借りてお詫び申し上げる次第である。

以下に懇談会参加者を記しておく（五十音順）。

#### 旧制獨逸學協會中學校 昭和20年卒業生

畦 森 公 望 氏  
黒 沼 昭 夫 氏  
佐 藤 徳 重 氏  
牧 豊 氏

#### 歴史研究部部員（当時の学年順）

菅 野 祐 太（H3）  
池 上 郁 也（M3）  
岩 井 駿 兵（M3）  
菅 田 隆 津（M3）  
三ツ橋 知 希（M3）  
青 木 優 吏（M2）  
柏 村 憲 哉（M2）  
黒 田 将 志（M2）  
小谷野 翼（M2）  
金 田 宗 悟（M1）

## <教育実践報告>

# 2015年夏に行われた歴史研究部部員と旧制獨逸學協会中學校 昭和20年卒業生との懇談会記録

兼 田 信一郎

ここに紹介するのは、2015年8月21日に獨協中高のミーティングルーム3で行われた、歴史研究部部員と旧制獨逸學協会中學校を昭和20年に卒業した4年生と5年生の獨協OBとの懇談会の記録である。

当日の参加者は、歴史研究部部員10名と顧問2名、昭和20年卒業生として4名の方々、それに同窓会から柳原克忠副会長と中村昭美常任監事の計18名であった。

まず、この懇談会を開催するに至った経緯を記しておく。

2015年は第二次世界大戦終結70年の節目の年であった。この節目の年に当たり、歴史研究部としても改めて「戦争」について考える機会を設けるべきであると考えた。しかし、ではどのような方法をとれば部員が「戦争」について、わが身に引き付けて考えることができるのか、率直に言って悩んだ。実際、筆者も戦争を経験しているわけではない。写真など貴重な資料はあるが、生徒に真に迫る形で問いかけるには限界がある。一方で生徒は、ゲームの氾濫で、「戦い」というものに対する感覚がマヒしているように見える。いろいろと模索する中で考えたのが、今日の中高生と同年齢の方々が戦時下で、しかもこの目白で学生生活をどのように過ごしたか、をお聞きすることで、部員は戦争というものを自分たちに引き付けて感じ取ってくれるのではないかと、ということだった。しかしながら、戦時下の記憶はどのような人でも積極的に話したいものでは決してない。むしろ話したくないのが自然であろう。私を含め戦争経験のない者には、戦争の持つ絶対的残忍さを真に理解することは不可能に近く、むしろ当時の体験をうかがうことはOBの方々につらい思いをさせるだけではないのか、という自問もあった。

そうしたことを踏まえ、旧知の中村同窓会常任監事に相談したところ、昭和20年卒の常任監事である黒岩昭夫氏を紹介していただいた。そして黒岩氏に他日同会事務室でお会いし相談申し上げた。すると、間もなく同窓会の会合があるので、そこで相談してみても、ということになり、15年3月に銀座で開催された会合に出席させていただき、相談をした。

この席上で、現役の中高生に、戦時下の獨協での生活の様子などをお話していただけませんか、とお願いをした。それに対し、この趣旨への鋭い質問も受けた。しかしながら、最終的には懇談会を開催する方向で了承を得た。また、懇談会の日程などに関しても調整した。

その後、歴史研究部の部員たちと20年卒の同窓生の傘寿記念文集の中の手記の一部を全員で読み合い、わからない言葉を手分けして調べた。また、夏休みに前に、千代田区九段にある『昭和館』で開催された特別展を見学し、夏休みには昭和館の図書室を利用してさらに調査し、当時の地図などの復印を集めた。4月から始めた輪読などの活動から夏休みに入るまで、あまり時間はなかったが、部会で手記を読み合わせていくうちに、部員はそこに記されている内容に感じる処があったように思う。

be called a nation or just a renegade province, an independent state or a colony, depending on one's political creed. To be politically neutral, I count the number of the United Nations member countries I have visited. For this reason, places like Taiwan and the Vatican are not included. Likewise, Hong Kong, Macao, Puerto Rico, Guam, Saipan, England, Scotland, and Wales are not counted as they are considered part of large nations.

grass. The instructor gave up and started pulling the rein to make it walk with me on its back. I felt like an old criminal with my hands tied behind and the horse pulled by samurai police.

## Twists and Turns to Satisfy Curiosity

This recollection is my story of visiting 50 countries. I mainly described my first visit to each country and the impressions I got after crossing the border. I have many more stories to tell as I have returned to Hong Kong three times and to Thailand four times. I have also seen the mainland UK twice. I even went back to the US to live there for three years. Recounting all my experience would take too much paper space.

My writing is not structured as it is not focused on a single theme. I just recounted each country by describing the most memorable scene I encountered. Sometimes it was a splendid underwater view or a despicable toilet. Or it can be a friendly smile of a villager or a mean face of a scammer.

This style is the way I go traveling. Wherever I go, I pick up my backpack and take a flight without much preparation or homework. I usually do not set a particular purpose for my trip. I expect the unexpected. Sometimes this can get me into trouble. I had not known until I got to Port Moresby that there was a warning issued by the Japanese Foreign Ministry not to go there for its volatile situation and high crime rate. I was at a loss getting local cash in Burundi because there were hardly any banks accepting Japanese yen.

Still, I do not like preparing. On the first day of the trip, I stroll into a local guesthouse and have a talk with other tourists, who would often tell me what great experiences they have had. After hearing their stories, I decide where to go and set my itinerary. I sometimes stay longer in a place if there is so much to see and do. I am flexible enough to change my plans after meeting a backpacker that I seem to get along with and start traveling together. By doing so, my trips have many twists and turns. The less prepared, the more surprises are likely to lie ahead, which makes my experience more dramatic.

I cannot give a clear answer to the question of why I like traveling. It may be because I want to get away from work stress. Or because I want to practice foreign languages. But the main reason should be that I want to satisfy my curiosity. I love trying new things. I often try eating anything unusual. I got to eat reindeer in Sweden, armadillo in Vietnam, alligator in the US., kangaroo in Australia, and fruit bat in Palau. I do not feel so embarrassed acting stupid overseas. I tried learning horse riding in Mongolia and windsurfing in the Maldives without much success. I feel less conscious about how I look when I fall off a horse or fall into the water multiple times. I also like talking with people and looking into their way of living and thinking. This idea is what I love about traveling better than visiting tourist spots.

193 countries belong to the United Nations, and the number of those I have set foot in is just a quarter of it. I hope to stay curious and fit to visit more places.

\*There is no set definition of “a country” as it often involves political judgments. A place can

#### 47. Myanmar

The reason I love Myanmar is its people. I admire them for being so respectful and calm. They seem to believe it is a sin to express anger. Plus, they are honest, which makes traveling Myanmar very safe. Some people say it is even more reliable than in Japan. I have never had any unpleasant experience with the people in Myanmar.

It is true that traveling around the country involves a lot of inconveniences. Most of the intercity roads are still dirt and bumpy and often get flooded in the rainy season. The trains are extremely slow and shake hard like Disneyland rides. Urinating in a train toilet often results in splashing everywhere on the floor. This underdeveloped stage of the country, however, is what keeps good old Myanmar intact.

#### 48. Sri Lanka

The most memorable thing I had in my week-long stay in Sri Lanka was a train ride through terraced tea fields in Nuwara Eliya. Another thing was a safari in Yaya, where I had sightings of wild bears and elephants. *Āyurveda*, their traditional healing massage was another wonderful memory.

#### 49. Papua New Guinea

The place I wanted to visit in Papua New Guinea was Rabaul a former battleground during the Second World War. This area is where Japan built an airbase and lost a lot of lives in a fierce battle with the Allies. A large portion of this town suffered severe damage after a volcanic eruption at the end of the last century, and many of war remains were buried under the lava. The local people made a special effort to recover Yamamoto Banker where Admiral Yamamoto Isoroku spent his last night before his airplane was shot down. There were also the remains of an old Japanese ammunitions and rusty cannons looking down over a mirror-like calm sea near the equator.

Local people should have good reason to hate Japan as many were mobilized and fatally involved in the war. Yet, the people I met were all nice to me. They said they liked Japan and appreciated Japanese aids. They also said they were proud of a new hospital built under JAICA's support. I hope this is true.

#### 50. Mongolia

Japan was under extreme heatwaves with temperature in Tokyo hitting over 35 degrees every day, when I flew to Mongolia. It was such a relief I felt when I had a cool breeze on my face in the vast grass field stretching endlessly in every direction.

While staying in a *ger*, a traditional nomad's tent, I saw local little kids riding horses like bicycles. Thinking how cool I would look on a horse like a samurai movie star, I hired a horse and an instructor. I got on the saddle and hit its belly with my heels just like the instructor did. No matter how many times I repeated kicking, the horse remained motionless. When I booted it with my full force, the horse looked back at me with its sleepy eyes and then lowered its head to eat

beef was just what I wanted. Irish English, which sounded almost incomprehensible felt like beautiful music.

#### 45. Palau

Besides excellent diving spots, Palau has war legacy, on Peleliu Island, in particular. During the Second World War, America wanted to use this small island as a strategic stepping stone to the Philippines. They correctly measured the scale of Japanese forces hiding there and had ten times as many soldiers surround the island. They naively thought it would not take more than a few days to make the Japanese surrender. What they were not aware of was how well-prepared Japanese forces were. They had built up strong fortifications deep inside caves. The American boats trying to land were hampered by landmines set onshore. Those who barely landed had to deal with gunfire coming out of jungles. Some soldiers were left alone for days without any support from the ship. The American forces, having no idea what to do, set a fire on the whole island but this only worsened the situation. With no shade, American soldiers hiding in the jungle suffered from the blazing heat. They had to spend many nights with little water and food, fearing an attack that could come from any direction at any moment. Of course, the Japanese side suffered just as much. They were ready to keep fighting until they died. They suffered from hunger and cholera coming from lousy hygiene. The sick and injured were left to die inside the cave with little medical support. It took two long months until the Japanese were annihilated with casualties of over one thousand on the American side. A lot of local people were also fatally involved.

One this island I saw many remains of war tragedy: tanks fallen apart or broken zero fighters with Hinomaru covered with red rust. Inside the cave was what Japanese soldiers had left 70 years before. There were aluminum lunch boxes and water holders with many dents. There were bloody bandages in the thickest part of the cave called the medical center.

The island was getting ready for Heisei Emperor's visit scheduled a few months later. The monuments were being made clean, and new pavements were being built. Behind the pillar was the South Pacific with quiet waves, which made it hard to imagine what fierce battle took place 70 years before.

#### 46. Brunei

Brunei is a small country on the island of Borneo. The sultan was once considered the wealthiest person in the world with his vast oil incomes. It is strictly Islamic with no alcohol available, at least in the open market.

Despite a short distance of 160km, the bus ride from Kota Kinabalu took a whole day. The road went through Bruneian enclaves, and the bus had to go through six passport controls on the way. I got to the capital city a little before the sunset. This place was the cleanest capital in Southeast Asia. Golden mosques brightly lit up at night were magnificent.

#### 40. Laos

Laos has a lot in common with Thailand, a country it shares a border with. Both cultures are based on a long tradition of Buddhism, and their peoples are reserved and respectful. The Laotian language seems linguistically close to Thai, and they say they can understand each other. But with less foreign influence, there remain more of its good old days in Laos. Vientiane is probably the quietest capital in Asia, free from smog or noise pollution common in other major cities. Still, its night markets offer a rich flavor of Laotian food, sweet sticky rice that goes well with spicy dishes.

#### 41. Mexico.

I had a life or death experience out of my recklessness. I came to a stream in a Mexican mountain on a scorching day, ready to swim. On the bank of the opposite side, I found a little space in shade of trees that looked like a lovely retreat from the heat. I figured I could swim across easily and dived into the water. However, no matter how long and how hard I swam, I did not seem to reach the shore. The river felt several times wider than I had initially estimated. I raised my head above the water to see where I was swimming, only to find myself having been washed downstream about 100 meters and about to fall into a little waterfall. I could not resist the strong current and the next thing I knew I was swallowed down into the waterfall. I thought my body would crash into the rocky bottom. Luckily the base was deep, and I sank in the middle of the pool like a goldfish thrown into an aquarium. What a relief of air I breathed in when my head finally came back above the water.

#### 42. Guatemala

Things were wilder on the Guatemalan side of the border. I stayed in a small cottage in the forest. It was sweltering down there. The only escape from the heat was a cave tour and a night jungle walk. There was no jaeger and taper sighting I had expected. Instead, I had mosquito bites everywhere.

#### 43. Belize

I had not known there was such a small country called Belize in the Caribbean. Neither had I known Madonna's hit song *Isla Bonita* comes from San Pedro, the capital. Their Embassy in Tokyo was the smallest I had known. It was just one of the rooms in a condominium in Yoyogi between Tanaka-san's and Sato-san's. It was manned by one person who handwrote a visa for me in a few minutes. This little country offered a heavenly experience on a white sand beach in San Pedro with paragliding and manta sighting.

#### 44. Ireland

It was after enduring a week of bland and greasy food in the UK that I crossed the sea to Dublin, Ireland. It was a land of gourmet food. The Irish stew with the rich flavor of simmered

I suddenly stepped back to avoid it but the cyclist swayed in the same direction at the same time. The knack is to go at an even pace, never stop, never run so that motorists will go past either before or after you.

Another horrible scene was a motorcyclist carrying a dozen ducks on both sides of the bike. He was bringing all the birds upside down by tying their legs to a bar fixed horizontally on the back saddle. In other words, their heads were moving just a few inches above the road. Surprisingly, all ducks were being carried alive! It seemed that they were quacking hard in fear, but their desperate cries could not be heard over the noise of the traffic. The horrors of Vietnam were not over even after America retreated.

### 37. South Korea

South Korea is a country where I could walk without being aware of foreignness. Despite language differences and some political disagreements, the state has a lot in common with Japan: they live on rice and sochu, they savor sweating in a sauna and a dip in a hot spring, they love baseball and have professional leagues. The way they root for their favorite teams is also similar with a music band and cheerleaders. The township in the old capital, Gyeongju is just like that in Kyoto with many old wooden temples. I could feel at home as far as I did not get into a political debate over history and territorial issues.

### 38. North Korea

I spent a minute in North Korea when I crossed the unique part of the border at Panmunjom, which was open to tourists, monitored by the United Nations. I just said hi to the unsmiling faces of two United Nations soldiers standing near the edge.

### 39. Cambodia

Cambodia, where I spent a week, was recovering from scars of the old civil war. The country was making a tremendous effort clearing landmines around tourist spots while advising tourists not to step out of streets and roads as they could never know what could be under their feet. Beggars and amputees on the street stretching their thin arms were not uncommon.

It was hard to imagine that a long time ago there were glorious days in this war-torn country with a series of noble dynasties thriving under holiness of Hindu and then Buddhism. The power of people's worship resulted in the creation of majestic architecture. Angkor Wat, in particular, represents the apogee of the country and is depicted in the Cambodian national flag. Initially built nine centuries ago, the whole site of Angkor was covered with unusual ornaments consisting of delicate reliefs and magnificent statues of deities until the terror of the Khmer Rouge largely destroyed it in the 20th century. This tyrannous regime even used this heritage as their stronghold when they were on the verge of surrender in the civil war.

However, I was disappointed with the murky seawater and the trash-ridden beach. A European backpacker told me that I should fly two hours to the Maldives if I wanted an excellent marine experience. So, I left India without discovering the beauty of the country.

### 33. the Maldives

The European was right. Maldivian sea was entirely different from that in India. This small country was made up of hundreds of tiny islands, each of which was owned by a private resort. The seawater was prototypically blue with amazingly clear visibility. I took a boat tour that went to the best spots entirely offshore. It offered a great diving experience. We were greeted by thousands of tropical fish and sea turtles gliding above us.

### 34. China

I was overwhelmed by the aggressive nature of the Chinese. For one thing, they seemed to have no concept of waiting in line. At the train station, they all pushed forward to get to the ticket counter. I learned to be tough and push harder to reach out my hand to get a ticket. Some of them were even violent. Over my week-long stay, I witnessed three physical fights on the streets in the middle of the crowd.

At the same time, people treated me with warm hospitality despite language barriers. Few spoke English, and my Chinese I had developed for half a year with NHK turned out to be nothing but meager. I was welcomed by friendly people everywhere. I met a group of people who were learning Japanese, and we amused each other with our developing stages of foreign languages. A boy I met in a market I regularly visited always greeted me with an innocent smile. Thanks to them, I could be tolerant of the notorious foreigner prices and constantly hearing them say “mei yo” (We don’t have it).

### 35. Indonesia

Bali, Indonesia, a rustic island with slow-paced life was where I took a diving license course. At the local dive shop counter, there was a man who spoke a little English. He said it would take four days to get a license, to which I replied I could only spend three days. Then he said I could do it in three days if I paid for the same amount as a four-day course. I grew suspicious, but I agreed. On the final day, I got what looked like a license signed by the man. When I asked how I could be sure this was a valid license, he said, “Don’t worry. It is an international license!” He sent me out without letting me ask further questions. After all, the peaceful atmosphere of Bali made me forgive whatever happened on the island.

### 36. Vietnam

No other place could be as chaotic as Saigon, Vietnam. The roads are full of motorbikes, but there are hardly any traffic lights. To go across a street, people have to venture into the excessive flow of traffic, expecting the motorists to dodge them. I was once almost hit by a motorcycle when

she had not heard anything wrong about the place I was going to. My French was not good enough to get further information.

The bus went through a scenic view of the Pyrenees. There were no signs of armed soldiers or barbed wires. As the bus was going deeper into the mountains, it was getting snowier. Then suddenly a beautiful ski resort came into my view where a bunch of skiers in colorful wear were sliding down with music played on a large speaker. I felt like Hansel and Gretel straying into a thick forest to find a house of cake.

### 29. Spain

It was already late March when I went down to Spain. It was warm and the sunlight from the clear blue sky was just pleasant. For the first time in this trip, I was able to take off my thick jacket. Plus, I could afford genuinely tasty food for the first time since I came to Europe. As the prices were lower and my days in Europe were numbered, I could enjoy eating without worrying about money. I especially liked fish fresh from the Mediterranean.

### 30. Portugal

Before taking the flight back to Japan, I got to visit Portugal. The weather was even milder than in Spain, and the people all treated me with gentle smiles. The most memorable of all was a lady I asked where I could catch a bus. She spoke no English but went the extra mile to take me to the bus stop. Among the people waiting there, she found someone who could speak English and made sure I would be taken care of on the bus. She stayed there until the bus left and waved her hand to me. This lady alone made Portugal the best country in Europe.

## Short Trips Here and There

As I started working full time, I could no longer afford long vacations. Still, I was able to travel to neighboring counties every time I had a few days off.

### 31. The Philippines

I found a good beach resort a few hours from Manila. I had a great time sleeping in a bamboo cabin with a gentle sound of waves just below me. The sea water was just spectacular. I tried scuba diving for the first time in my life. It was the most fantastic experience with lots of fish swimming right in front of my eyes. I felt like *Urashima Taro* losing track of time in the underwater paradise. How I dreaded going back to work.

### 32. India

I had heard many backpackers excitedly talking about India, and I had been curious to know what it was that attracted them so much. At the same time, I wanted to have a wonderful underwater experience again. So, I chose a place recommended by the Indian tourist bureau in Tokyo as the best beach resort in the country.

country.

#### 25. Belgium

Now that spring was coming to Europe it was not as cold as before. So, I headed north again to spend a night on a train. Belgium was one of such countries as I just passed through without stopping.

#### 26. Holland

I consider Holland the most exciting country in Europe. The people seemed to have a unique sense of freedom. They were smoking marijuana casually in public. It did not smell nearly as bad as tobacco smoke in an izakaya in Tokyo. Another exciting feature was the famous prostitution district in Amsterdam. I walked along a street gazing up windows with women in underwear standing and waving hands down to me. Many backpackers at the youth hostel were excitedly talking about how they took advantage of this free society.

#### 27. Luxemburg

I had not expected more than setting foot in a new country before I visited Luxemburg, but it turned out to be a beautiful and cozy place surrounded by majestic old brick forts. There were not many tourist spots, but the prices were reasonable and the weather was mild. In other words, it was an ideal place for doing nothing. I spent a week there, the longest time throughout this journey.

Spending such a long time, I got well acquainted with other hostellers. Many of them were staying for a long time as well. I especially became close to an Australian man who was always drunk and liked talking about sex. We laughed hard every night exchanging dirty jokes until we got a look of disapproval from the warden.

One day at breakfast in the cafeteria, a Brazilian tourist ran to our table freaking out. He was very upset holding a broken padlock in his hand, saying all the money he had in his locker was stolen. Suddenly the peaceful youth hostel turned into a turmoil. Everyone started talking about how this could have happened and who could be the culprit. Then we found that one person was missing from the hostel. It was the Australian drunkard who disappeared during the night.

#### 28. Andorra

Looking at a big map of Europe, I found a small country located on the border between France and Spain. I asked hostellers whether they knew anything about this country, but most of them just shrugged their shoulders. One backpacker said that it was a stronghold of Spanish communists where they unilaterally declared independence from the government. This story piqued my curiosity, thinking I could be the first Japanese to venture into the forbidden world.

I found it a little strange when I heard there was a regular bus service from the French border to the world of separatists. The woman at the ticket booth said that she had never been there, but

bank and got all the checks back. How great it was to be able to splurge on food and drinks at a restaurant for the first time since I came to Europe. German sausages and beer were a godsend after the week of munching on hard bread I bought at supermarkets in Scandinavia.

#### 20. Austria

I crossed the border into Austria and spent a few days in Salzburg. It is the birthplace of Mozart and the setting of the classic musical movie *The Sound of Music*. It would be a dream destination for music lovers but not for me. All I remember was the cold in the mountains. I hardly appreciated the beautiful nature there.

#### 21. Switzerland

Switzerland was even colder and more expensive. Even a hostel dormitory room cost as much as a single room in Germany. I could not afford to enjoy the beautiful nature of the Alps. I just kept thinking about how to save money as I had to go on traveling for more than a month. I did not even take the bus or the streetcar. I just walked from supermarket to supermarket to look for the best deal of sandwiches.

#### 22. Liechtenstein

I did not know the country Liechtenstein existed until I heard in Zurich that I could go there with a few-hour bus ride. Wishing to visit as many countries as possible, I seized the opportunity to take a day trip to this unknown territory. It was a sunny and warm day when I got there. There was what looked like a festival going on, and there were a bunch of floats with beautiful decorations and people in colorful costumes. I had never seen such a happy scene since I came to Europe. I spent a few hours there. I wanted to stay longer, but I had to catch the bus back to Zurich.

#### 23. Italy

It was warmer down in Italy as spring was coming closer. I looked forward to excellent Italian meals, but those served at cheap eateries were not quite up to par. Things were not as cheap as I had expected and taking a gondola in Venice was way beyond my budget. I kept on walking along canals instead.

The best way to save money was to spend a night on a train. After all, I could get a free ride with my pass and lie down in a compartment. So, I took a train with no particular reason. I even arrived in Rome in the morning and left there on the evening of the same day. I busily moved around from spot to spot taking one picture at every place.

#### 24. Monaco

I was half awake when my train passed through Monaco. I remember seeing out of the window in the dark a station sign that read "Monaco-Monte-Carlo," so I believe I set foot in this

some friends I had met in Thailand. I kept in touch with Matias in particular.

#### 14. Russia

I had an overnight layover in Moscow on the way. It had been less than a year since the Soviet Union was dissolved. I took a one-hour bus excursion offered by Aeroflot and had a short glimpse of the freezing city in February. I saw people walking wearing thick coats and fur hats on snowy dark streets. The tour guide showed us the first McDonald's restaurant that had recently opened epitomizing the end of the cold war.

#### 15. Norway

Again, I found myself in trouble when I arrived at Oslo the next day. When I picked up my backpack at the airport, I found all my traveler's checks gone. It was evident that the airport staff in Moscow opened my bag and stole them. I had nothing but a credit card to tide me over until I got new checks reissued. It was tough because Norway was one of the most expensive countries in the world.

Still, I was able to spend a few days and see the beautiful landscapes of Scandinavia. I was also impressed by how well people spoke English. They were almost like native speakers.

#### 16. Sweden

Matias and I were thrilled to reunite at the train platform in Stockholm. As he made fun of me for losing my money, he said something about communist Russians having no concept of personal property. He was one of the disgruntled residents in the socialistic country. Other local people looked unhappy too. I do not know whether this came from political reasons as Matias said or from the fact that it was mostly dark in Scandinavia with the daytime lasting for only six hours. I myself was miserable too without cash.

#### 17. Finland

While Matias was busy working, I took an overnight ferry to Finland. After all, I got a free ride with my Eurail pass. I spent about an hour in the third country in Scandinavia before taking the same boat going back. Their education level was supposed to be high but Finnish people did not speak English to the same degree as those in Norway and Sweden.

#### 18. Denmark

After promising Matias to stay in touch and send him a kimono, I left Sweden for Dusseldorf, Germany. It was where I was going to get reimbursed for my stolen checks. I changed trains in Copenhagen and had a one-hour layover. That was all that happened in Denmark.

#### 19. Germany.

Dusseldorf is known for its large Japanese community. I visited the office of a Japanese

they just asked me a bunch of ridiculous questions about every item they found in my backpack, like where I got this and that for how much. They even asked me to give them Japanese condoms.

Once I crossed the border, I could hardly find anyone who spoke English and found it difficult to communicate with people. I often heard people say “hakuna matata” in Swahili, meaning “No problem” or “Take it easy.” I was forced to adjust myself to the hakuna-matata way in Tanzania. The country’s infrastructure was poorly developed. Water hardly came out of the hotel tap and I had to stay dusty for a few days without a shower. The train trip across the country was delayed for hours from the beginning, and it arrived at the destination twelve hours late. It had bogged down many times on the way. We had to patiently wait in the compartments in the middle of nowhere with no idea what was going on. All the information we got was that they were having some mechanic issues, but what we saw outside the window was the train driver chatting with local farmers on the side of the track.

### 13. Burundi

The small country by Lake Tanganyika was where I had the most horrendous experiences. For one thing, getting into the country from Tanzania was such an ordeal. Everyone told me different things about the journey across the border and I did not know who to believe. The bus ride was just hellish. They packed twice as many passengers into a minivan, and I had to squeeze my butt into seat space merely a few inches wide. The vehicle was stopped by the police every ten minutes. By the time the minivan reached the terminal in Bujumbura, I could hardly stand with my hip numbed from keeping a bad posture too long.

The reason I ventured into this unfamiliar land was that it was a former French colony and its official language was French. However, it turned out that very few locals spoke French. It seemed that despite French being their official language of Burundi, it was only spoken by the limited number of elite officials.

Then came a nightmare. One day out of the blue, all the public buses stopped running, and they were all replaced with military trucks with soldiers holding weapons. It seemed like an outbreak of an ethnic conflict I had been warned about before. Now I knew why the security had been so tight at the border, with the police excessively nervous about the people coming into the country from Tanzania. I heard gunfire in the distance. I was told that my flight back to Nairobi might be canceled. I remembered a news report I had seen about a Japanese businessman captured by overseas guerrillas. Would my name be on the front page of a Japanese newspaper? I was afraid of becoming like ET, left behind on a strange planet without any means to go home. The worrying days lasted almost a week.

### Fifty-Day Graduation Trip

I took a long trip right before my graduation from university. I was going to travel across Europe with a Eurail pass for 50 days. The primary purpose of this trip was to take full advantage of the last long break before starting my working life. Another thing I had in mind was to visit

of food than in Japan.

#### 9. Singapore

I had heard so many nice things about Singapore and was looking forward to visiting there. However, it was just 18 hours before my flight back to Tokyo when I arrived. I had spent too much time in Thailand and Malaysia before I knew it. All I remember about this country was a quick boat tour through the city.

### Way to Africa

I completed almost all school work in three years and finished job hunting in the summer of my senior year, which meant I had plenty of time to travel after the fall. I wanted this time to be another opportunity to practice languages like French, my second foreign language. The wonderful experiences in Southeast Asia made me fond of traveling in a developing world—this was why I picked Africa for my next destination. Someone told me the best deal to fly to Africa was to go to Europe first and buy flight tickets there.

#### 10. France

Unfortunately, Paris was not a place for a budget traveler. I flew in at midnight, and I decided to sleep on an airport bench to save the accommodation cost. When I woke up, I found my backpack's zipper open and my camera gone. Another problem was that I got hemorrhoids after using thick toilet paper at the cheapest place in Paris.

However, the best story in France took place on a random street in Toulouse. When I asked a couple of strangers with my poor French for directions to the youth hostel, they suggested I could stay at their house. While I struggled communicating with the family at the dinner table, they all took excellent care of me. French may be notorious for not being able or willing to speak English, and often considered unfriendly to foreign tourists. But they were sure to appreciate any effort to use their language.

#### 11. Kenya

With flight tickets I bought in London, I flew to Nairobi. The moment I landed in Kenya, friendly people speaking fluent English surrounded me. On the cheapest safari I signed up, I had a great time with other backpackers, taking pictures of lions or gazelles, spending a night while hearing wild animals cry in the distance and pushing the car that kept breaking down amongst the wild savanna.

#### 12. Tanzania

It took hours for the bus to go through the border to Tanzania. We were made to step out of the vehicle and sit and wait on a dusty road as the line of passengers moved inch by inch. No wonder the passport control was taking so long—the officers were loitering. When my turn came,

confirm the departure time and the seat number in English.

## 6. New Zealand

I even succeeded in booking a flight ticket from Sydney to Christ Church. This made me proud to be a full-fledged backpacker. Hoping to be a “real man”, I dared to bungee jump into a 46-meter deep valley. I felt myself changing.

## First Trip to Southeast Asia

The trip to Southeast Asia I took 28 years ago changed my concept of traveling. It was when I learned both sweet and ugly natures of humans. It gave me a good reason to keep going back. I planned to take the international train going through the Malay Peninsula. I just looked forward to crossing the borders on land, so I added Thailand as the place to start my journey.

## 7. Thailand

The moment I arrived in Bangkok, I got lost because not many people there spoke English. Those who came to talk to me in English were mostly scammers trying to take advantage of naive tourists. I ended up spending five or six times more for a glass of beer without realizing.

Despite this wrong first impression, the positive aspects of the Thai people soon became visible. Aside from those swindlers, they were generally kind going out of the way to help me. When I asked for directions, they tried their best to explain with gestures. In a third-class train car, the fellow passengers just smiled and cared for the foreign tourist who did not speak a word of Thai. The country’s rich nature remained untouched. I was amazed by beautiful beaches with white sand and mesmerized by thousands of stars in the sky.

A mountain trekking tour I joined in Cheng Mai was a real eye-opener. I was with other backpackers from Europe and used English the whole time for three days. We made strong bonds while walking, river-rafting, elephant-riding, and eating by a campfire. I was the poorest English speaker in the group, and this was the first time to realize that there were many nonnative speakers of English having no problem communicating with each other. I became close to one of them, Matias, a Swedish backpacker in the group. He called me the best person he had met. We spent the next two weeks traveling around the whole country.

## 8. Malaysia.

I had a dramatic experience in Malaysia, too. I was on the way to Kuala Lumpur on an overnight bus, but I slept through my stop. Unbelievably, the driver dropped me off in the middle of the highway at midnight. Having no idea what to do, I desperately tried to stop every car heading toward the capital. After ten minutes of waving my arms like a madman, an Indian truck driver picked me up and found me a hotel room. He was kind enough to take the next day off and showed me around the city. I don’t remember much of the tourist spots he took me to, but the taste of the food we had at strolls was unforgettable. They served the same or even better quality

package tour. It was one of those ready-made tours that went through must-see spots like Tiger Balm Garden or Victoria Peak. For me however, it was a dream-come-true moment. Everything was new to me; it was the first time I experienced what was called time difference. What a strange feeling it was to adjust my watch two hours behind when the plane landed. I nervously listened on the tour bus as the guide was telling us how important it was to keep our passports safe and never to drink tap water.

One of the reasons I chose Hong Kong was that I just wanted to practice speaking English. However, our tour spent too much time visiting souvenir shops. It was somewhat dubious the way the trip was ran as the agent earned a commission by sending tourists to those shops. We went to a jewelry shop or an Eastern medicine shop where I felt like a fish out of water. As a student, there was no way I could afford a gold necklace they were trying to sell. As a teenager, I did not need to eat a tiger's penis to stimulate mine. I had to quietly sit and watch other members enjoy shopping. This experience made me determined to go abroad again to use English.

### 3. The US

My next opportunity to use English overseas was a trip to the US when I was a sophomore. I was not yet brave enough to go alone. Back in the late '80s, there were a lot of horror stories regarding the US, New York in particular. People said that a Japanese tourist would be like a mouse amongst hungry cats, destined to be mugged on the street. They also said that taking a subway would be like breaking into a yakuza's office bare-armed. Once again, I joined a package tour, but I chose one that allowed a lot of free time so that I could act by myself.

This time I did have chances to use English but ended up realizing how difficult it was to understand fast speech by native speakers. I had no idea why other people were laughing on a local tour. The story went over my head when I watched a Broadway musical. Still, I enjoyed the adventure of taking the subway to Yankee Stadium at night.

### 4. Canada

When I went to Niagara Falls, I crossed the border and spent an hour to watch the overwhelming power of the water from the Canadian side.

### 5. Australia

My next goal was to go overseas by myself and use English all the time. I chose Australia for my first solo trip because it was supposed to be safe and backpacker-friendly with lots of youth hostels and dormitory rooms. I was thrilled with the prospect of traveling by train in such a vast continent.

At first, I was extremely nervous. I did not even know how to use a coin-operated laundry machine. Due to my poor English, I held up in my dormitory at first. But I soon learned to smile to greet people and then say hi and shake hands. I became confident in my English to the degree where I could manage a minimal communication as a tourist. I was able to book a train ticket and

# Beyond My Little Horizons: A Recount of Setting Foot in 50 Countries

Jun Harada

I woke up with a shock of a “bang” from below and felt my body pulled forward from my seat with a strong force. I saw outside the window lights passing behind one after another as the flight slowed down on the runway. “Here I come, Mongolia the \*50th country I have ever set foot in.” It took me 30 years to reach this milestone after I made my first step abroad.

Backpacking has become a lot easier in these thirty years with the advent of the internet in the 1990s, Wi-Fi in the 2000s, and Google Map and Translation in the 2010s. Now I remember the days I always had to carry a guidebook with me walking from hotel to hotel to find a place to stay, or rehearse many times how to say “I want to go to the train station,” in Chinese. I even had to carry cumbersome amounts of coins for the phone booth to make international calls. I have become much less destitute than I was in my college days; I recall myself munching on hard bread and canned tuna in a park on a cold day.

Now that I have reached this milestone, I consider it the right time to compile a chronicle of visiting the 50 countries through my backpacking career. I will recount whatever memory each place brings back. Sometimes it is a breathtaking view of beautiful nature, a solemn old temple full of dignity, or a silly experience I had. For these reasons, my writing will not focus on a single theme but a mishmash of various episodes.

## Standing on My Feet

### 1. Japan

Born and raised in Japan, I was always curious to know what lay beyond my little horizons, longing to go overseas. One day when I was a little, I was watching outside the window of the Tokaido Line. As the train came to the seashore of Sagami Bay, a hazy sight of land offshore came into my view. I shouted out in excitement, “Hey I can see America, America!” My voice echoed throughout the car and it embarrassed my family. I also liked watching TV programs showing anything exotic: a majestic view of a European castle or wild animals in Africa. I was especially thrilled with an old South Pacific island man who claimed he could chase away evil spirits with his nude dance. I grew up daydreaming of walking down such magical places, seeing something exciting with my own eyes, and conversing with someone crazy with my own mouth.

### 2. the UK (Hong Kong)

My dream finally came true in my first year of college when I got to visit Hong Kong, which was a British colony back then. I spoke little English at that time, and I just joined a guided

— 執 筆 者 紹 介 —

兼 田 信一郎 …………… 社 会 科 教 諭  
則 竹 雄 一 …………… 社 会 科 教 諭  
原 田 淳 …………… 英 語 科 教 諭  
柳 本 博 …………… 国 語 科 教 諭  
青 木 輝 憲 …………… 英 語 科 講 師

紀 要 委 員

兼 田 信一郎 原 田 淳  
高 畑 義 憲

研究紀要 第33号

平成31年3月25日 発行

発行者 東京都文京区関口3丁目8番1号

獨協中学・高等学校 紀要委員会

印刷所 東京都北区王子本町2丁目5番4号

株式会社 王 文 社

